

とっとり キャンパス ライフ2010

平成22年度学生生活実態調査報告書

とっとりキャンパスライフ
2010

平成22年度学生生活実態調査報告書

鳥取大学学生生活支援課

とっとりキャンパスライフ2010

—平成22年度学生生活実態調査報告書—

2010年12月発行

※本報告書利用上の注意

本報告書に掲載されている本学独自の調査データを、引用・転載・コピーして二次利用されることは自由ですが、利用された場合は下記編集委員会（事務担当は発行者欄に記載）宛に利用内容をご報告願います。

発行 鳥取大学学生部生活支援課
〒680-8550
鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地

電話 0857-31-5057

編集 鳥取大学学生生活支援委員会
学生生活実態調査専門委員会



はじめに

偶然にも平成22年は国勢調査の年です。国勢調査は、日本に住んでいるすべての人及び世帯を対象とする国の最も基本的な統計調査で、国内の人口や世帯の実態を明らかにするため、5年ごとに行われています。

さて、本学の学生生活実態調査は全学生を対象に、平成17年度からは隔年で実施されることとなっておりますが、今回は、前回の平成19年度から後述するような事情で3年の間隔を開けることとなりました。

統計法に定められている大規模な国の調査と、1大学の学生対象アンケートを比較するのは所詮無理があるとは思いますが、どちらも結果が活用されなければ多大な労力やコストが無駄になってしまうという点では些かも変わらないのではないのでしょうか。

総務省統計局のホームページの内容を引用すると、「国勢調査は、国や地方公共団体の政治・行政の公正で効率的な運営のために欠かすことのできない最も基本的な統計を得るために定期的に行われるものです。国勢調査から得られる様々な統計は、国や地方公共団体だけでなく、広く民間企業や研究機関でも利用されています。国勢調査から得られる様々な統計が利用できることによって、行政の施策や将来計画等を決定する際の判断がより適切に行われるようになります。」と書かれています。

本学の学生生活実態調査も、「基本編」の学生の経済状況、住居、通学、アルバイト、課外活動、ボランティア活動、人間関係、学生生活、そして「学生支援体制編」の経済支援体制、学習支援体制、学生相談、健康、学寮、就職支援体制、進学等の多岐にわたる調査結果により実態を把握し、各担当部署が学生支援や学習指導等の改善方法を検討する際の基礎資料となり、また、統計データとして活用されて初めて役立つ点や大学の施策や将来計画の判断にも利用できる点は「ミニ国勢調査」と言ってもよいのではないのでしょうか。

前回から3年開いてしまったのは、

- 調査報告自体があまり知られていない。
- 調査・分析方法のノウハウが伝承されていない。
- 調査結果が十分に活用されていない。

等の多くの反省事項が指摘され、次のような改善を図ることとしたためです。

- 報告書以外にダイジェスト版を作成し、広く保護者等に配布して関心を持ってもらう。このため、アンケート質問事項を「基本編」と「学生支援体制編」に整理し直し、内容を大幅に変更する。
- 学部委員以外に入試、教育、就職、健康、学生支援の各分野から委員を加え、拡大委員会を構成して、各部門の意見を反映させる。
- 報告書・ダイジェスト版のすべての内容を大学ホームページに公開し、学生・教職員・保護者等、大学関係者のすべてがいつでも閲覧できるようにして調査結果の利用拡大を図る。

このため、調査・分析・編集作業が当初計画より長期間を要し、完成が遅れてしまった次第ですが、とはいえ、たちまち1回で他大学の洗練された調査報告書レベルに生まれ変わるはずもなく、第1弾としてどこまで改善できたか、その成果は心許ない限りです。

最後になりましたが、このアンケートのために長時間の回答を厭わず協力してくれた学部学生・大学院学生の皆様と、長期間に渡り編集作業等に尽力された学生生活実態調査専門委員会現委員・前委員の皆様、さらには事務作業の全てを担当した学生支援係、時には陰から、時には最前線で支えていただいた本名教育担当理事をはじめとする協力いただいたすべての関係者教職員の皆様全員に深く感謝いたします。

平成22年12月

鳥取大学学生生活支援委員会

学生生活実態調査専門委員会委員長 高崎 一成

はじめに	01
目次	02
調査・集計・編集の概要	03

1.基本編

1. 経済状況について	05
2. 住居・通学方法について	15
3. アルバイトについて	17
4. 自宅または下宿等での生活について	19
5. 課外活動について	21
6. 人間関係について	25
7. 学生生活について	29

2.学生支援体制編

8. 経済支援体制について	33
9. 学習支援体制について	35
10. 生活支援体制について	43
11. その他の支援体制について	51
12. 鳥取大学への要望	57

3.主な自由記述意見

59

4.参考資料

アンケート調査票	65
----------	----

調査・集計・編集の概要

調査の目的

この調査は本学学生の生活実態を把握し、学生の教育及び福利厚生改善並びに充実のための基礎資料を得ることを目的とする。

調査の時期

平成22年7月1日(木)～7月27日(火)の間に行った。

調査の対象

平成22年7月1日現在に在籍する学部学生と大学院学生を対象とする。ただし、休学者、外国人留学生及び連合農学研究科他大学配置学生は除き、本学配置の連合獣医学研究科の学生は含む。

調査の方法

学生生活支援委員会学生生活実態調査専門委員会が、各学部等の協力のもと調査票・回答票を配付し、回収した。

集計の方法

学部別、研究科別・男女別・入学年度別に集計し、データ整理した。

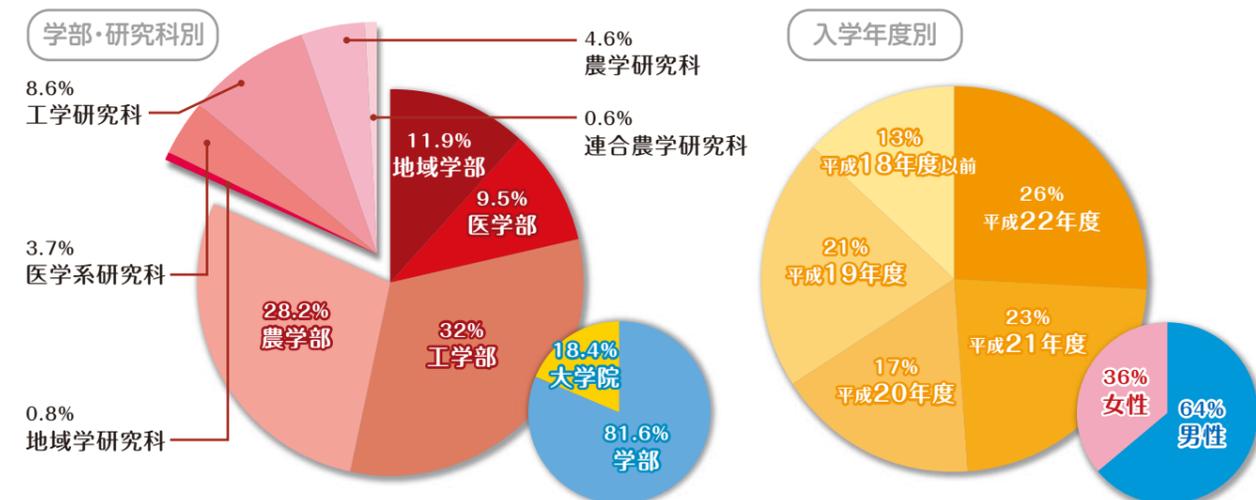
編集の方法

- 1.集計したデータに基づき作成した帯グラフを基本に分析を行い、解説に必要な場合は新たに報告書等掲載用グラフを別途作成した。
- 2.「入学年度別」データについては、解説の便宜上、「学年」の概念を用いて説明した。
- 3.「自由記述」は、主な意見をいくつか抜粋し、意味のわかりにくい表現が用いられている場合や誤字、脱字、固有名詞等がある場合には、原文の内容を損なわない程度に編集し、記載した。
- 4.読者の関心が特に高いと思われる調査事項は、「ダイジェスト版」として抜粋し、リーフレットサイズに要約編集した。
- 5.報告書の内容はすべて大学のホームページにも掲載することとした。

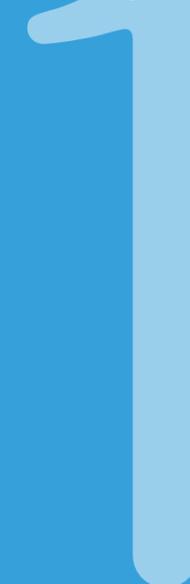
調査回答の回収状況

学部・研究科	回収率(%)	対象者数(人)
地域学部・教育地域科学部	32.1	840
医学部	18.0	1,196
工学部	34.8	2,085
農学部	60.1	1,066
地域学研究科	31.1	61
医学系研究科	30.4	280
工学研究科	42.5	461
農学研究科	68.6	153
連合農学研究科	59.1	22
連合獣医学研究科	0.0	12
大学全体	37.2	6,176

調査に協力してくれた学生



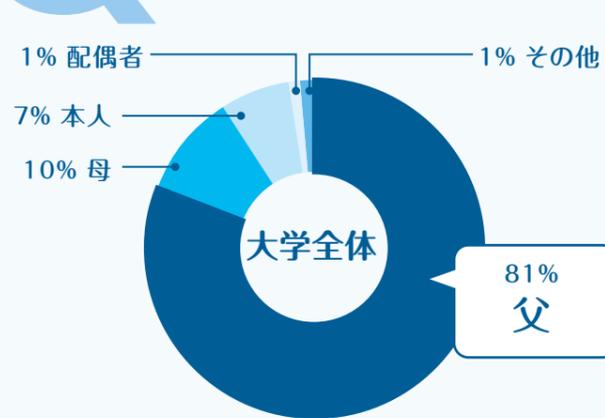
基本編



1. 経済状況

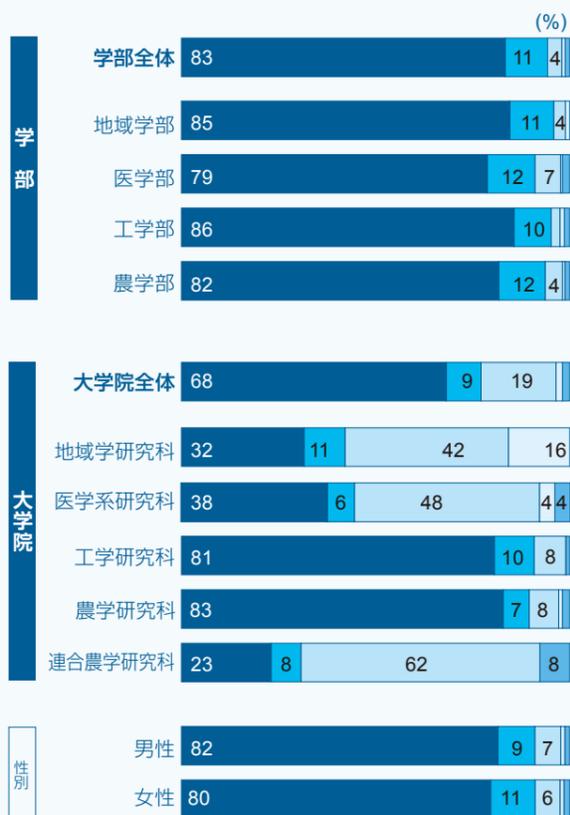
注) 問1～問5は基本的事項についての設問であり、3ページに「調査に協力してくれた学生」としてグラフを掲載しています。

6 あなたの生活や勉学の費用を主として負担している人 (家計支持者)は誰ですか

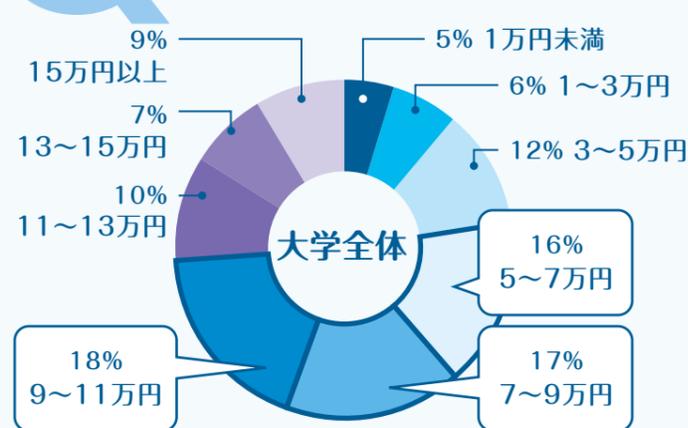


主な家計支持者は、学部学生の場合、父83%、母11%、本人4%、配偶者1%、その他1%です。大学院学生の場合、父68%、母9%、本人19%、配偶者2%、その他2%になります。本人が主たる家計支持者である場合、すなわち、自活している割合は学部学生では4%、大学院学生では19%です。

新設項目のため、過去のデータとの比較はできません。



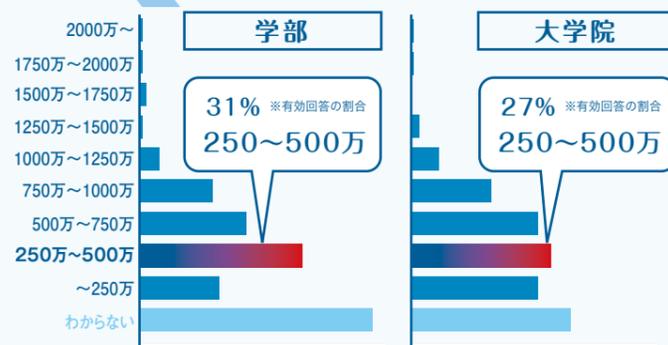
8 あなたの平均的な1か月の収入は、この1年間でいくらぐらいですか



回答学生の1か月の平均収入はこの1年間でいくらぐらいかについて、「9万円～11万円未満」の学生がもっとも多く見られますが、学年が高いほど、また、学部学生より大学院学生の方が、収入が多い傾向が見られます。これは学年が進行するとともに、また、学部学生より大学院学生の方が、支出が増える傾向にあることと関連しているものと思われます。



7 家計支持者の年収はいくらですか

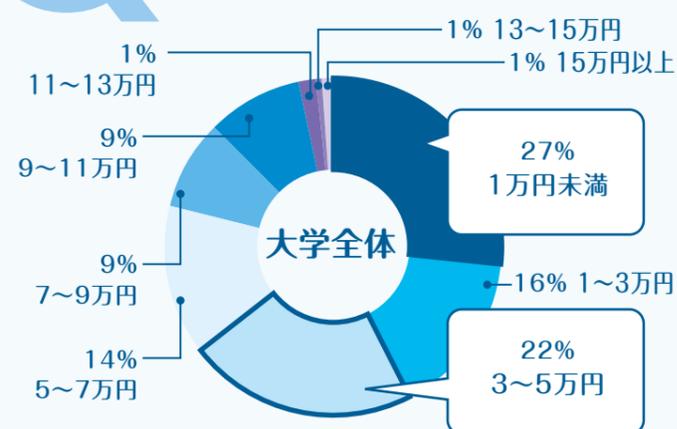


家計支持者の年収はほとんどが1,250万円未満で、有効回答(「わからない」と「未記入」を除く)のうち、学部学生の場合は98%、大学院学生の場合は97%に達します。その内、もっとも割合が大きいのが250万円～500万円未満で、有効回答のそれぞれ31%および27%を占めます。国税庁「民間給与実態統計調査」によると、全国の平成20年平均給与は430万円です。わからないと回答した学生は、学部学生で35%、大学院学生では24%となっています。

新設項目のため、過去のデータとの比較はできません。



8-1 (収入内訳) 家族等からの仕送り

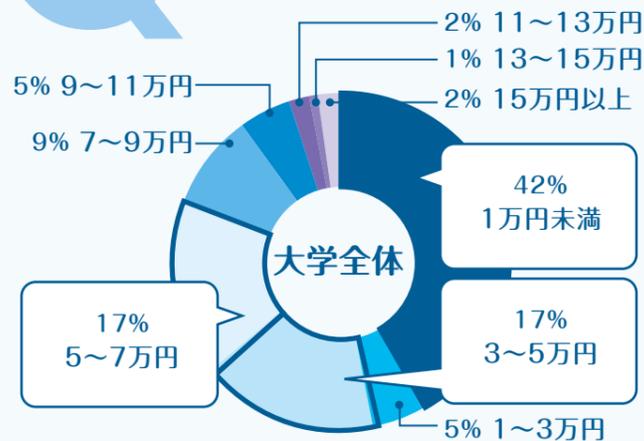


平均的な1か月の収入の内、家族等からの仕送りについて、学部学生の過去の調査データと比較してみると、7万円を超える仕送りを受けている学生の割合は減少傾向にあり、逆に3万円未満の学生は増加傾向で、経済不況による家計の厳しい現状が調査結果にも顕著に表れています。



1. 経済状況

8-2 (収入内訳)奨学金



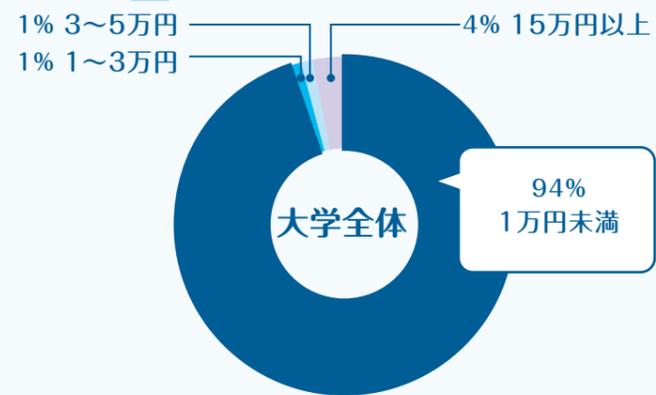
平均的な1か月の収入の内、奨学金について、学生支援体制編問1の調査結果によると回答学生の半数は何らかの奨学金を受けており、過去の調査データと比較してみると増加傾向にあります。特に自宅外通学生は不況の影響等で家族からの仕送りだけでは不十分と思われる、また、大学院学生の奨学金の額も多くなる傾向にあります。

学部	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
学部全体	42	5	19	18	6	6
平成22年度	45	5	16	20	5	3
平成21年度	43	6	19	18	6	5
平成20年度	46	4	19	15	6	7
平成19年度	36	5	23	20	5	7
平成18年度以前	42	6	18	17	6	9

大学院	入学年度別 (%)					
	大学院全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
大学院全体	41	8	15	22	3	4
平成22年度	47	14	18	15		
平成21年度	29	3	6	16	31	4
平成20年度	55	9	27	9		
平成19年度	80			10	10	
平成18年度以前	48	8	10	22	6	3

性別	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
男性	45	4	16	16	8	6
女性	34	6	20	20	10	5

8-4 (収入内訳)給与



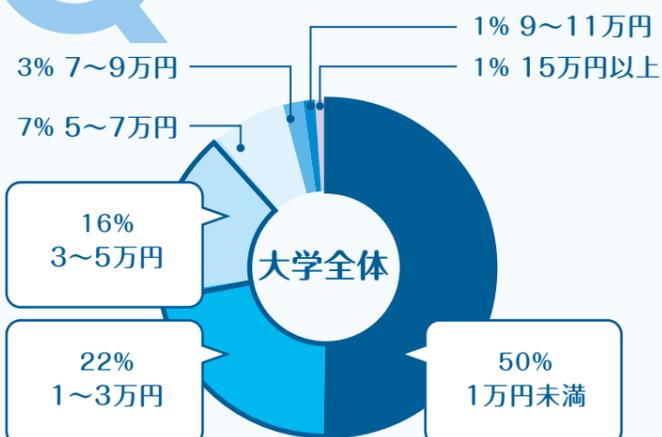
平均的な1か月の収入の内、給与収入について社会人学生以外はほとんど1万円未満であり、学生で給与収入のある者は極めて限定的であることがわかります。また、月額1万円未満を選択回答した学生のほとんどは給与所得非該当と考えられるため、次回以降の調査においては選択肢を修正する予定です。

学部	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
学部全体	97					
平成22年度	97					
平成21年度	98					
平成20年度	98					
平成19年度	99					
平成18年度以前	94					4

大学院	入学年度別 (%)					
	大学院全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
大学院全体	80	4	12			
平成22年度	85	7	7			
平成21年度	84	3	10			
平成20年度	56			44		
平成19年度	29	7	7	7	50	
平成18年度以前	82	4	10			

性別	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
男性	94					
女性	93					4

8-3 (収入内訳)アルバイト収入



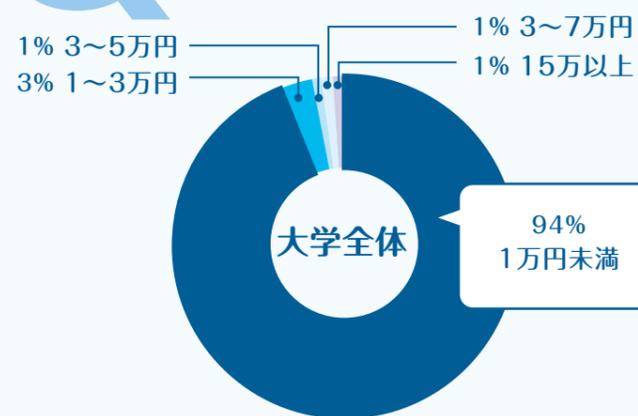
平均的な1か月の収入の内、アルバイト収入について、基本編問16の調査結果によると回答学生の3分の2はアルバイトで収入を得ており、アルバイトは重要な収入源となっています。学部だけで見ると、入学後3年までは増加傾向にありますが、4年目は減少しており、卒論や就職、進学のために多忙となり、アルバイトする機会が減少していることを伺わせます。金額は月額平均5万円までが主です。

学部	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
学部全体	49	22	17	7		
平成22年度	79		11	6		
平成21年度	41	25	22	7		
平成20年度	38	25	22	11		
平成19年度	46	23	19	8		
平成18年度以前	44	29	16	6	4	

大学院	入学年度別 (%)					
	大学院全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
大学院全体	53	22	12	5	4	
平成22年度	52	21	14	5	3	4
平成21年度	61		20	13		
平成20年度	50	13	6	19	13	
平成19年度	45	18	9	9	18	
平成18年度以前	44	30	10	8	5	

性別	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
男性	54	19	16	6		
女性	42	28	18	8	3	

8-5 (収入内訳)その他



平均的な1か月の収入の内、他の項目に含まれないその他収入は、ほとんどの学生が月額1万円未満です。

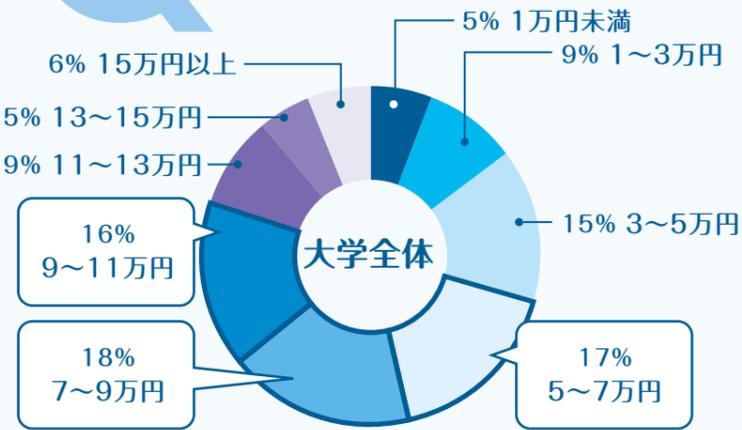
学部	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
学部全体	94					
平成22年度	94					
平成21年度	95					
平成20年度	95					
平成19年度	96					
平成18年度以前	87					6

大学院	入学年度別 (%)					
	大学院全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
大学院全体	95					
平成22年度	91					
平成21年度	95					
平成20年度	100					
平成19年度	90				10	
平成18年度以前	98					

性別	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
男性	95					
女性	94					3

1. 経済状況

9 「問8」の収入はどのように支出しましたか。



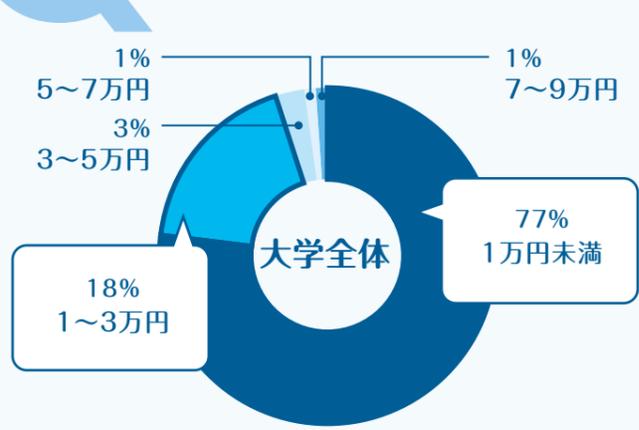
回答学生の1ヶ月の平均支出合計は、この1年間でいくらかいかについて、入学年度別に見ると、学年進行とともに、また、学部学生より大学院学生の方が、支出が増える傾向にあることがわかります。

学部	入学年度別 (%)									
	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
学部全体	6	10	17	19	18	15	8	4	5	
平成22年度	7	17	24	21	14	8	3	4		
平成21年度	7	8	18	21	19	12	10	4	3	
平成20年度	3	7	14	16	23	16	9	3	8	
平成19年度	5	6	14	18	16	20	11	4	6	
平成18年度以前	10	9	14	12	18	19	11	6		

大学院	入学年度別 (%)									
	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
大学院全体	3	5	9	12	17	22	11	9	12	
平成22年度	7	10	17	16	31	9	6	4		
平成21年度	6	4	7	11	21	16	13	10	13	
平成20年度	14	14	7	21	43					
平成19年度	10	10	30	20	30					
平成18年度以前	7	10	9	15	24	15	10	9		

性別	入学年度別 (%)									
	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
男性	6	9	15	18	18	16	8	5	6	
女性	4	9	16	16	17	16	12	5	5	

9.2 <支出内訳> 課外活動費(サークル活動、ボランティア活動等)



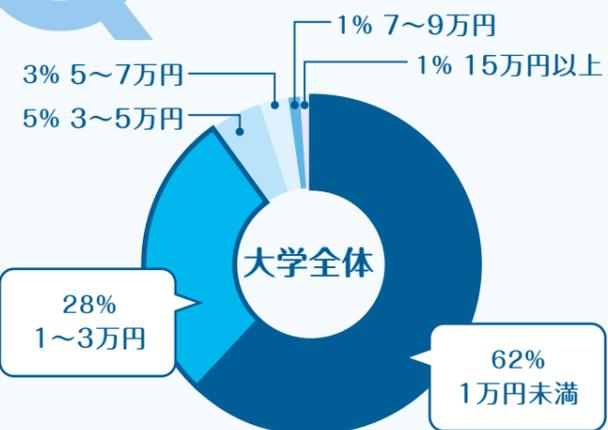
平均的な1か月の支出の内、課外活動費については、大学全体では「1万円未満」が77%と一番多く、次に「1万円～3万円未満」が18%でした。

学部	入学年度別 (%)		
	22	21	20
学部全体	75	20	4
平成22年度	76	17	3
平成21年度	71	23	5
平成20年度	70	24	4
平成19年度	77	18	4
平成18年度以前	83	12	3

大学院	入学年度別 (%)		
	22	21	20
大学院全体	86	11	
平成22年度	83	15	
平成21年度	87	8	3
平成20年度	100		
平成19年度	89	11	
平成18年度以前	85	12	3

性別	入学年度別 (%)		
	22	21	20
男性	76	19	4
女性	77	18	2

9.1 <支出内訳> 修学費(教科書、参考書、公務員講座費等)



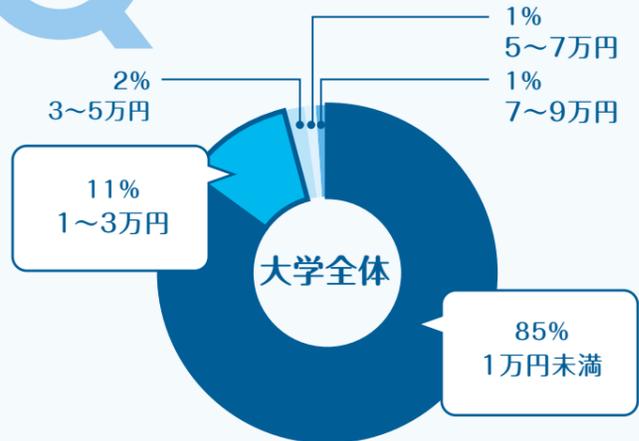
平均的な1か月の支出の内、修学費については、大学全体では「1万円未満」が62%と一番多く、次に「1万円～3万円未満」が28%でした。

学部	入学年度別 (%)									
	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
学部全体	61	29	5	3						
平成22年度	59	31	6	4						
平成21年度	59	32	5	3						
平成20年度	59	30	6	3						
平成19年度	65	25	5	3						
平成18年度以前	61	28	6	3						

大学院	入学年度別 (%)									
	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
大学院全体	66	20	6	6						
平成22年度	74	19	3	4						
平成21年度	64	19	7	7						
平成20年度	44	38	13	6						
平成19年度	42	25	17	8	8					
平成18年度以前	65	19	7	5						

性別	入学年度別 (%)									
	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
男性	62	27	6	4						
女性	62	28	4	3						

9.3 <支出内訳> 通学費(ガソリン代等を含む)



平均的な1か月の支出の内、課外活動費については、大学全体では「1万円未満」が85%と一番多く、次に「1万円～3万円未満」が11%でした。

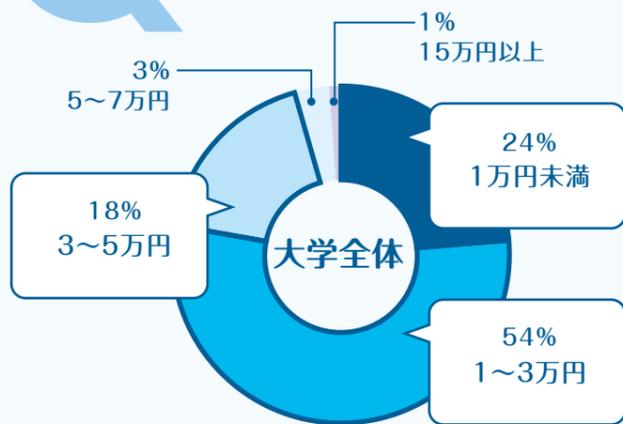
学部	入学年度別 (%)		
	22	21	20
学部全体	87	10	
平成22年度	81	14	
平成21年度	91	6	
平成20年度	89	10	
平成19年度	87	10	
平成18年度以前	85	10	4

大学院	入学年度別 (%)		
	22	21	20
大学院全体	80	15	
平成22年度	86	12	
平成21年度	81	16	3
平成20年度	67	20	13
平成19年度	43	50	7
平成18年度以前	81	12	7

性別	入学年度別 (%)		
	22	21	20
男性	85	11	
女性	86	11	

1. 経済状況

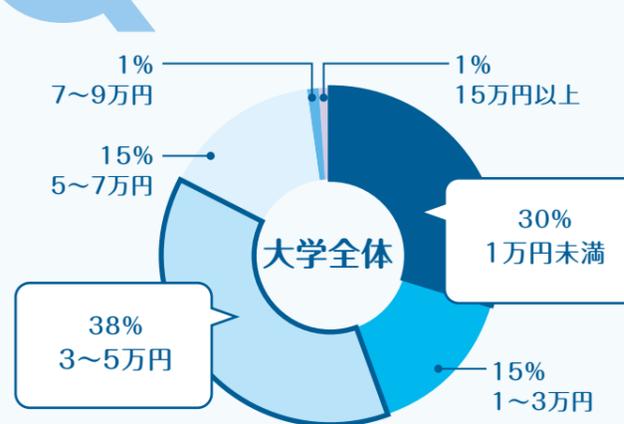
9.4 <支出内訳>食費



平均的な1か月の支出の内、食費について、全体としては「1万円～3万円未満」が54%と一番多いですが、入学年度別にみると学年が上がるにつれて食費も増加傾向にあることが分かります。男性と女性との比較では男性の支出金額が幾分高く、理由として男性は自炊をしない傾向があるためではないかと推測されます。

学部	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
学部全体	26	56	15			
学部	平成22年度	36	50	10		
学部	平成21年度	27	60	11		
学部	平成20年度	24	58	15		
学部	平成19年度	20	56	20	3	
学部	平成18年度以前	20	55	21	4	
大学院	大学院全体	14	48	29	6	
大学院	平成22年度	18	52	27		
大学院	平成21年度	16	45	28	7	
大学院	平成20年度	17	28	39	11	6
大学院	平成19年度	50	19	25	6	
大学院	平成18年度以前	10	48	33	4	
性別	男性	23	52	20	3	
性別	女性	25	58	13		

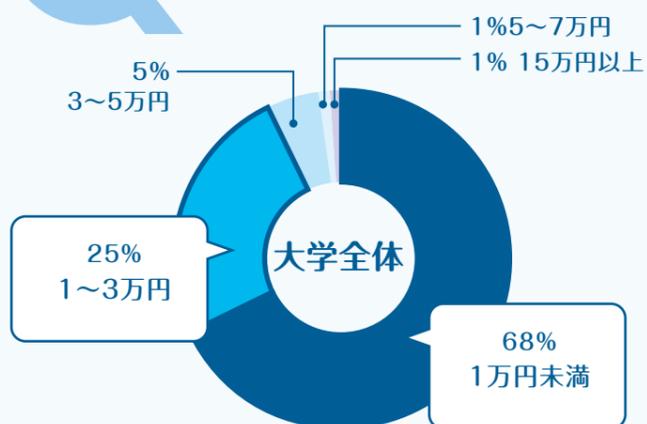
9.6 <支出内訳>住居費(家賃、水道光熱費含む)



平均的な1か月の支出の内、住居費について、大学全体としては「3万円～5万円未満」が38%と一番多いですが、「1万円未満」と回答した学生も30%とかなり多く、この中には自宅通学生や寮生が多く含まれていると考えられます。

学部	入学年度別 (%)						
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前	
学部全体	32	15	38	13			
学部	平成22年度	41	16	34	6		
学部	平成21年度	30	17	39	12		
学部	平成20年度	31	10	42	16		
学部	平成19年度	27	16	41	15		
学部	平成18年度以前	26	20	34	19		
大学院	大学院全体	23	12	37	22	4	
大学院	平成22年度	22	15	40	22		
大学院	平成21年度	23	12	36	21	4	
大学院	平成20年度	19	13	13	50	6	
大学院	平成19年度	13	6	25	38	13	6
大学院	平成18年度以前	24	9	42	14	6	
性別	男性	32	15	37	13		
性別	女性	26	13	41	18		

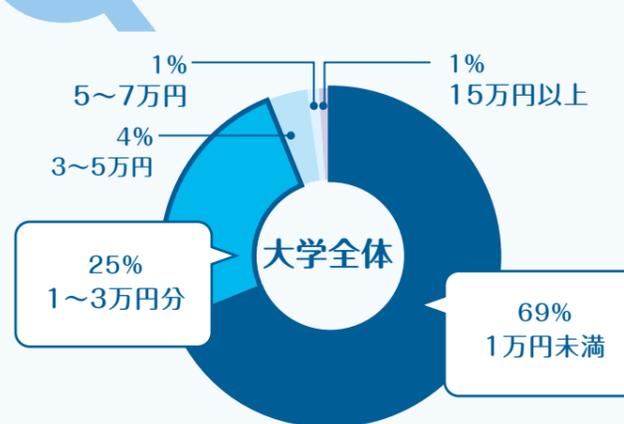
9.5 <支出内訳>雑貨(衣料等)



平均的な1か月の支出の内、雑貨については、学部学生と大学院学生ではほとんど差が見られず、大学全体としては「1万円未満」が68%と一番多いですが、男性と女性との比較では、女性の方が支出金額が多くなっています。

学部	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
学部全体	68	25	5			
学部	平成22年度	69	23	5		
学部	平成21年度	71	24	5		
学部	平成20年度	63	29	6		
学部	平成19年度	70	25	3		
学部	平成18年度以前	66	26	44		
大学院	大学院全体	67	23	7		
大学院	平成22年度	69	28	3		
大学院	平成21年度	66	21	12		
大学院	平成20年度	53	35	6	6	
大学院	平成19年度	57	36	7		
大学院	平成18年度以前	71	17	5	4	
性別	男性	72	21	5		
性別	女性	60	33	5		

9.7 <支出内訳>娯楽嗜好費(旅行を含む)

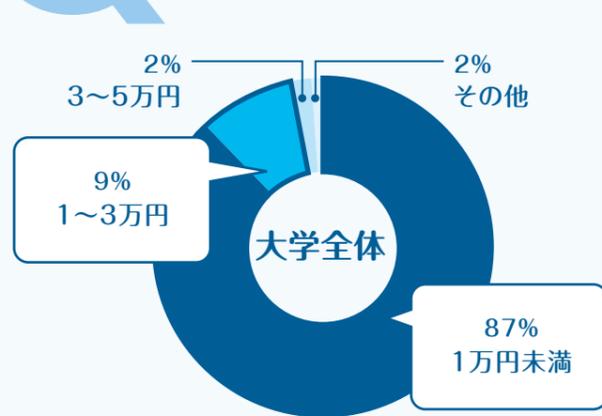


平均的な1か月の支出の内、娯楽嗜好費について、大学全体としては「1万円未満」が69%と一番多く、男女差は全く見られません。学部・大学院比較では「1~3万円未満」の割合が大学院学生が少し高く、比率的にみると学部学生より支出金額が多いようです。

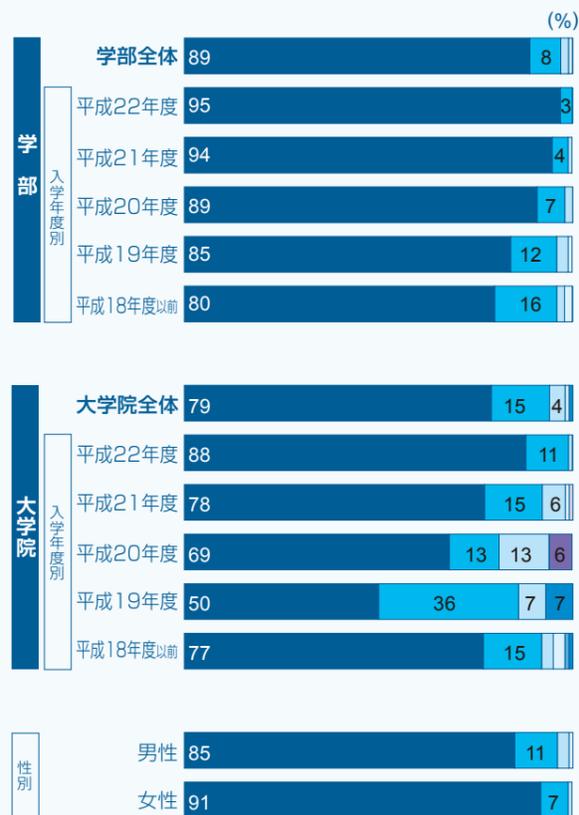
学部	入学年度別 (%)					
	学部全体	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度以前
学部全体	70	24	4			
学部	平成22年度	77	17	4		
学部	平成21年度	70	27	3		
学部	平成20年度	68	24	3		
学部	平成19年度	66	28	4		
学部	平成18年度以前	68	22	7		
大学院	大学院全体	63	30	3		
大学院	平成22年度	70	28			
大学院	平成21年度	66	25	6		
大学院	平成20年度	53	35	6	6	
大学院	平成19年度	33	47	7	7	7
大学院	平成18年度以前	59	35			
性別	男性	68	26	4		
性別	女性	69	25	3		

1. 経済状況

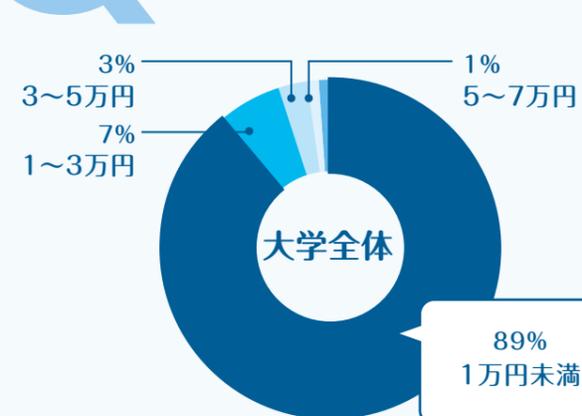
9-8 <支出内訳>車やバイクの維持費



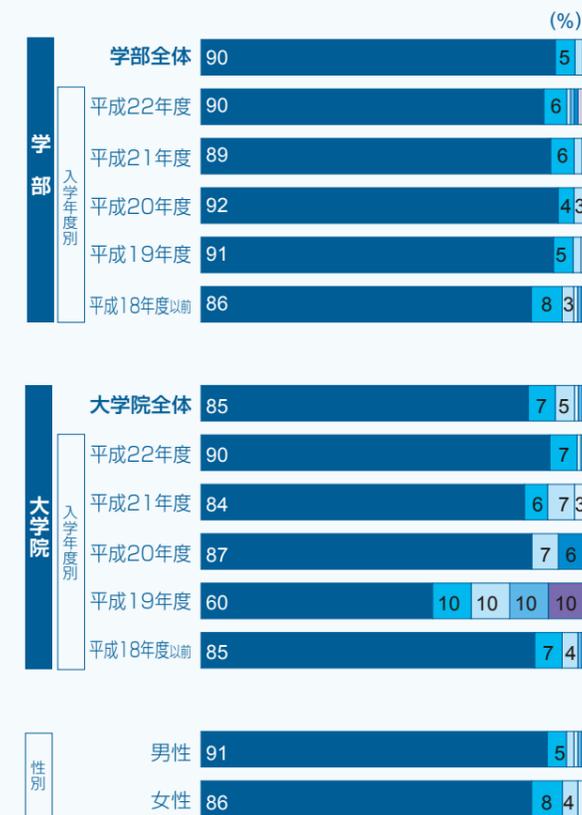
平均的な1か月の支出の内、車やバイクの維持費について、大学全体としては「1万円未満」が87%と一番多く、男女比較ではやはり男性の支出金額が多いですが、大きな差はなく、全体として車やバイクに多く支出する学生には非常に少ないと言えます。



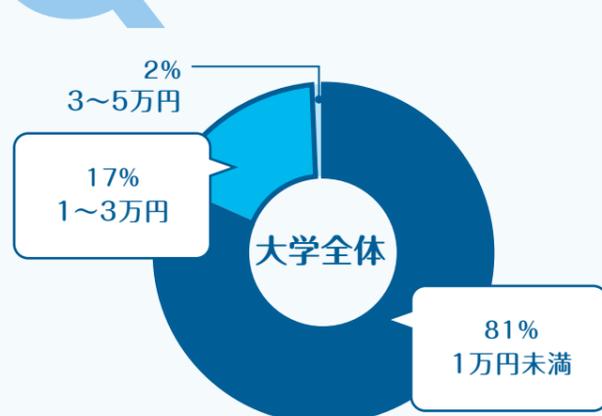
9-10 <支出内訳>その他



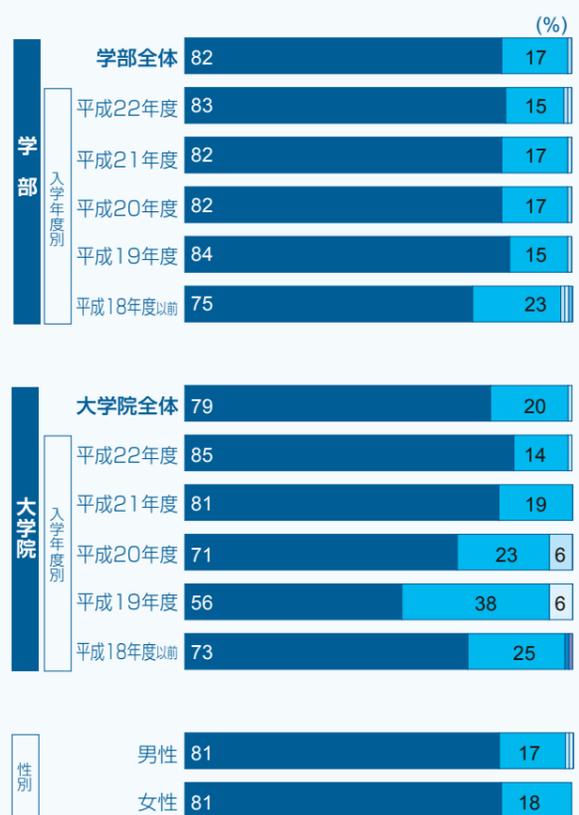
平均的な1か月の支出の内、他の項目に含まれないその他経費について、大学全体としては「1万円未満」が89%とほとんどで、属性による差はみられません。割合は高くありませんが、1万円以上で回答した学生のその他支出の内訳について、どのようなものに支出しているか次回以降の調査では調査項目を設けるべきか検討したいと思います。



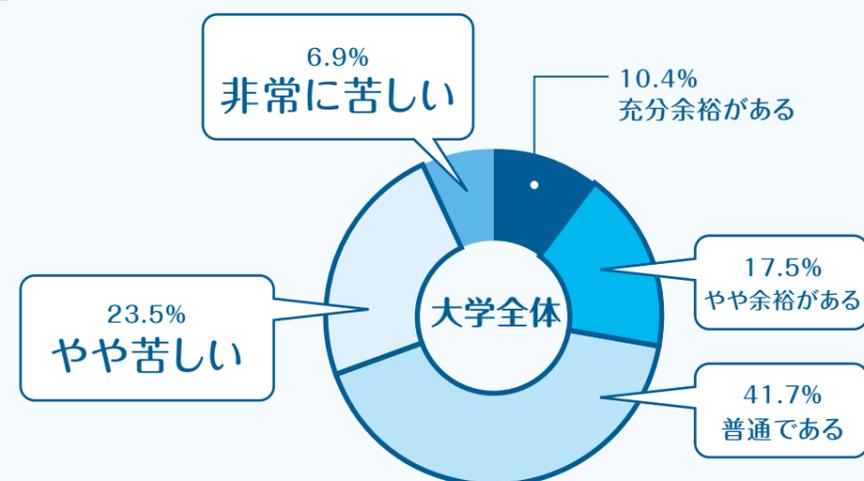
9-9 <支出内訳>通信費(携帯電話、インターネット等)



平均的な1か月の支出の内、通信費について、全体としては「1万円未満」が81%と一番多いですが、ここ数年、携帯電話各社の料金体系やサービスが大幅に見直され、インターネットの利用形態も多様化が進んだ結果、通信費の支出金額だけの単純な比較では分析が難しくなっています。各属性の比較においても男女差や入学年度による学年差等、特徴的な差はみられません。



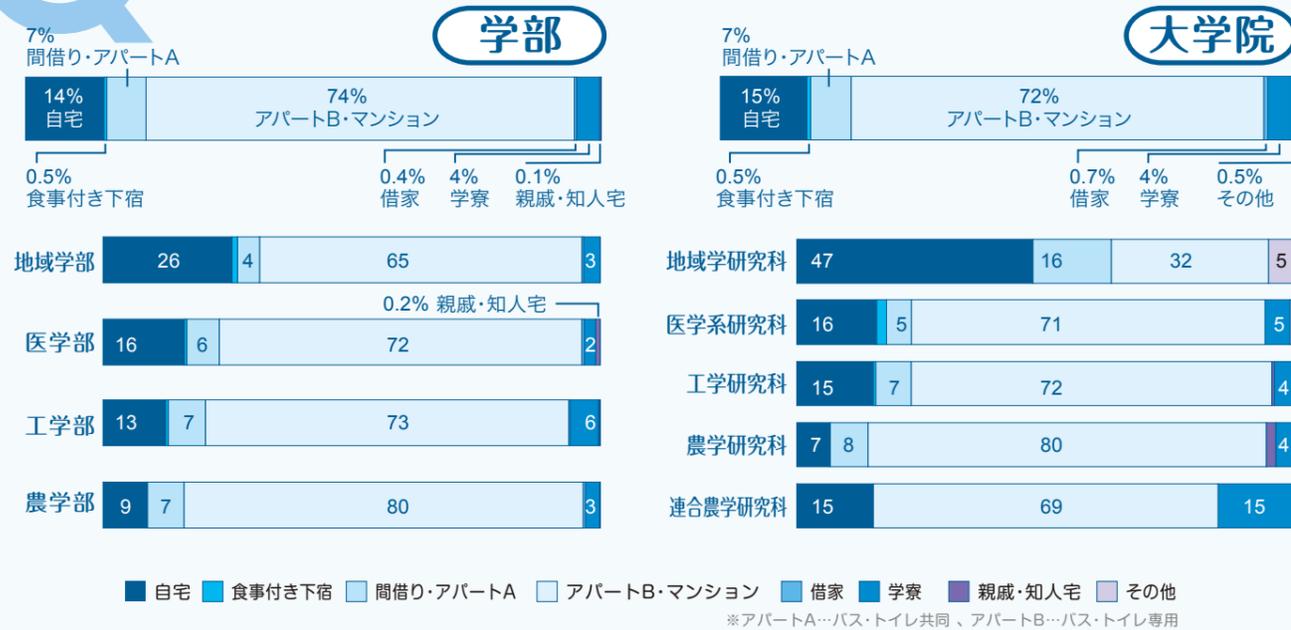
10 あなたは、現在の自分の経済状態をどのように感じていますか



現在の自分の経済状態について、社会の厳しい経済情勢を反映して、大学全体で「やや苦しい」または「非常に苦しい」と回答した学生は、合わせて30.4%に達し、「やや余裕がある」または「充分余裕がある」と回答した学生を合わせた27.9%を上回っています。

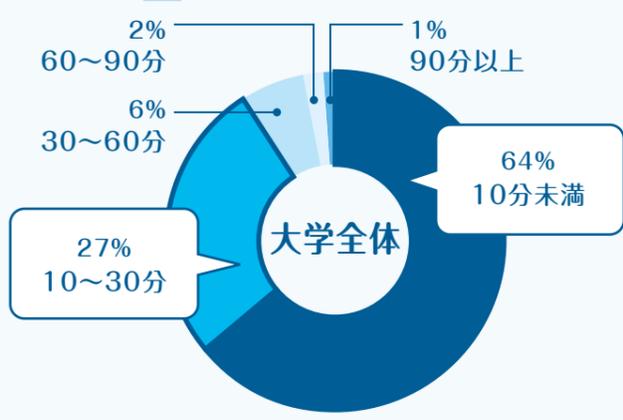
2. 住居・通学方法

11 あなたの住居の種別はどれですか

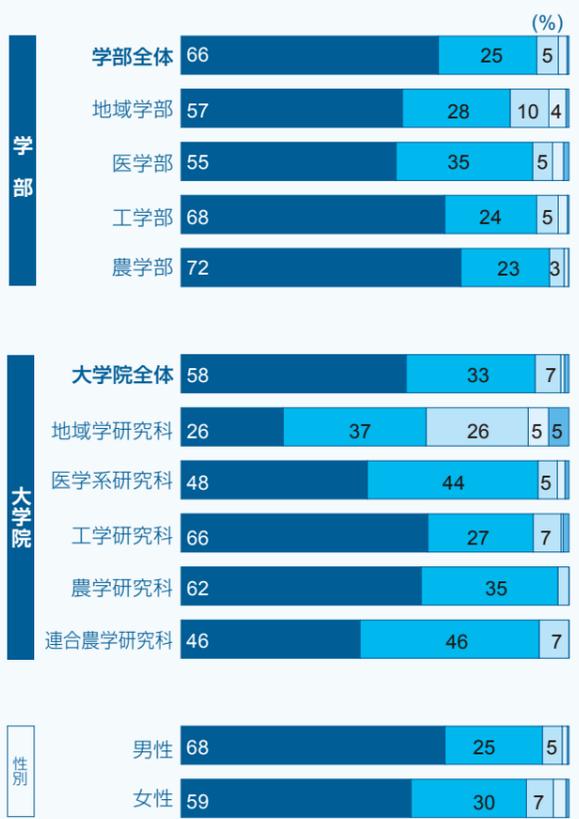


住居の種別としては、ほとんどの学生が賃貸施設、特にアパート・マンションを利用しており、自宅通学は10数%と少ないです。自宅が地域学部で26%、地域学研究科で47%ですが、それ以外の学部と研究科では10%前後と少ない傾向が見られます。

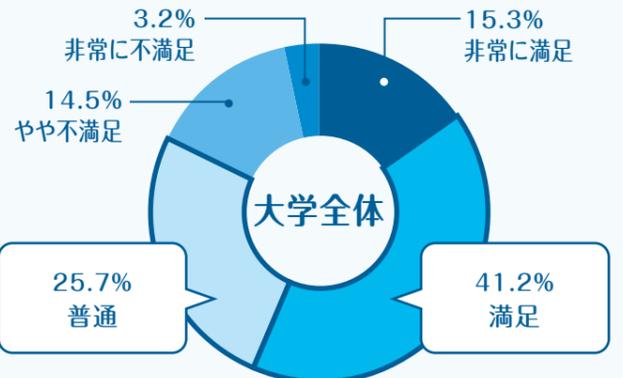
14 あなたの通学時間(片道)はどのくらいですか



「10分未満」と「10~30分未満」を合わせると全体の9割程度に達するため、通学時間は比較的短いという傾向がみられます。

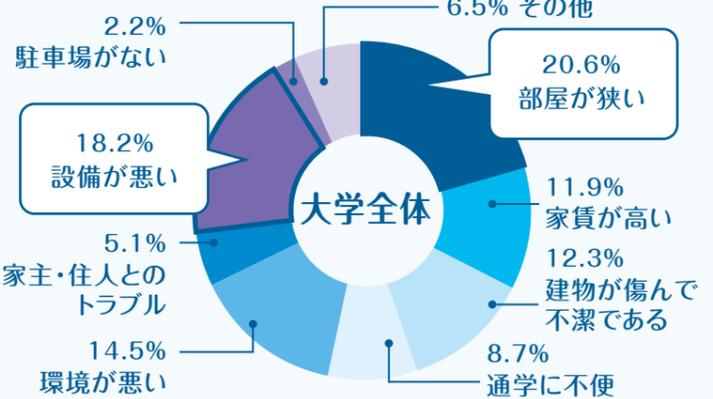


12 あなたは、現在の住居に満足していますか (自宅通学者は回答不要)



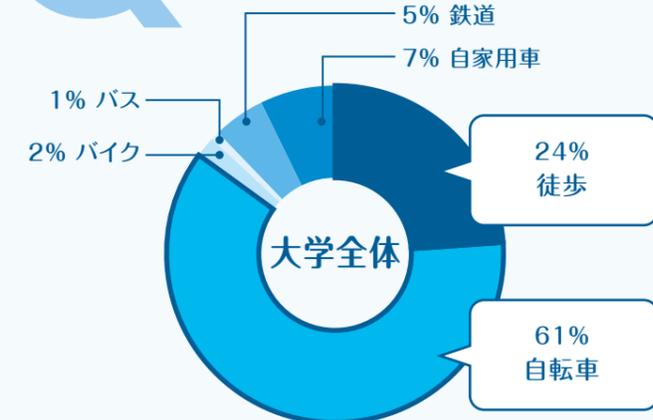
現在の住居に満足しているかについて、大学全体では「非常に満足」または「満足」と回答した学生は、合わせて56.5%で半数以上の学生は満足しており、逆に「やや不満足」または「非常に不満足」と回答した学生は合わせて17.7%で、8割以上の学生は普通以上と考えていることが分かります。

13 「やや不満足」「非常に不満足」その理由について (自宅通学者は回答不要)



現在の住居に「やや不満足」または「非常に不満足」と回答した学生の不満理由について、大学全体でみると、部屋が狭い20.6%、設備が悪い18.2%、環境が悪い14.5%、建物が傷んで不潔である12.3%、家賃が高い11.9%の順となっています。部屋の広さや設備が主な不満理由となっていますが、特定の理由に偏っているわけではなく多様な理由に分散していることが分かります。

15 あなたの通学方法は何ですか

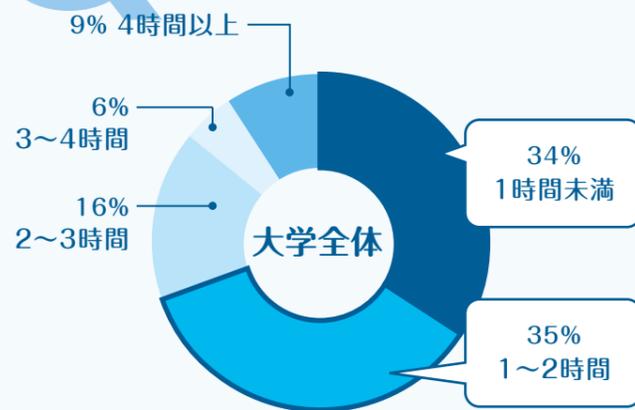


学部・研究科により多少の違いがみられるものの、大学全体では「自転車」の利用が最も多く、次いで多いのが「徒歩」であるという傾向がみられます。



4. 自宅または下宿等での生活

18 あなたは授業以外で1日何時間程度勉強していますか



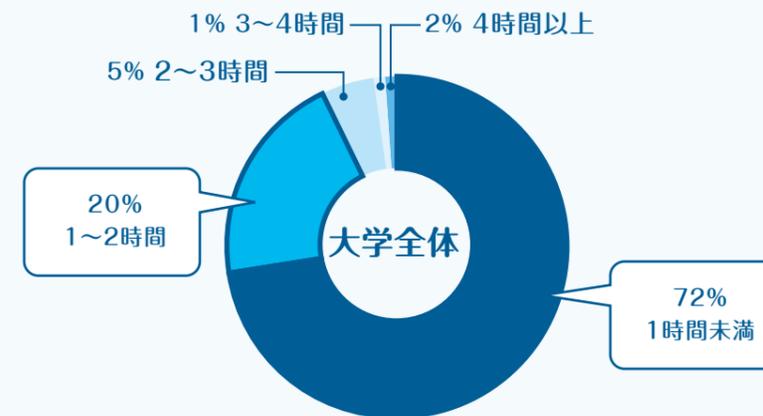
学部学生の70%以上は、家での学習時間が2時間以下です。ところが、卒論を始める4年生以降、大学院学生においては、家での学習時間が非常に増える傾向にあります。これは、高年次の学生は、卒論等の論文作成のための学習に加えて、家での学習時間に大学での勉強以外に就職のための勉強をしているためではないかと考えられます。

学部	学部全体 (%)				
	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
学部全体	37	37	15	5	6
地域学部	49	28	14		7
医学部	36	38	14	6	6
工学部	37	40	14	4	5
農学部	32	37	18	6	7

大学院	大学院全体 (%)				
	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
大学院全体	22	29	19	9	21
地域学研究科	6	28	44	6	16
医学系研究科	29	32	11	15	13
工学研究科	25	29	17	7	21
農学研究科	14	30	22	7	27
連合農学研究科	15	15	15	15	37

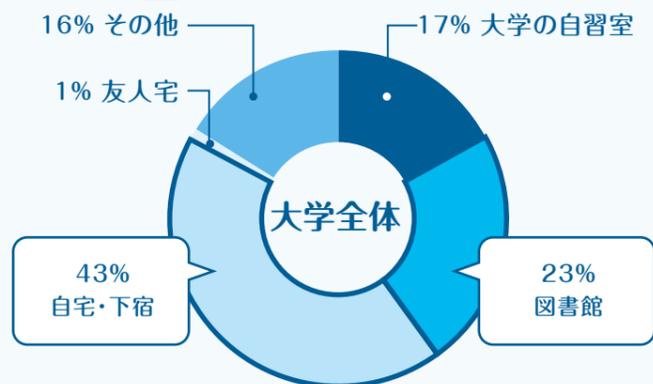
性別	性別 (%)				
	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
男性	34	35	16	5	10
女性	33	37	16	6	8

20 授業に関すること以外で1日平均何時間程度読書していますか。



授業に関すること以外で1日平均何時間程度読書しているかについて、大学全体でみると「1時間未満」が72%で一番多く、次に「1～2時間」が20%となっています。本学では教養科目(特定科目)で「鳥大読書ゼミナール」という多数の教員が異なるテーマで開講する少人数演習授業(平成22年度前期17クラス、後期9クラス)を実施して成果を上げていますが、大学全体規模でみると、読書習慣が身に付いているとはとても言えない状況です。文部科学省の「2010国民読書年」のホームページによれば「読書は、我々の人生をより豊かなものにするだけでなく、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。」とあり、今後あらゆる機会を通じて読書の重要性を理解してもらう必要があります。

19 授業以外で勉強する場所は、主にどこですか



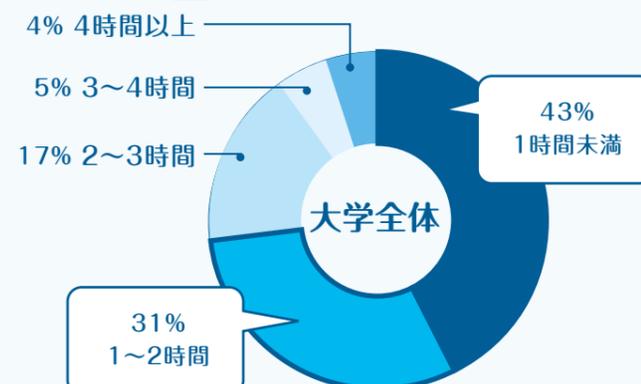
授業以外で勉強する場所は主にどこかについて、大学全体でみると「自宅・下宿」が43%と一番多く、次に「図書館」が23%、「大学の自習室」が17%の順になっています。入学年度別では、学年毎に違いますが、学部1年生は「図書館」で勉強する機会が多いですが、高学年では少なくなり、4年生以上や大学院学生では「その他」を回答した学生が多くいます。「その他」を個別に見てみると圧倒的に「研究室」が多いようです。

学部	学部全体 (%)			
	自宅・下宿	図書館	大学の自習室	その他
学部全体	16	27	47	9
平成22年度	7	41	49	
平成21年度	17	24	54	
平成20年度	13	30	54	
平成19年度	22	16	38	23
平成18年度以前	24	18	37	21

大学院	大学院全体 (%)			
	自宅・下宿	図書館	大学の自習室	その他
大学院全体	19	5	26	49
平成22年度	18	7	19	55
平成21年度	21		34	42
平成20年度	5	15	25	55
平成19年度	19	6	31	44
平成18年度以前	24	4	22	51

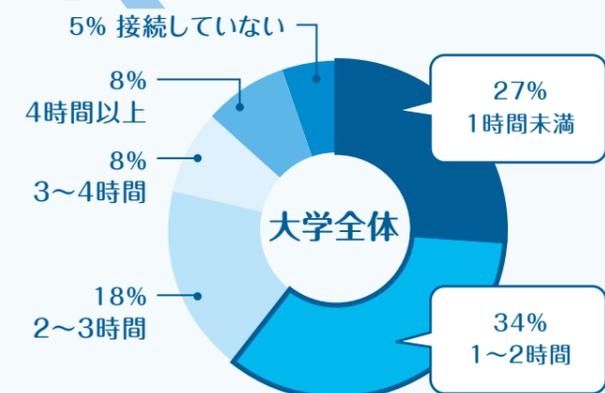
性別	性別 (%)			
	自宅・下宿	図書館	大学の自習室	その他
男性	17	21	42	18
女性	16	25	45	13

21 自宅または下宿で1日平均何時間程度テレビを見ていますか



自宅又は下宿で1日平均何時間程度テレビを見ているかについて、「1時間未満」が43%で、一番多く、次に「1～2時間」が31%、「2～3時間」が17%の順になっています。最近、若者のテレビ離れが議論されていますが、今日ではテレビの多チャンネル化やメディアの多様化が急速に進んでおり、最近の学生は、テレビ放送をリアルタイムに視聴してなくても、動画共有サービスを利用して過去に放送されたテレビ番組を見る等、新たなサービス利用を含む多様なスタイルで視聴しており、実質的にはテレビの視聴時間はアンケートデータほどは少なくないのではないかと分析もあります。

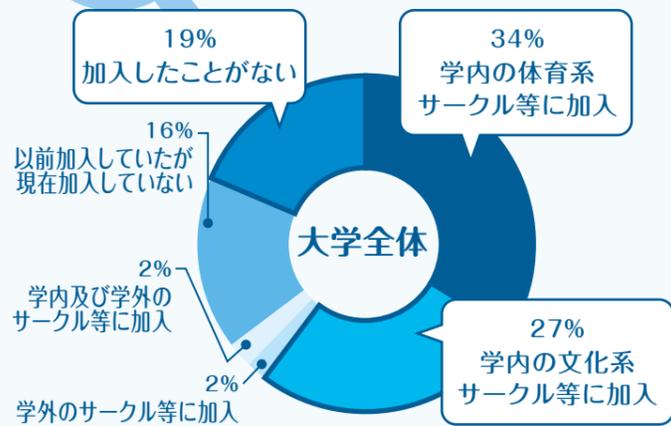
22 自宅または下宿で1日平均何時間程度インターネット、メールをしていますか



自宅または下宿で1日平均何時間程度インターネット・メールをしているかについて、大学全体では「1～2時間」が34%が一番多く、次に「1時間未満」が27%、「2～3時間」が18%の順になっています。最近ネット利用料金の体系が大きく変化し、定額制が学生の自宅等にも普及した結果、利用時間も増加しつつあると考えられます。なお、1日平均4時間以上利用しているヘビーユーザーも8%存在しており、ネットゲーム中毒やメール依存症等の弊害が懸念されます。

5. 課外活動

23 あなたは、平成22年7月1日現在サークル等(同好会を含む)に入っていますか



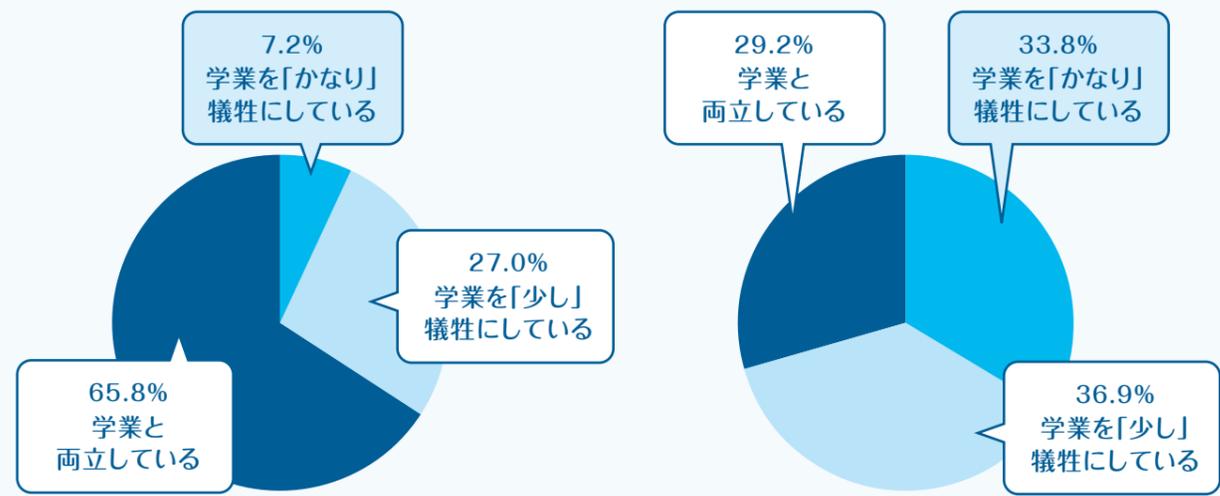
サークル等に入っているかについて、学部学生を入学年度別に学内のサークル等に限ってみると、1年生の加入率は高い比率を示しており、高学年になるほど文科系サークルは少なく、逆に体育系サークルは多くなっています。しかし、体育系サークルでも4年生は卒業研究や就職活動等多忙で時間的余裕がなく、時期的な違いはあっても、サークル活動を実質的には順次引退していると考えられます。大学院学生でサークル等に参加する者はやはり少なく、男女比較では女子学生は文科系サークル加入の比率が高い傾向を示しています。全体の加入率は過去の調査との比較でも高い比率を維持しています。

学部	入学年度別 (%)			
	22年度	21年度	20年度	19年度
学部全体	37	30	13	15
平成22年度	42	38	9	14
平成21年度	35	39	16	15
平成20年度	35	29	18	17
平成19年度	38	21	30	12
平成18年度以前	33	21	30	12

大学院	入学年度別 (%)			
	22年度	21年度	20年度	19年度
大学院全体	18	10	32	35
平成22年度	18	14	28	36
平成21年度	21	9	30	36
平成20年度	10	5	20	65
平成19年度	14	29	4	57
平成18年度以前	16	9	4	43

性別	加入率 (%)			
	22年度	21年度	20年度	19年度
男性	36	22	17	21
女性	30	35	16	15

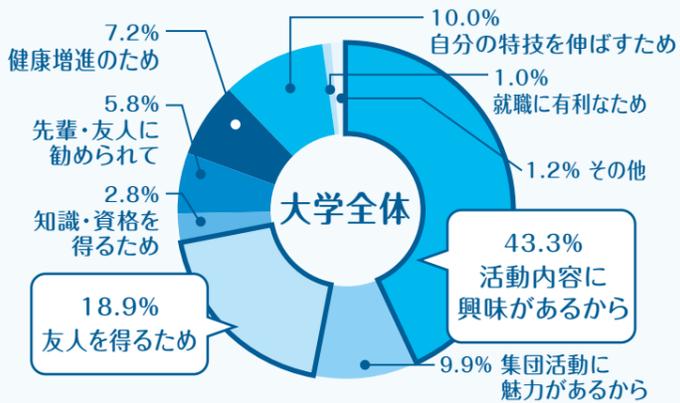
26 サークル活動と学業の関係はどうか



サークル活動と学業の関係について、大学全体では「学業と両立している」が65.8%で第1位ですが、「学業を少し犠牲にしている」が27.0%、「学業をかなり犠牲にしている」も7.2%います。基本編問25で1週間平均のサークル活動時間20時間以上と回答した学生のクロス集計では、「学業をかなり犠牲にしている」が33.8%と大学全体の7.2%と比較すると格段に高くなっており、指導対策が必要です。

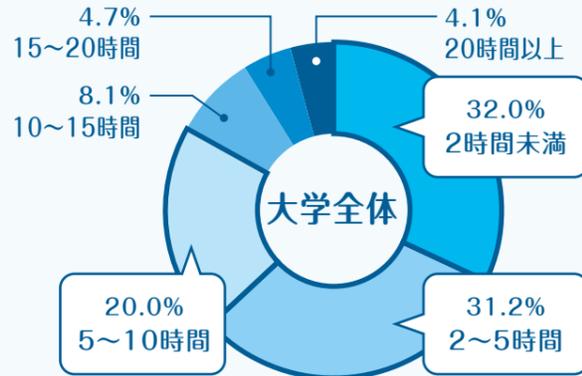
24 あなたがサークル等に入っている主な理由は何ですか

(選択肢から2つまで選んで回答)



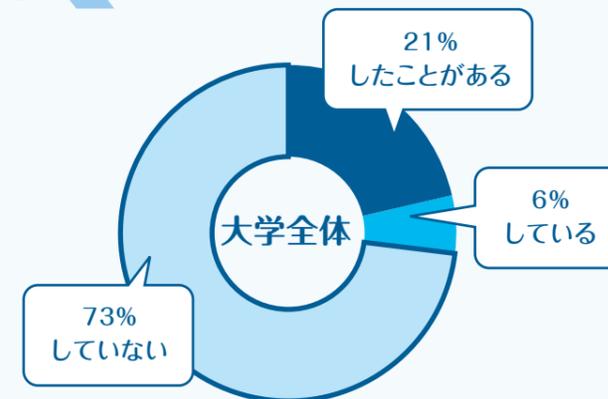
サークル等に入っている主な理由について、大学全体でみると「活動内容に興味があるから」が43.3%が一番多く、次に「友人を得るため」が18.9%、「自分の特技を伸ばすため」が10.0%、「集団活動に魅力があるから」が9.9%の順になっており、サークル等の活動内容そのものが自分の興味の対象と合致していることが一番大きな動機になっていることが分かります。

25 あなたは、サークル等で1週間平均何時間くらい活動していますか



サークル等で1週間に平均何時間くらい活動しているかについて、大学全体では「2時間未満」が32.0%と第1位ですが、第2位の「2～5時間」も31.2%で、ほぼ同じ割合です。第3位が「5～10時間」で20.0%となっています。「20時間以上」活動している学生も4.1%います。

27 最近1年間にボランティア活動をしたことがありますかまたはしていますか



最近1年間にボランティア活動をしたことがあるかまたはしているかについて、学部別にみると、最近1年間にボランティア活動を経験したことがある、及び、している学生の合計の割合は、地域学部が33%と最も高い数値を示しています。続いて農学部25%、工学部17%、医学部15%となっており、大学全体では21%となっています。

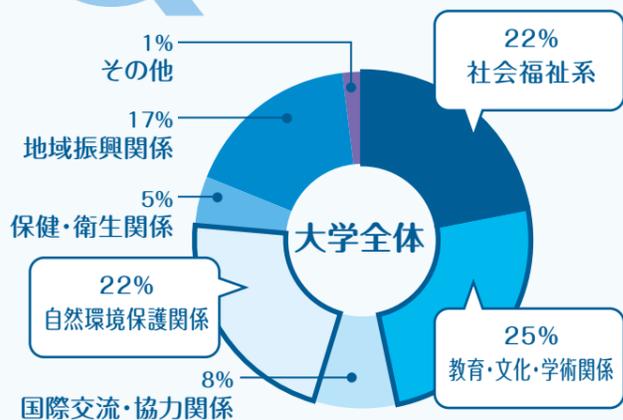
学部	したことがある	している	していない
学部全体	21	6	73
地域学部	33	11	56
医学部	15	4	81
工学部	17	3	80
農学部	25	6	69

大学院	したことがある	している	していない
大学院全体	22	5	73
地域学研究科	50	6	44
医学系研究科	22	5	73
工学研究科	14	3	84
農学研究科	38	8	54
連合農学研究科	8	15	77

性別	したことがある	している	していない
男性	19	5	76
女性	26	7	67

5. 課外活動

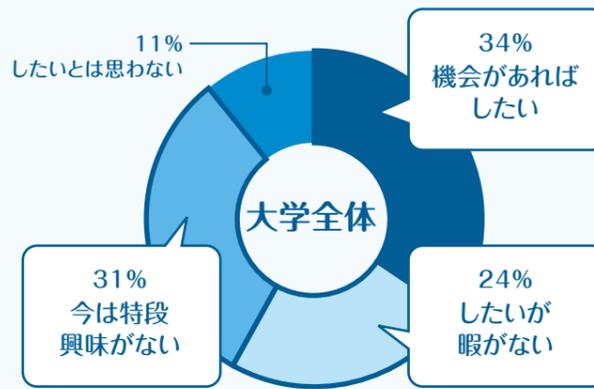
27.1 ボランティア活動を「したことがある」「している」方へ それはどのような活動分野ですか



最近1年間のボランティア活動の活動分野について、大学全体では「教育・文化・学術関係」が25%と最も多く、続いて、「社会福祉関係」22%、「自然環境保護関係」22%、「地域振興関係」17%の順となっています。学部別にみると、地域学部では44%の学生が「教育・文化・学術関係」で活動と高い数値を示しています。医学部では39%の学生が「社会福祉関係」で活動し、「自然環境保護関係」では、農学部学生の30%、工学部の23%が活動と高い数値になっていて、それぞれの分野への高い関心が伺われます。

学部	学部全体 (%)						
	21	26	7	21	4	18	
地域学部	19	44	7	9	19		
医学部	39	24	10	7	15	5	
工学部	20	24	4	23	5	19	
農学部	18	16	10	30		21	
大学院	大学院全体 (%)						
	26	21	11	23	8	11	
	地域学研究科	30	40	10	10	10	
	医学系研究科	45	25	25		5	
	工学研究科	27	20	10	30		10
	農学研究科	17	17	15	32	4	15
連合農学研究科	33		33			34	
性別	性別 (%)						
	男性	23	22	7	23	5	18
女性	20	28	9	20	5	16	

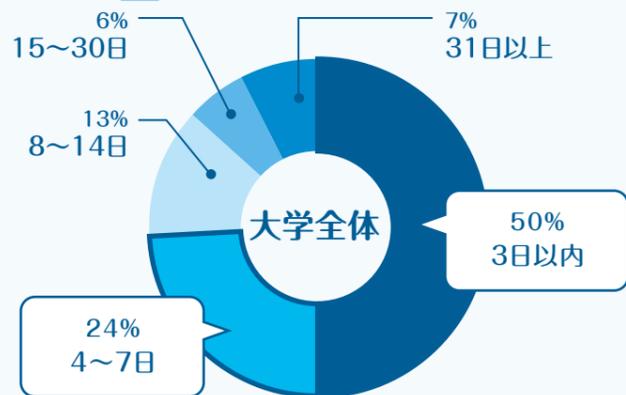
27.3 ボランティア活動を「したことがない」方へ 今後、機会があれば活動してみたいと思いますか



最近1年間にボランティア活動をしたことがない学生について、大学全体では「機会があればしたい」と「したいが暇がない」を合わせると58%、「今は特段興味がない」と「したいとは思わない」を合わせると42%で、最近、ボランティア活動歴のない学生の半数以上はボランティア活動に興味を示しており、潜在的にボランティア活動をしたいと考える学生は多いと考えられますが、高学年ほど興味を失なう傾向にあります。

学部	学部全体 (%)				
	34	23	32	11	
地域学部	49	18	26	7	
医学部	49	19	26	6	
工学部	26	24	35	15	
農学部	35	24	33	8	
大学院	大学院全体 (%)				
	36	25	27	12	
	地域学研究科	57	14	29	
	医学系研究科	50		38	10
	工学研究科	33	19	30	18
	農学研究科	29	32	34	5
連合農学研究科	22	33		45	
性別	性別 (%)				
	男性	30	22	34	14
女性	44		27	25	4

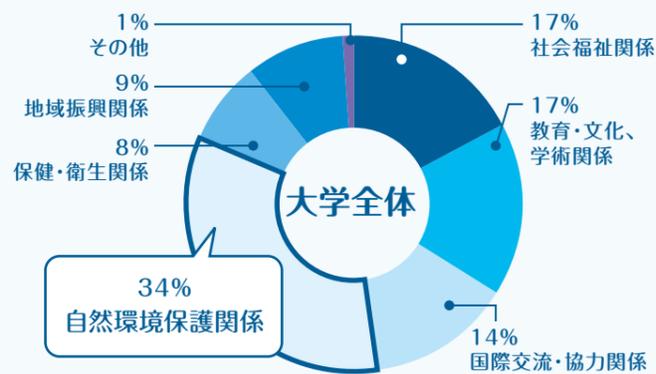
27.2 ボランティア活動を「したことがある」「している」方へ この1年間の活動日数はどの程度でしたか



最近1年間のボランティア活動の活動日数について、大学全体では「3日以内」が50%と最も多く「4日～7日」が24%、「8～14日」が13%となっており、「31日以上」活動している学生も7%います。学部学生と大学院学生の比較ではほぼ同じ傾向で、男女比較では女子学生の方が少し男子学生より活動日数が多いようです。

学部	学部全体 (%)					
	50	24	13	5	8	
地域学部	44	25	8	8	15	
医学部	45	32	5	5	13	
工学部	52	22	15		8	
農学部	54	24	9	7	6	
大学院	大学院全体 (%)					
	49	23	13	7	6	
	地域学研究科	40	30	20	10	
	医学系研究科	44	28	22		6
	工学研究科	46	11	28	7	7
	農学研究科	56	26	11	6	
連合農学研究科	67				33	
性別	性別 (%)					
	男性	53	21	13	5	8
女性	48	27	11	6	8	

27.4 ボランティア活動を「機会があればしたい」「したいが暇がない」方へ 活動するとすればどのような活動分野ですか

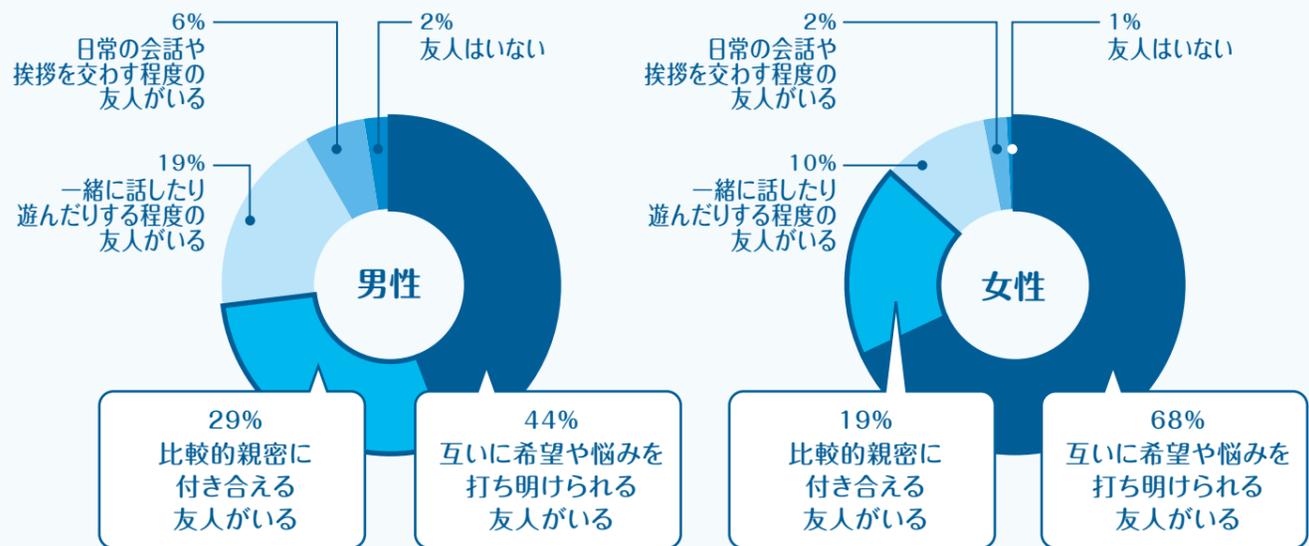


ボランティア活動を「機会があればしたい」または「したいが暇がない」と回答した学生について、活動するとすれば「自然環境保護関係」の分野が34%と最も多く、次に「社会福祉関係」、「教育・文化・学術関係」がそれぞれ17%でした。

学部	学部全体 (%)						
	18	15	15	33	8	10	
地域学部	11	35	18	15	19		
医学部	31	10	21	9	27		
工学部	21	15	12	35	5	12	
農学部	12	11	13	49	5	8	
大学院	大学院全体 (%)						
	16	21	12	36	7	7	
	地域学研究科	25		50		25	
	医学系研究科	26	23	23		23	
	工学研究科	15	29	5	38	9	4
	農学研究科	20	15		60		5
連合農学研究科	17	33	17	17		16	
性別	性別 (%)						
	男性	18	18	11	36	5	11
女性	17	15	18	30	12	8	

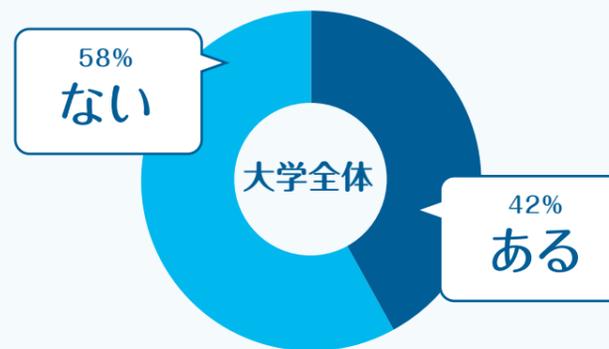
6.人間関係

28 あなたは、どの程度つきあえる友人がいますか



どの程度つきあえる友人がいるかについて、男女別にみると、「互いに希望や悩みを打ち明けられる友人がいる」が、女性68%に対して男性は44%と明らかに少なく、有意差が認められます。これは女性の方が男性に比較すると社交性が高く、男子学生は友人作りが、女子学生より苦手なためではないかと推測されます。また、「友人はいない」も女性1%に対し、男性は2%と同様な傾向を示しています。

30 あなたは、教員と親しく話し合ったり、または相談したりすることはありますか



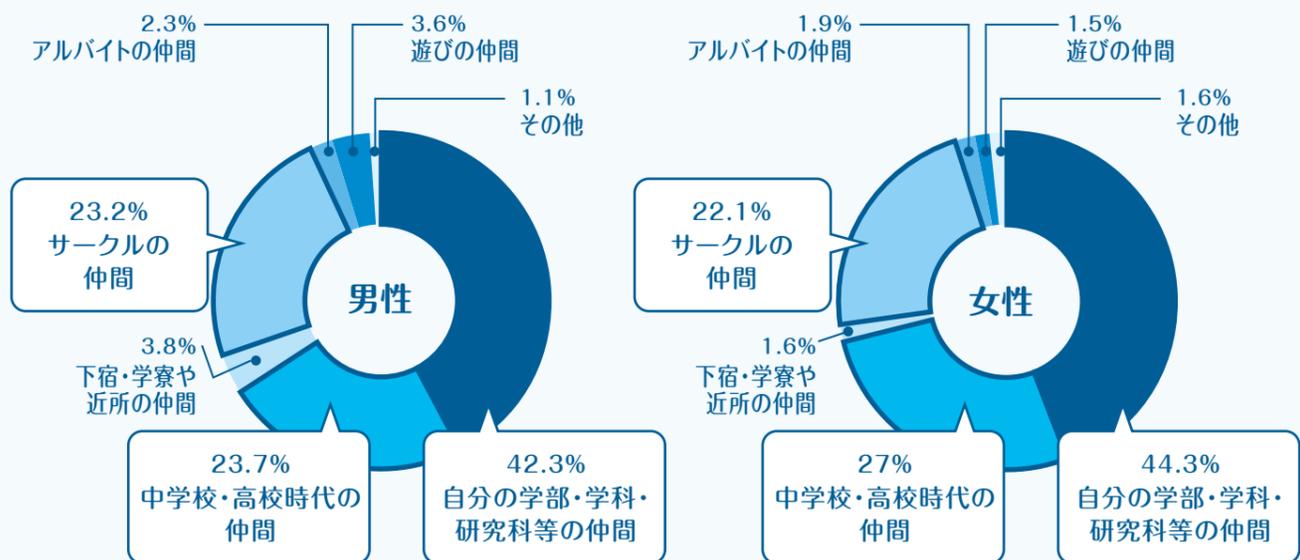
教員と親しく話し合ったり、相談することがあるかについては、大学全体では、「ある」52%、「ない」58%で、男女差はあまりなく、また、大学院学生の方が学部学生より「ある」の比率が高く、また、入学年度別にみると高学年の方が「ある」の比率が高くなっています。特に低学年の学部学生と教員との相談機会を増やすための工夫や対策が課題と言えます。

学部	入学年度別 (%)	
	「ない」	「ある」
学部全体	36	64
平成22年度	19	81
平成21年度	24	76
平成20年度	33	67
平成19年度	56	44
平成18年度以前	54	46

大学院	入学年度別 (%)	
	「ない」	「ある」
大学院全体	69	31
平成22年度	65	35
平成21年度	71	29
平成20年度	65	35
平成19年度	81	19
平成18年度以前	71	29

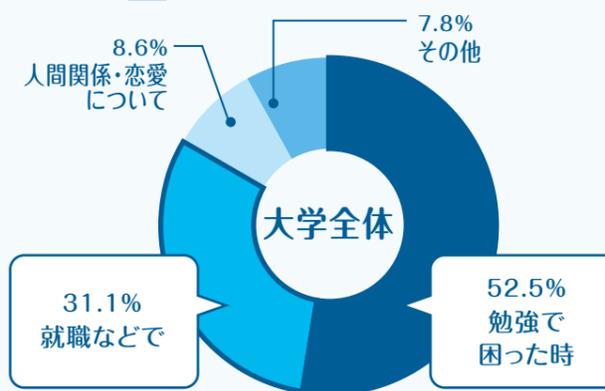
性別	割合 (%)	
	「ない」	「ある」
男性	41	59
女性	45	55

29 友人について「互いに希望や悩みを打ち明けられる友人がいる」「比較的親密に付き合える友人がいる」それはどのような友人ですか



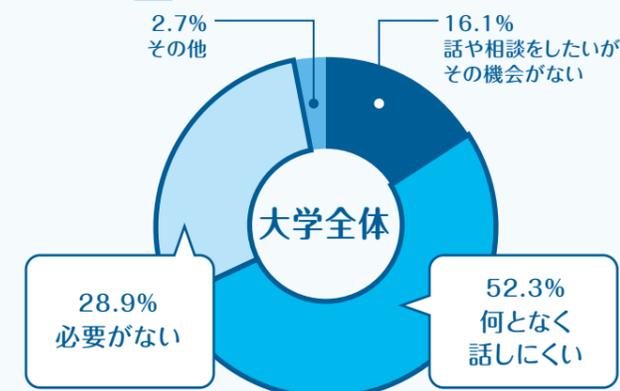
「互いに希望や悩みを打ち明けられる友人がいる」または「比較的親密に付き合える友人がいる」と回答した場合、それはどのような友人かについて、「学部・学科の仲間」が一番多く、次に「中学・高校時代の仲間」、「サークル等の仲間」の順になっています。これは男女ほぼ同じ傾向を示していて、同じ学部・学科やサークルでの出会いが、友人作りに重要な機会を提供していることを示しています。

31 教員と親しく話し合うなどが「ある」その内容はどのようなものですか



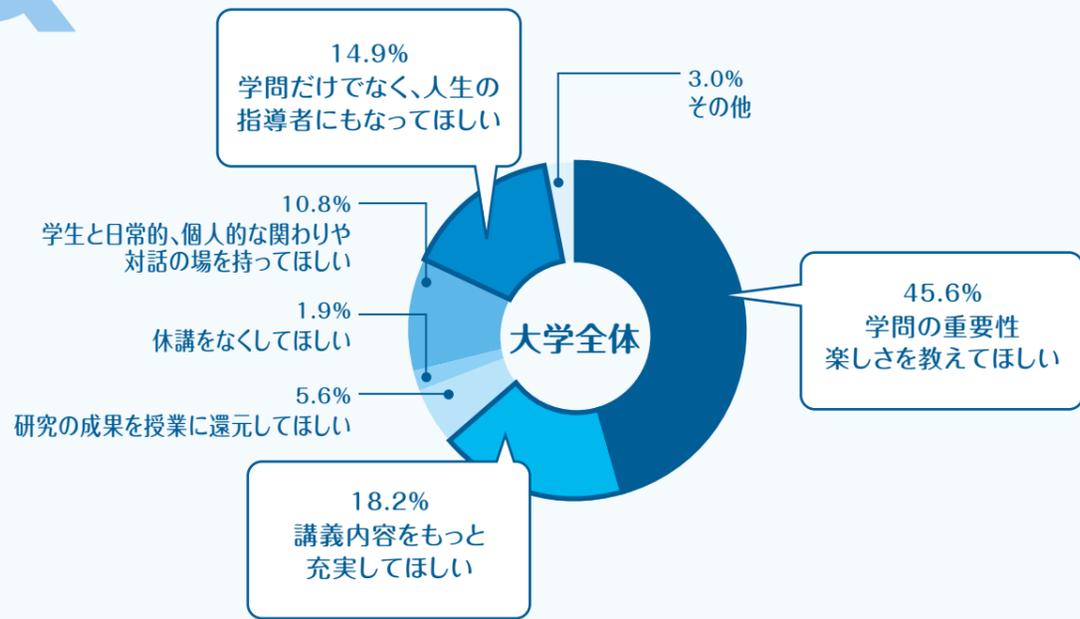
教員と話し合ったりまたは相談したりすることがある場合、その内容はどのようなものかについて、大学全体では「勉強で困った時」が52.5%で一番多く、次に「就職など」が31.1%で、「人間関係・恋愛など」、よりプライベートな内容は8.6%と少なく、相談しにくい内容であることを示しています。

32 教員と話し合うなどが「ない」それはどのような理由によるのですか



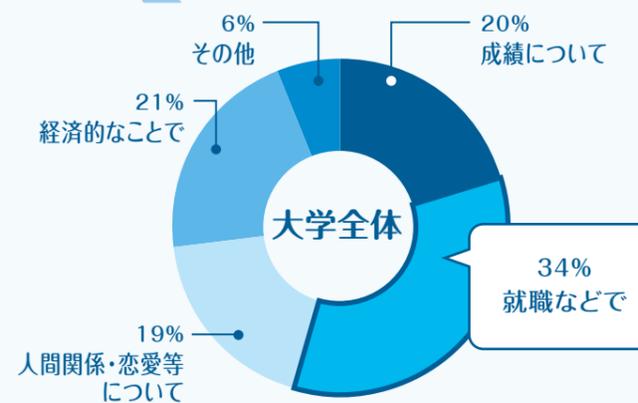
教員と話し合ったり相談したりしない場合、その理由は、大学全体では「何となく話しにくい」が52.3%、「話や相談をしたいが機会がない」が16.1%、「必要がない」と回答した学生は28.9%となっています。相談の機会が増えるように、相談しやすい体制作りにさらに工夫が必要です。

33 あなたは、大学の教員にどんなことを最も期待しますか



本学教員にどんなことを最も期待するかについて、大学全体では「学問の重要性、楽しさを教えてほしい」が45.6%と最も多く、「講義内容をもっと充実してほしい」が18.2%、「学問だけでなく、人生の指導者にもなってほしい」14.9%、「学生と日常的、個人的な関わりや対話の場を持ってほしい」10.8%の順でした。

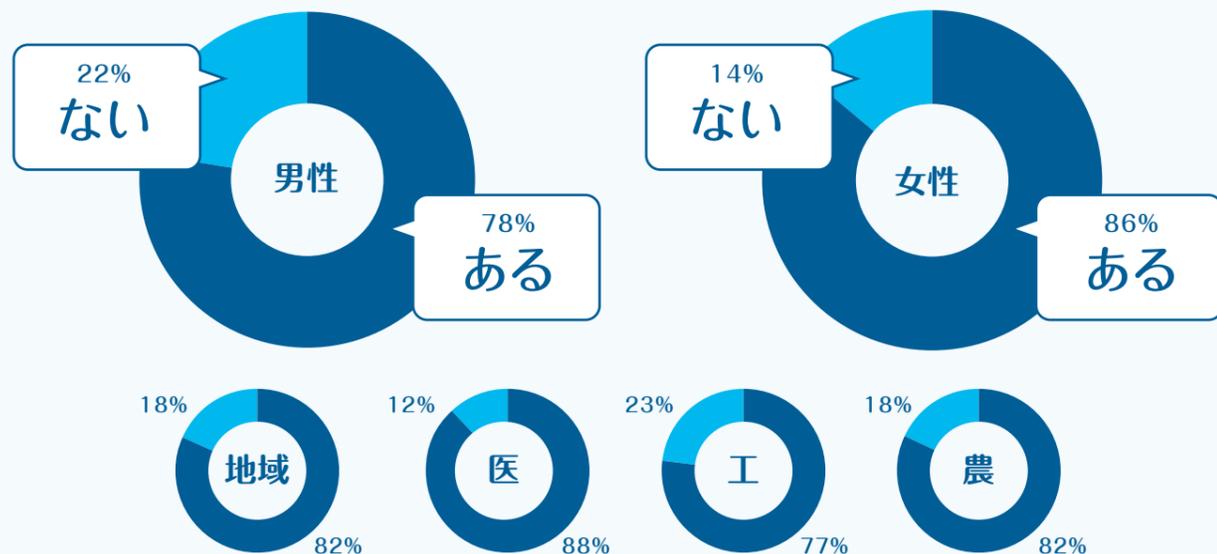
35 保護者と親しく話しあったり等が「ある」と答えた方に尋ねますその内容はどのようなものですか



保護者と親しく話しあったり、相談したりする内容について、学部や入学年度に差が見られました。工学部生は、成績についての話が他学部生よりも多いようです。また、入学年度で見ると3年生以上の学生では、就職に関する相談が、また、大学院学生では、経済的なことが多いということが分かりました。

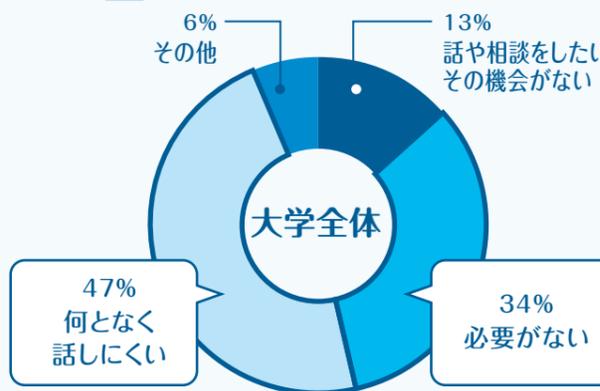
学部	話し合いの内容 (%)				
	就職などで	成績について	経済的なことで	人間関係・恋愛等について	その他
学部全体	34	20	21	19	6
地域学部	31	25	21	17	6
医学部	29	26	17	17	8
工学部	33	12	24	24	4
農学部	33	22	18	18	7
大学院					
大学院全体	40	15	24	15	8
地域学研究科	28	24	32	12	4
医学系研究科	30	25	23	18	4
工学研究科	44	12	21	16	7
農学研究科	47	13	24	11	5
連合農学研究科	28	17	39	5	11
性別					
男性	36	12	24	23	5
女性	32	30	16	16	6

34 あなたは、保護者と親しく話しあったり又は相談したりすることがありますか



保護者と親しく話しあったり、相談したりすることがあるかについて、大学全体では81%でした。学部別では、医学部が「ある」がやや高い以外には大きな差は見られませんでした。男女の差が若干見られ、女性の方が保護者と親しくしていることが分かりました。

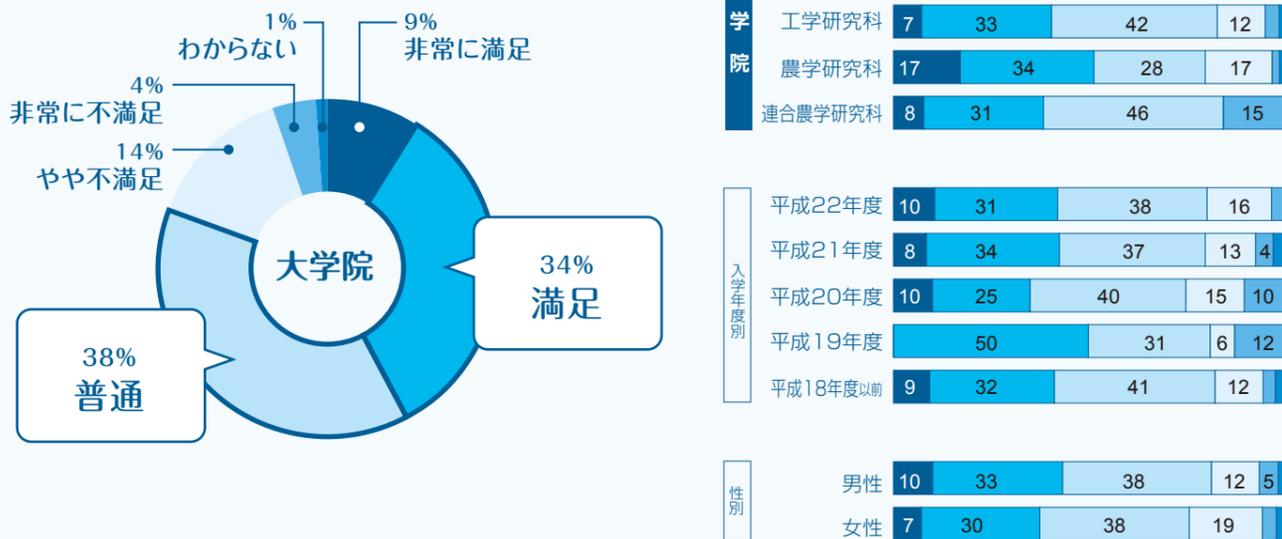
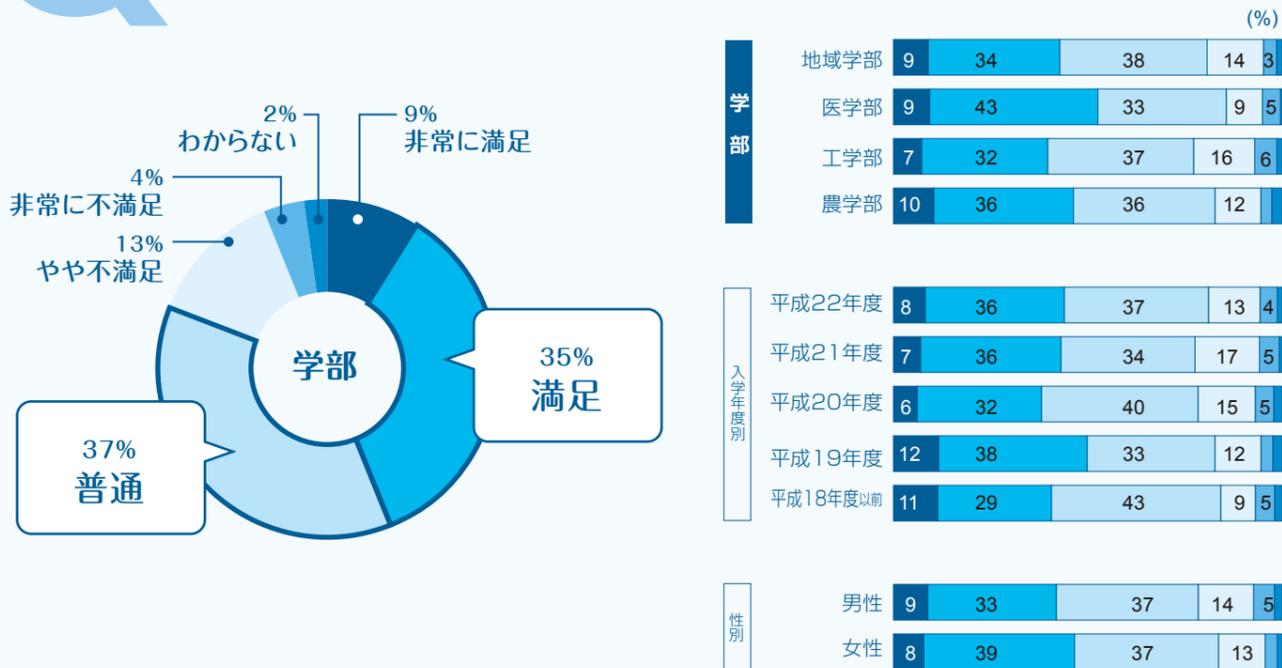
36 保護者と親しく話しあったり等が「ない」と答えた方に尋ねますそれはどのような理由によるのですか



保護者と親しく話しあうことや、相談しない理由を尋ねると、話す必要がないと回答した学生は約半数でした。残りの半数は学部や入学年度により若干異なりますが、「何となく話しにくい」、「機会がない」の順でした。

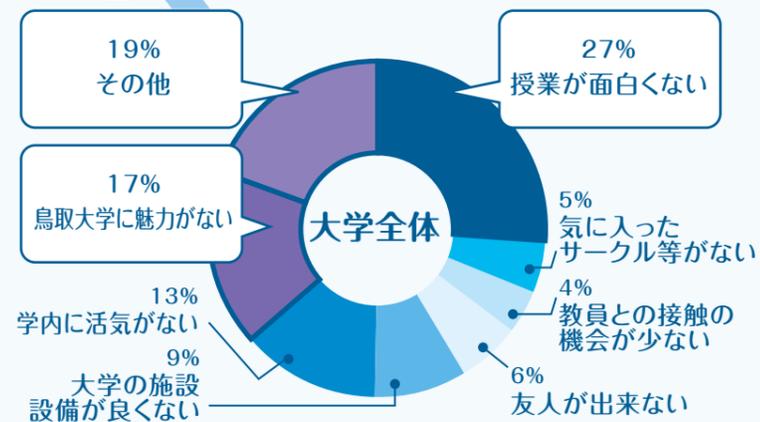
学部	理由 (%)			
	必要がない	話や相談をしたいがその機会がない	何となく話しにくい	その他
学部全体	34	13	47	6
地域学部	44	40	12	4
医学部	40	52	4	4
工学部	37	43	17	3
農学部	29	53	12	6
大学院				
大学院全体	23	50	15	12
地域学研究科	100			
医学系研究科	17	33	33	17
工学研究科	27	56	14	4
農学研究科	18	59	18	5
連合農学研究科	100			
性別				
男性	31	47	16	6
女性	39	47	6	8

37 あなたは、現在の学生生活に満足していますか

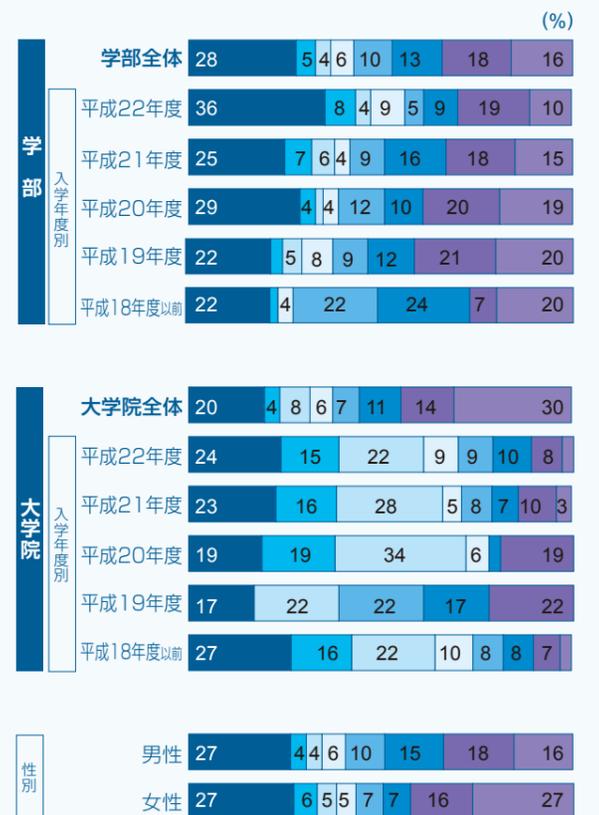


学部の場合、学部別では、医学部が「非常に満足」、「満足」の合計で唯一50%を超えており、学生の満足度は高いと言えます。他の学部では「普通」が30%で最も高く、「非常に満足」、「満足」の合計は農学部で45%、地域・工学部では40%前後です。逆に「やや不満」は医・農学部は10%前後にとどまりますが、地域・工学部では15%を占め、「非常に不満」との合計は20%前後に達します。学年別では、「非常に満足」、「満足」は1年次から3年次にかけては学年が進むにつれて漸減するものの、4年次には一転して増大しています。逆に「やや不満」、「非常に不満」は1年次から2年次にかけて増大、その後は学年が進行するにつれて減少する傾向にあります。大学院の場合、研究科別では、地域・農学研究科で「非常に満足」、「満足」の割合が高く、他の研究科では「普通」が最大となっています。他方、地域・農・医(医学・臨床心理学)では「やや不満」が20%前後を占めており、さらに医学(臨床心理学)では「非常に不満」が30%、「やや不満」・「非常に不満」の合計は50%に達しています。

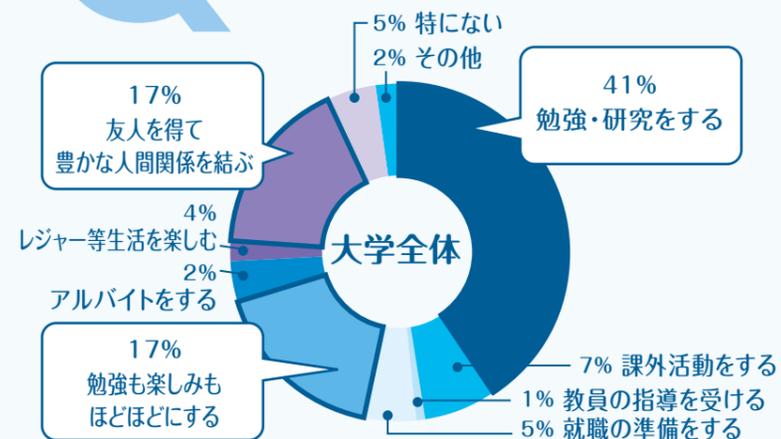
38 「問37」の質問で「やや不満」「非常に不満」と答えた方に尋ねます その理由は何ですか



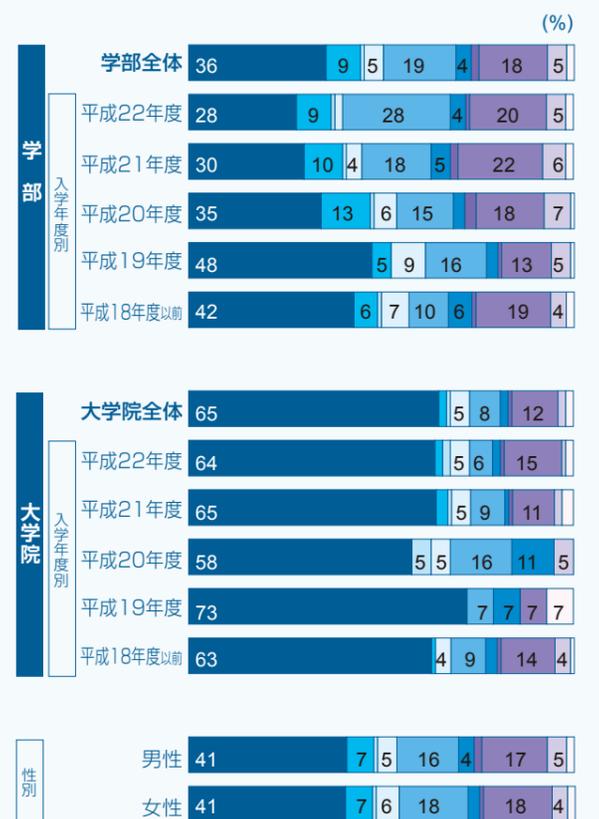
現在の学生生活に「やや不満」または「非常に不満」と回答した学生の満足していない理由(2つまで回答可)は、大学全体では「授業が面白くない」が27%と最も多く、次に「鳥取大学に魅力がない」が17%、「学内に活気がない」が13%でした。入学年度別にみると学年が上がるにつれて、「授業が面白くない」が減り、「大学の施設・設備」に対する不満が若干高まっていることが分かります。



39 あなたは、現在学生生活の中でどのような点に最も重点をおいて行動していますか



学生生活の中でどのような点に最も重点をおいて行動しているかについては、大学全体では「勉強・研究をする」が41%と最も多く、次に「勉強も楽しみもほどほどに」が17%となっています。「課外活動をする」は7%、「レジャー等生活を楽しむ」は4%と低く、社会情勢が大きく変化している中、学生生活の重点は学生の本分たる勉強や研究にシフトされ、学生の意識も大きく変化してきており、勉強以外のことに興味を持ったり、学生生活を楽しむ余裕が失ってきているとの逆の見方もできます。学部学生と大学院学生を比較すると、「勉強・研究する」は学部学生36%に対し、大学院学生65%と意識の差が際立っています。

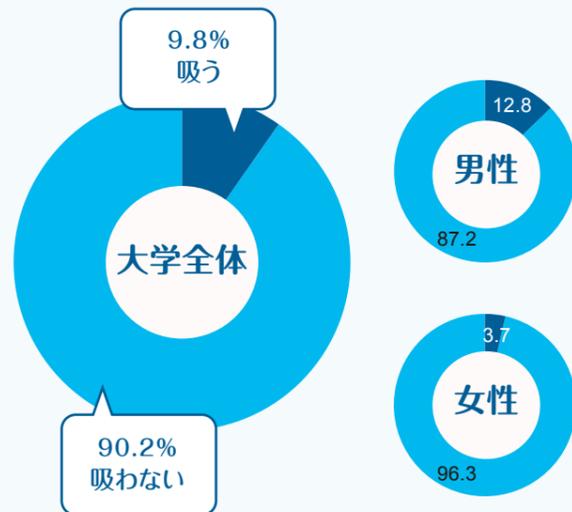


40 あなたは、平成21年10月1日から構内全面禁煙化が実施されていることを知っていますか



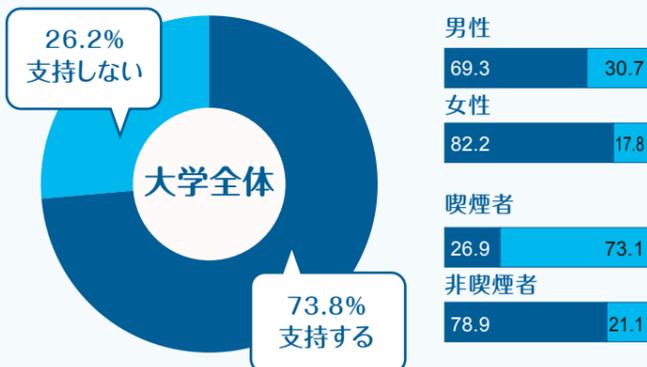
平成21年10月1日から実施されている構内全面禁煙について、大学全体で「知っている」が95%、「知らない」は5%となっており、制度の周知はほぼ図られていると言えます。

41 あなたは、煙草を習慣的に吸いますか



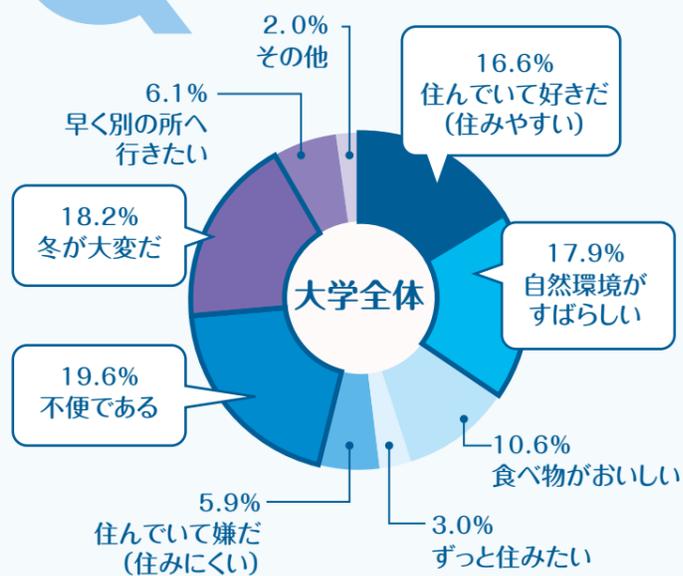
煙草を習慣的に吸っているかについて、大学全体では「吸っている」が9.8%、「吸っていない」が90.2%ですが、入学年度別に見ると学年進行とともに喫煙率が増加しており、在学中に習慣化してしまった学生が少なからずいることが分かります。また、男女別に見ると、男性の喫煙率は12.8%、女性は3.7%となっています。

42 あなたは、構内全面禁煙をどう思いますか



構内全面禁煙についてどう思うかについて、大学全体で「支持する」が73.8%、「支持しない」が26.2%となっています。学生の多数が構内全面禁煙を支持していますが、男女別では、男性の69.3%が「支持する」、30.7%が「支持しない」、女性では82.2%が「支持する」、17.8%が「支持しない」です。喫煙者と非喫煙者について「支持する」と「支持しない」をクロス集計してみると、喫煙者の中にも26.9%の学生が「支持する」としており、脱たばこ社会の実現に向けては、全面禁煙を唱えるだけでは違反者が後を絶たず、「喫煙者の脱たばこ」をいかに支援、実現していくか、現実的対応について粘り強く地道な取り組みが求められています。

43 鳥取の印象について尋ねます

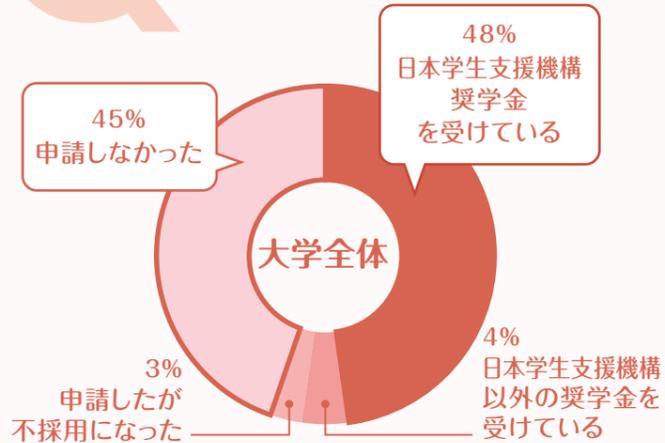


鳥取の印象について尋ねたところ、住んでいて好きだ(住みやすい)16.6%、自然環境が素晴らしい17.9%食べ物がおいしい10.6%など好印象が目立つ反面、住んでいて嫌だ(住みにくい)5.9%、不便である19.6%、冬が大変だ18.2%などの回答も見られました。



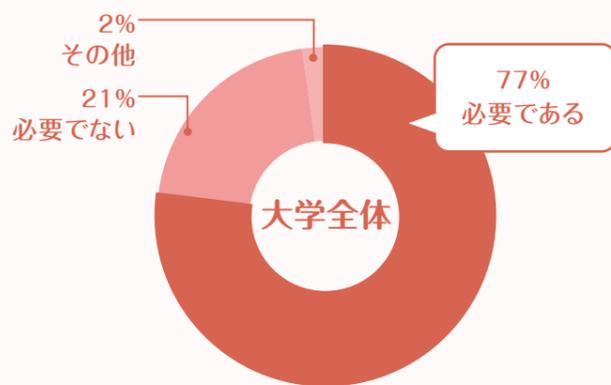
8. 経済支援体制

1 あなたは、なんらかの奨学金を受けていますか



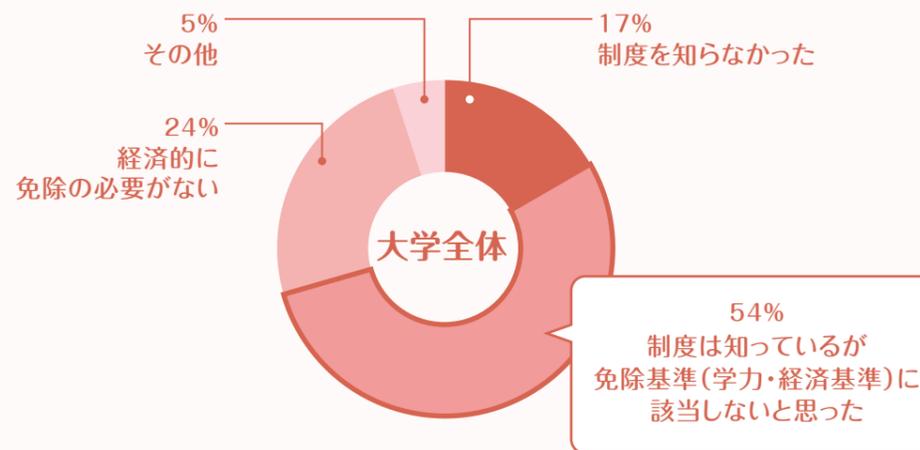
なんらかの奨学金を受けているかについて、「日本学生支援機構の奨学金を受けている」が48%、「日本学生支援機構以外の奨学金を受けている」が4%いました。「申請したが不採用になった」が3%、「申請しなかった」が45%です。別調査のデータによると、申請者数・貸与者数ともに毎年増加してきており、奨学金の重要性がますます高まっていると言えます。

2 あなたは給付型奨学金制度（貸与型とは異なり、卒業後に返還しなくてよい制度）が必要だと思いますか



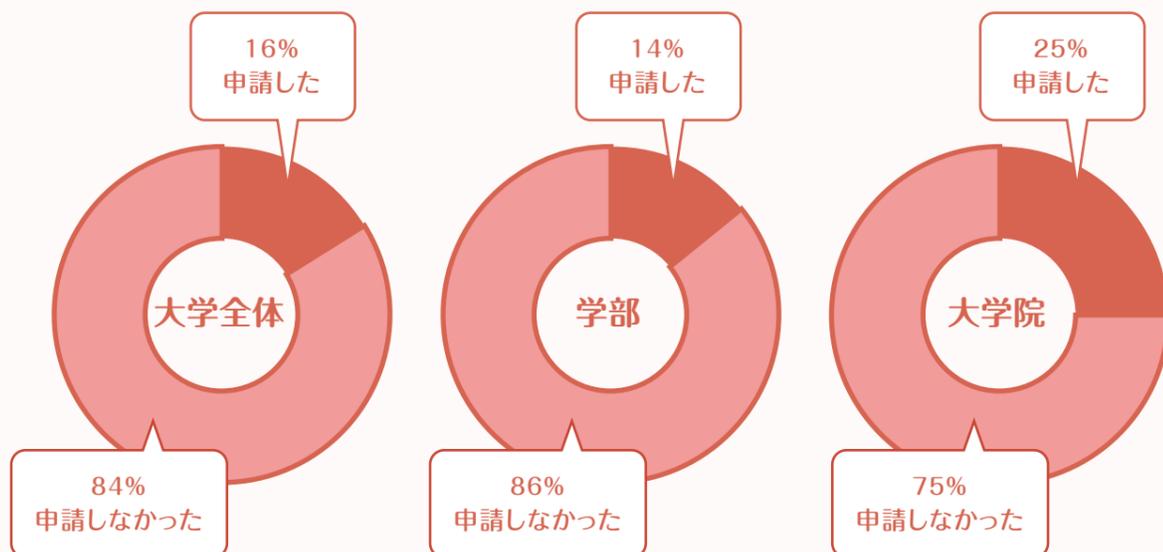
給付型奨学金の必要性について、大学全体では「必要である」が77%、「必要でない」が21%で、現在の奨学金制度のほとんどが貸与型で、さらに、本学学生が貸与されている日本学生支援機構奨学金の6割以上は、第二種（利子付き）であって、いずれも将来卒業後に返還義務があり、奨学金の重要性が高まってきていると同時に、卒業後の返還の負担も重くなっており、給付型奨学金制度の創設が強く望まれています。

4 「問3」で「申請しなかった」と答えた方に尋ねます 申請しなかった主な理由は何ですか



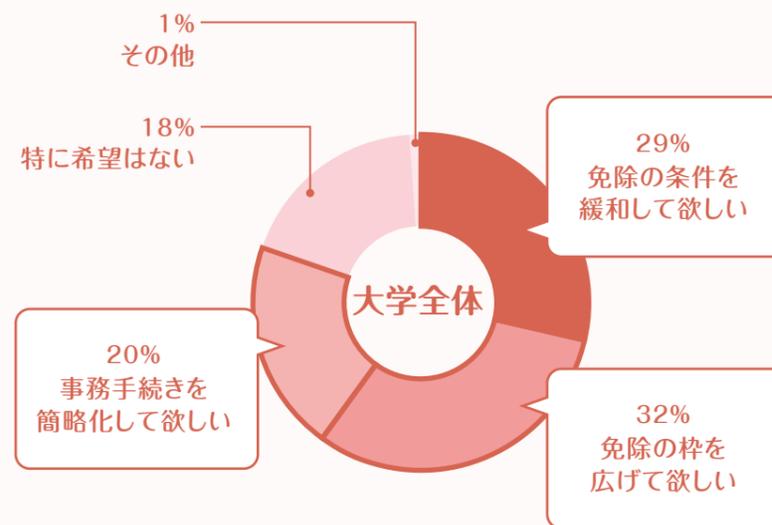
平成22年度前期分授業料免除を申請しなかった主な理由は、大学全体では「制度を知らなかった」が17%で、また、「制度は知っているが免除基準（学力・経済基準）に該当しなかったと思った」が54%でした。制度の周知・広報、説明会の開催、窓口等での相談体制についてさらに工夫・改善が必要です。なお、「経済的に免除の必要がない」と回答した学生は24%でした。

3 あなたは、平成22年度前期の授業料免除を申請しましたか



平成22年度前期分授業料免除の申請について、大学全体では「申請した」が16%、「申請しなかった」が84%でした。学部学生と大学院学生との比較では、大学院学生の方が学部学生14%に対し、25%と申請率が少し高くなっています。

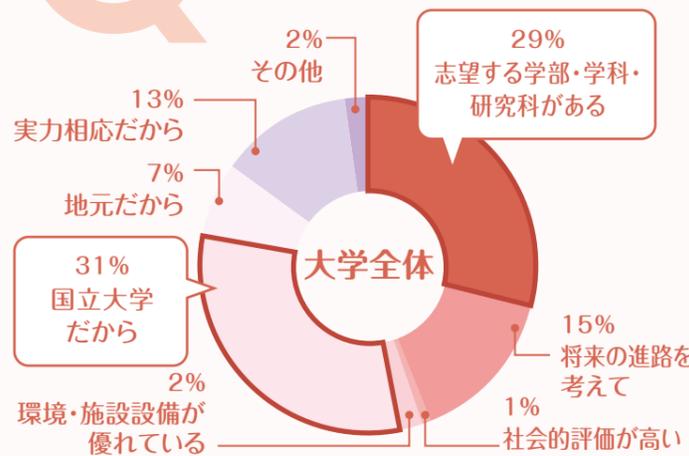
5 授業料免除について要望することがありますか 2つまで選択し回答してください



授業料免除についての要望したいことについて、「免除の枠を広げてほしい」が32%で一番多く、次に「免除の条件を緩和してほしい」29%、「事務手続きを簡略化してほしい」20%となっています。平成22年度前期分から免除枠が若干拡大し、文部科学省はさらなる拡大を決定しているものの、経済不況により免除を必要とする学生が増加している現状に対しては十分とは言えず、大学自身も厳しい財政状況の中でいかに本制度を効果的に運用していくか、今後も手続きの簡略化を含めた制度の在り方や改善方法について担当委員会等で不断に見直し検討を行う必要があると言えます。

9. 学習支援体制

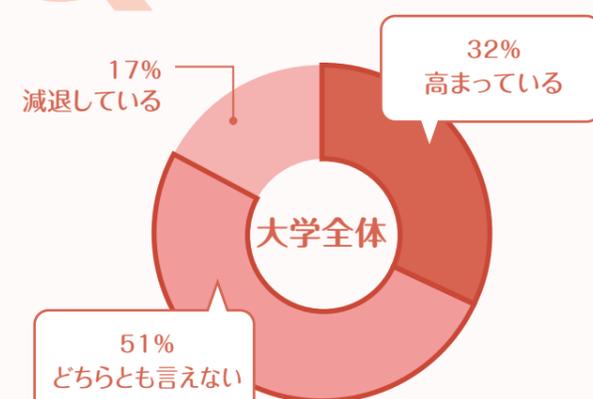
6 入学志望動機はどれですか



入学志望動機について、「志望する学部・学科・研究科がある」と「国立大学だから」がほぼ同じ割合でトップです。入学年度では大きな変化は見られませんが、学部別では、地域学部と工学部では「国立大学だから」が非常に多いです。また、大学院学生では「志望する学部・学科・研究科がある」がどの研究科においても一番多いです。

学部	学部全体 (%)				
	高まっている	減退している	どちらとも言えない	その他	不明
学部全体	32	14	29	7	14
地域学部	30	16	20	13	16
医学部	25	24	34	8	8
工学部	41	11	19	6	19
農学部	26	13	41	4	9
大学院	大学院全体 (%)				
大学院全体	48	17	34	7	11
地域学研究科	28	11	37	19	7
医学系研究科	55	28	31	6	8
工学研究科	55	16	28	7	15
農学研究科	36	17	37	8	11
連合農学研究科	23	9	43	17	4
性別	性別 (%)				
男性	33	14	27	6	15
女性	27	16	33	8	10

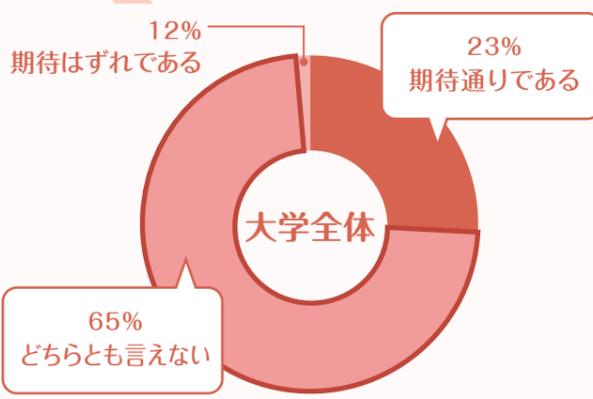
7.2 あなた自身の学習意欲について、現在の心境を尋ねます



学習意欲は、1年生から3年生にかけて「高まっている」が徐々に下がっていますが、4年生になって急に上昇しています。これは、4年生になればどの学部でも卒業論文のために研究室やゼミに配属され、本来、自分たちが期待していた研究や勉強ができるためと推測されます。それは、学部と大学院を比較して、大学院の方が「高まっている」の割合が高いことから、そのように考えられます。

学部	学部全体 (%)		
	高まっている	減退している	どちらとも言えない
学部全体	51	19	30
地域学部	51	18	32
医学部	51	17	33
工学部	54	21	25
農学部	49	16	35
大学院	大学院全体 (%)		
大学院全体	48	11	41
地域学研究科	28	5	67
医学系研究科	55	10	35
工学研究科	55	10	35
農学研究科	36	11	51
連合農学研究科	23	8	69
入学年度別	入学年度別 (%)		
平成22年度	51	19	30
平成21年度	53	17	30
平成20年度	56	19	25
平成19年度	48	15	37
平成18年度以前	42	19	39
性別	性別 (%)		
男性	51	18	31
女性	50	16	34

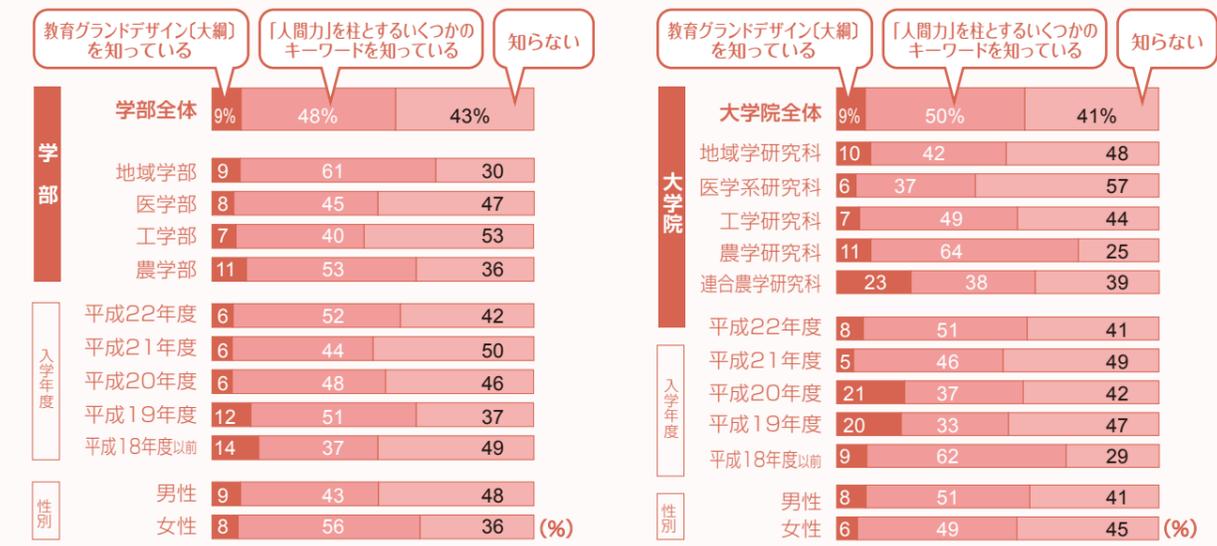
7.1 あなたの入学時の大学への期待感について、現在の心境を尋ねます



大学への期待感は、学部、入学年度においても大きな差がなく、「どちらとも言えない」が60~70%を占めています。

学部	学部全体 (%)		
	期待通りである	期待はずれである	どちらとも言えない
学部全体	64	13	23
地域学部	66	10	24
医学部	64	14	22
工学部	66	15	19
農学部	60	11	29
大学院	大学院全体 (%)		
大学院全体	67	10	23
地域学研究科	59	41	41
医学系研究科	67	10	23
工学研究科	72	10	18
農学研究科	59	12	29
連合農学研究科	69	8	23
入学年度別	入学年度別 (%)		
平成22年度	65	13	22
平成21年度	63	13	24
平成20年度	68	12	20
平成19年度	60	12	28
平成18年度以前	68	11	21
性別	性別 (%)		
男性	66	13	21
女性	62	11	27

8.1 鳥取大学が定めた「教育グランドデザイン」及びその柱である「人間力」についてあなたは、「教育グランドデザイン〔大綱〕」あるいは「人間力」について知っていましたか

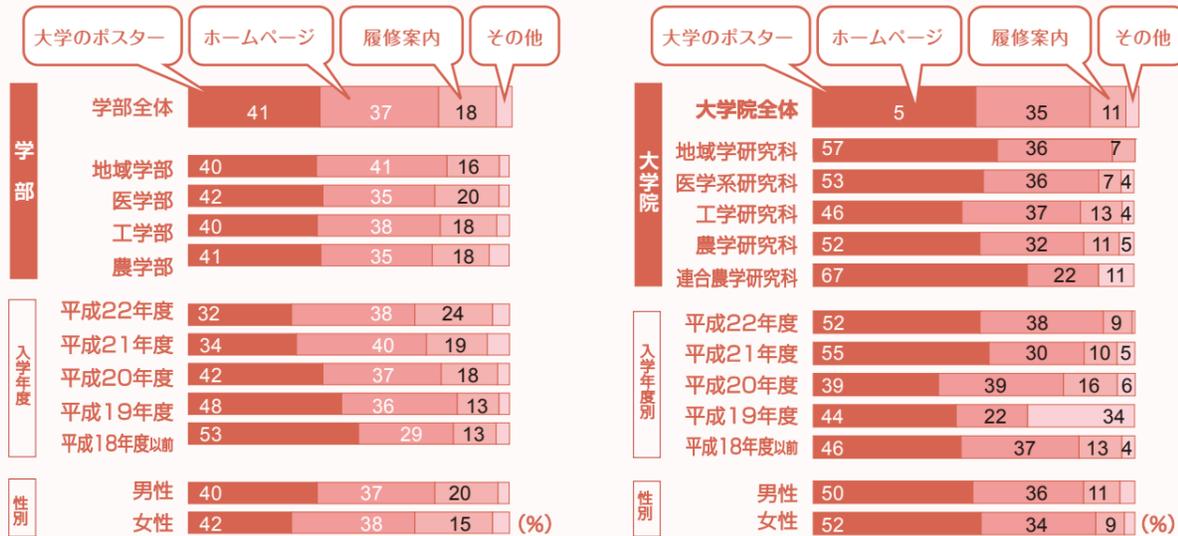


いずれの学部・研究科も「知っている」は概ね10%、あるいは10%未満にとどまっています。「いくつかのキーワードを知っている」が最大となっているのは学部では農学部・地域学部、大学院では農学・工学研究科です。「知らない」が最大となっているのは、学部では工学部・医学部、大学院では地域学・医学研究科です。入学年度を見ると、学部・大学院とも学年が進行するにつれて「知っている」の比重が上昇しており、多くの学生は入学後に認知していることが伺えます。

9. 学習支援体制

8-2

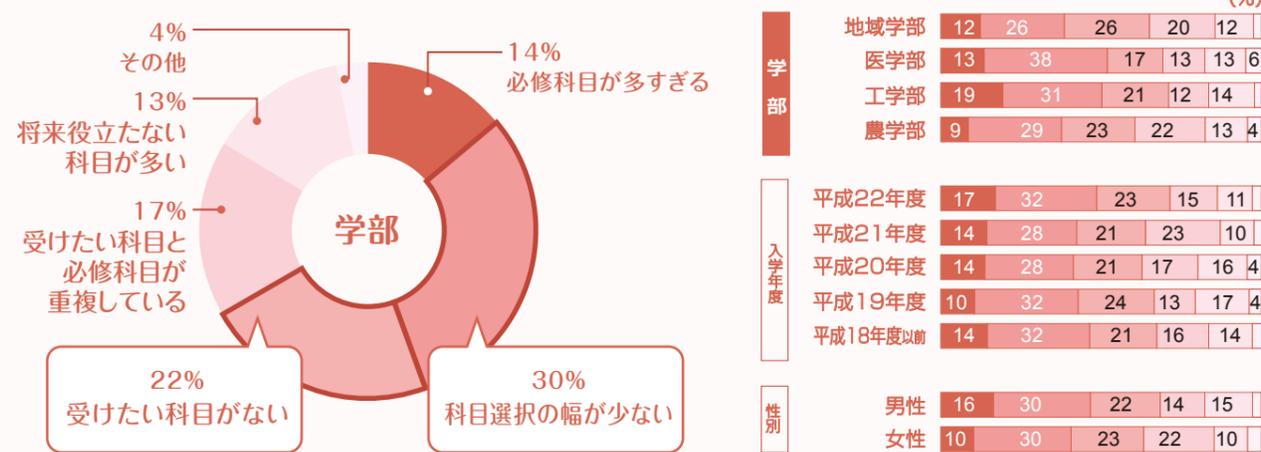
問8-1の質問で「知っている」と答えた人に尋ねます
どのようにして知りましたか



学部別ではいずれの学部でもポスター及び大学ホーム・ページの2つが情報源です。なお履修案内で知った学生もが20%近く存在しており、入学後に認知した事実を裏付けるものと言えます。学年別では、学部の場合は低学年ほどホームページで、高学年ほどポスターで認知する機会が多くなっていますが、大学院の場合は全ての学年でポスターが最大の情報源になっています。

10-1

「問9」で「どちらとも言えない」または「期待はずれである」と答えた人で、
カリキュラムに不満があるとすれば、どのような点にありますか
全学共通科目について、主な不満理由を回答してください
(学部学生への質問・選択肢から2つまで回答)



学部別では、いずれの学部でも「科目選択の幅が少ない」、「受けたい科目がない」がそれぞれ20-30%を占め、1位・2位を占めています。うち医学部では「科目選択の幅が少ない」が単独で40%を占めますが、これは鳥取地区・米子地区における全学共通教育スタッフの量的な違いによると思われる。また工学部では「必修科目が多すぎる」が20%近くに達し、他の学部には比して高いですが、これはいわゆる専門基礎に該当する科目が多いことを示唆しています。他方、地域・農学部では「受けたい科目と、必修科目が重複している」が20%前後を占め、他の学部には比して高いですが、これは教職科目や学部指定の科目を、本来自由選択であるべき教養科目として修得させるシステムに由来すると思われる。入学年度別では、「科目選択の幅が少ない」がいずれの学年でも最大ですが、学年が進行するにつれて「必修科目が多すぎる」、「受けたい科目と必修科目が重複している」は減少、逆に「将来役に立たない科目が多い」は増大する傾向にあります。

9

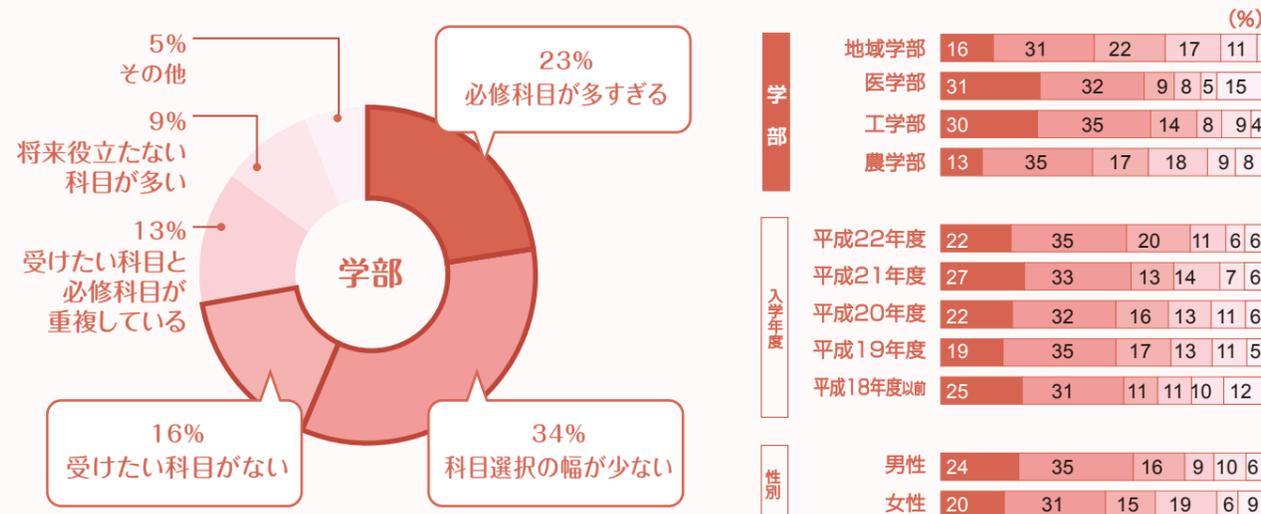
あなたは、鳥取大学のカリキュラムについて、どう思いますか



学部別ではいずれの学部でも「どちらとも言えない」が60%を超えて最大となっています。地域・工・農学部では、「期待通り」が概ね20%前後、「期待はずれ」が15%前後と続いています。逆に医学部では「期待はずれ」が20%近い数値を示し、「期待通り」は15%にとどまっています。学年別ではやはりいずれの学年でも「どちらとも言えない」が60%を超えて最大です。1年生では「期待通り」が「期待はずれ」を大幅に上回っていますが、2年生では「期待はずれ」が「期待通り」を若干上回り、3・4年生では再び「期待通り」が「期待はずれ」を上回っています。大学院でも「どちらとも言えない」が最大ですが、地域・医・工学研究科では「期待通り」が「期待はずれ」を上回り、特に地域学研究科でその傾向が顕著ですが、農連合農学研究科では「期待はずれ」が「期待通り」を大幅に上回っています。入学年度別では、平成20年度・平成18年度以前入学を除いて、全て「期待はずれ」が「期待通り」を上回っています。

10-2

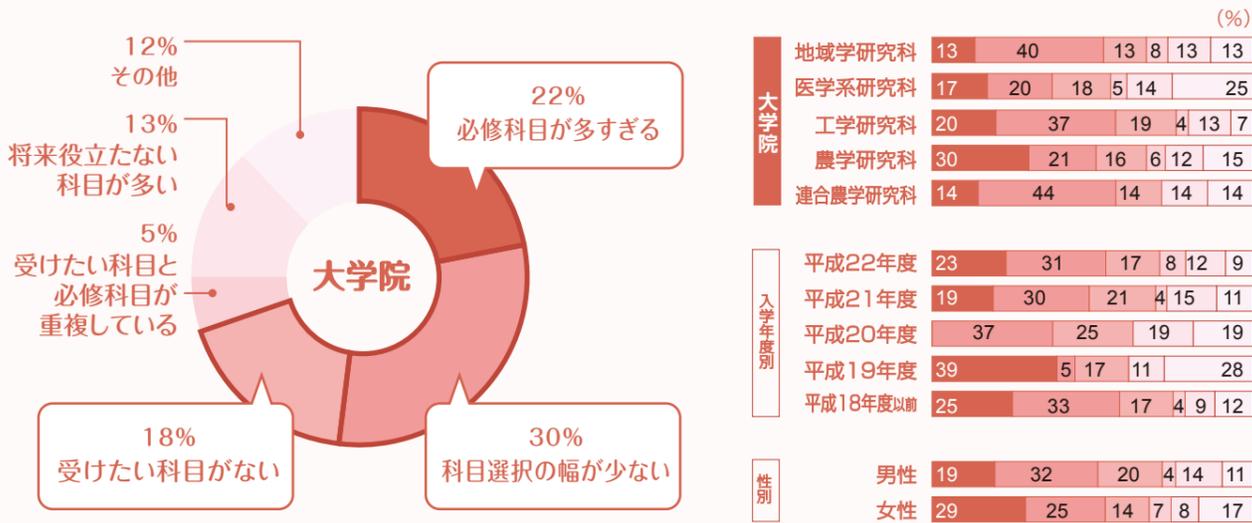
専門科目について、主な不満理由を回答してください
(学部学生への質問・選択肢から2つまで回答)



学部別では、いずれの学部でも「科目選択の幅が少ない」が30%を超えて最大です。次いで、工・医学部では「必修科目が多すぎる」がほぼ30%前後で続きますが、地域学部では「受けたい科目がない」、農学部では「受けたい科目と必修科目が重複する」が2番目の不満として挙げられています。なお医学部では「その他」の不満理由が15%を占め、他の学部には比して高くなっています。学年別では、学年が進行するにつれて、「必修科目が多すぎる」は減少、「受けたい科目がない」は増加する傾向にあります。

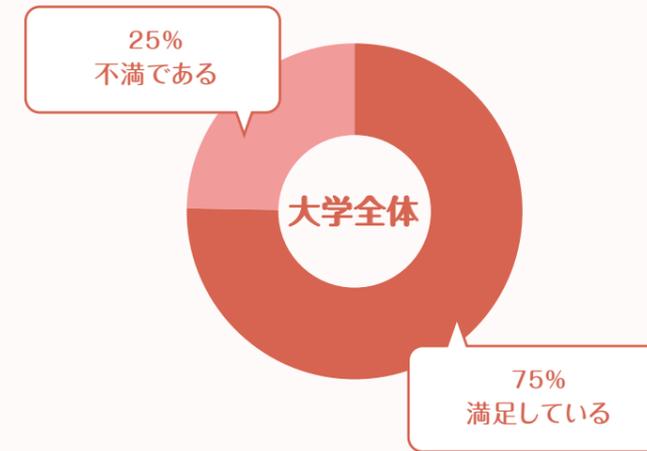
9. 学習支援体制

10-3 大学院の授業科目について、主な不満理由を回答してください (大学院学生への質問・選択肢から2つまで回答)



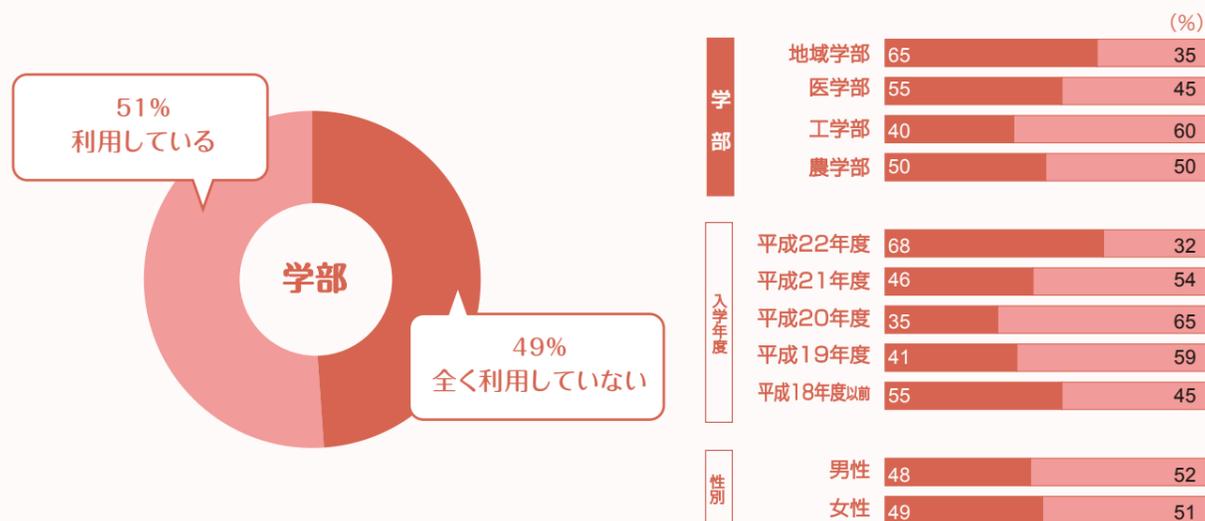
研究科別に最大の不満理由を見れば、医(医学)・農学研究科では「必修科目が多すぎる」、地域・工・連合農学研究科では「科目選択の幅が少ない」、また医学(博士前・後)では「受けた科目がない」、医学(臨床心理学)では「その他」、が指摘されています。入学年度別では、不満理由は各選択肢にほぼまんべんなく分散しており、何らかの傾向を読みとることは難しいです。むしろ「その他」の不満理由が学年進行とともに増大していることから分かるように、在学年数が増えるにつれて不満理由は多様化していると思われる。

12 大学内でインターネットや電子メールを利用する際のネットワーク環境について満足していますか



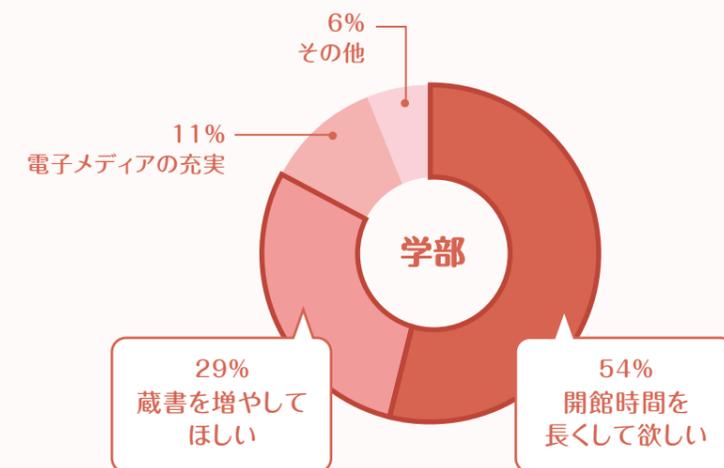
大学内でインターネットや電子メールを利用する際のネットワーク環境について満足しているかについて、大学全体では「満足している」が75%、「不満である」が25%でした。不満の具体的な理由としては、学内限定だから、繋がりにくいから、遅いから、接続の仕方が分かりにくいから、セキュリティが強すぎるから、ラウンジ・サークル棟に繋がらないから、LANケーブルがない所があるから、昼間重いから等が挙げられました。

11 「コミュニケーション英語」及び「情報リテラシ」以外で必携パソコンを利用していますか (学部学生への質問)



現在、必携パソコンを利用した授業を実施している「コミュニケーション英語B」や「情報リテラシ」以外で必携パソコンを利用しているかについて、大学全体では「全く利用していない」は49%、「利用している」は51%でした。学部別では、工学部が「利用している」が60%と高く、農学部50%、医学部45%、地域学部35%でした。具体的な利用科目としては化学実験演習、生物学I、大学入門ゼミ、機械創成、測量学、プログラミング、ITキャリア、農学入門、農学実習等がありました。今後も必携パソコンの活用範囲をさらに拡大していく必要があると言えます。

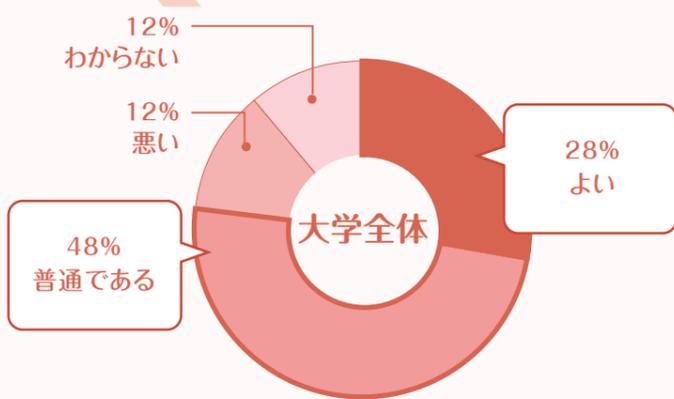
13 図書館の利用について



図書館に求めるものについては、本アンケートと同時に実施された「鳥取大学附属図書館利用者アンケート」の中にある「図書館サービスの中で特に改善・充実すべきだと思うもの」の設問がより詳細な内容になっていますが、本アンケートの調査結果により、「開館時間を長くしてほしい」が54%、「蔵書を増やしてほしい」が29%、「電子メディアの充実」が11%となっていることが分かり、図書館利用者の全体的な要望傾向を知ることができます。

9. 学習支援体制

14 事務職員の対応はどうか



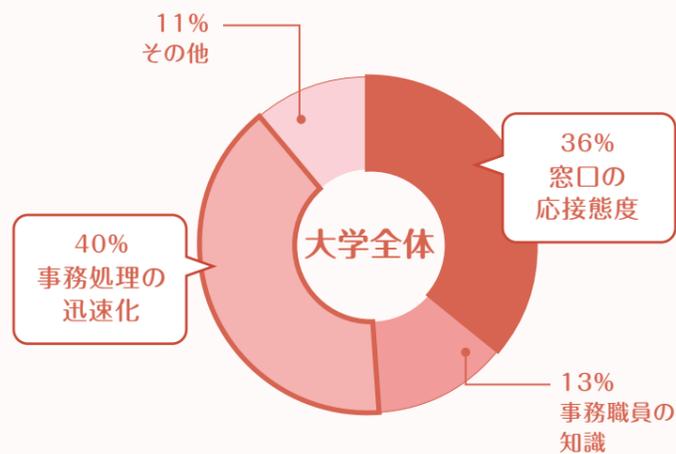
事務職員の対応については、大学全体では「よい」が28%、「普通である」が48%、「悪い」が12%となっています。「よい」とする割合は各属性でばらつきがみられますが、平成19年度の前回調査時の学部学生の回答は「よい」が20%、「悪い」が18%程度でしたので、前回からは少し改善されています。具体的な意見については「主な自由記述意見」を参照してください。

学部	性別			
	男性	女性	合計	(%)
学部全体	29	48	11	12
地域学部	34	48	10	8
医学部	28	48	13	11
工学部	32	46	8	14
農学部	24	51	15	10

大学院	性別			
	男性	女性	合計	(%)
大学院全体	26	53	12	9
地域学研究科	67			33
医学系研究科	21	55	13	11
工学研究科	26	49	17	8
農学研究科	20	56	15	9
連合農学研究科	46	39		15

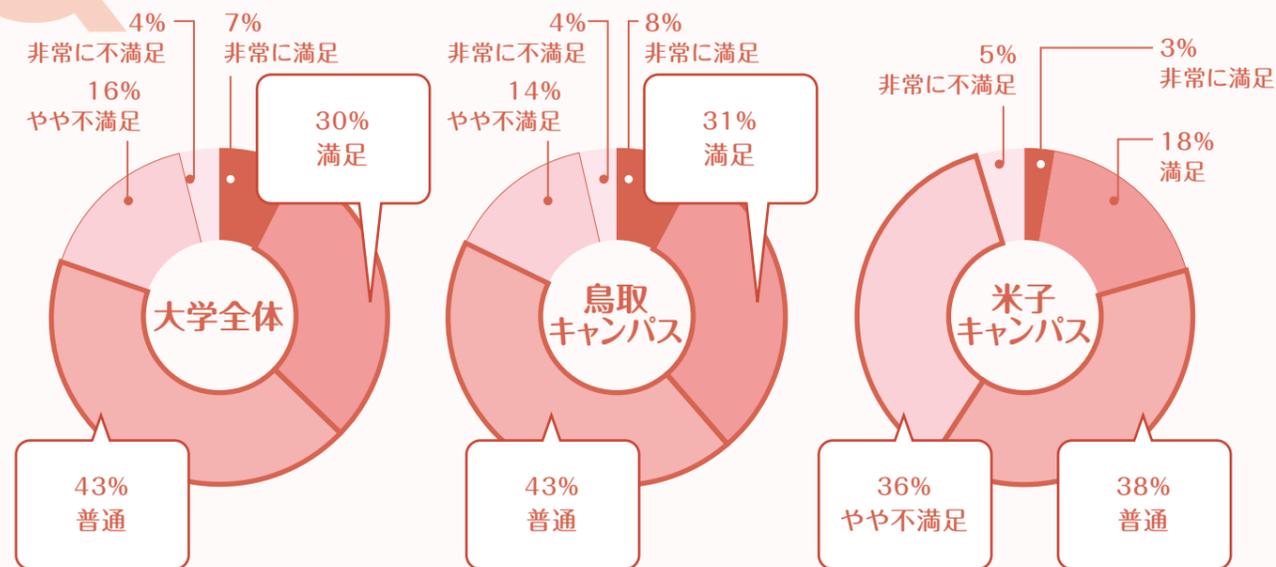
性別	性別			
	男性	女性	合計	(%)
男性	30	46	11	13
女性	26	53	12	9

15 事務の窓口サービスについて、最も改善すべき点は、どんなところですか



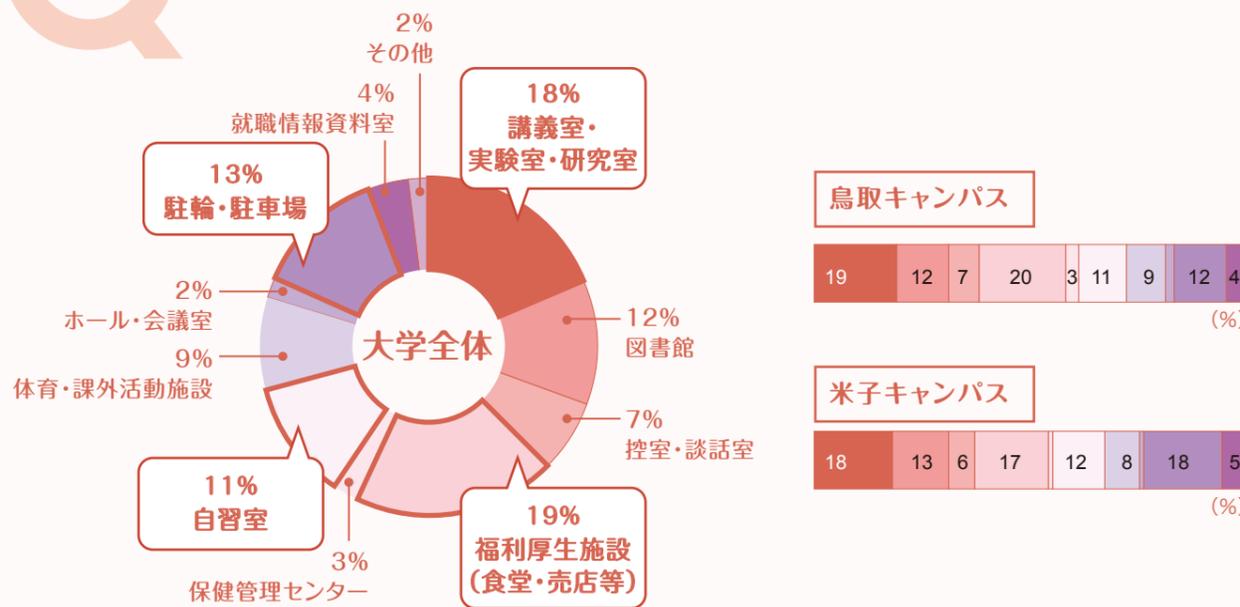
事務の窓口サービスの最も改善すべき点については、「窓口の応接態度」が36%、「事務職員の知識」が13%、「事務処理の迅速化」が40%となっており、特に応接態度の改善や速やかな事務処理が求められています。その他の意見としては、特になしがほとんどで、わからない、感じが悪い、事務職員で差がありすぎ、役所そのままの所、応接態度・知識・処理の迅速化のすべてを改善すべき等がありました。

16 大学のキャンパス環境について尋ねます



大学のキャンパス環境(米子地区の人は米子キャンパスの環境)については、大学全体では、「非常に満足」が7%、「満足」が30%、「普通」が43%、「やや不満足」が16%、「非常に不満足」が4%となっています。キャンパス別にみると、鳥取キャンパスの「非常に満足」8%「満足」31%「やや不満足」14%「非常に不満足」4%に対し、米子キャンパスは、「非常に満足」3%「満足」18%「やや不満足」36%「非常に不満足」31%とキャンパスで違いが現れています。

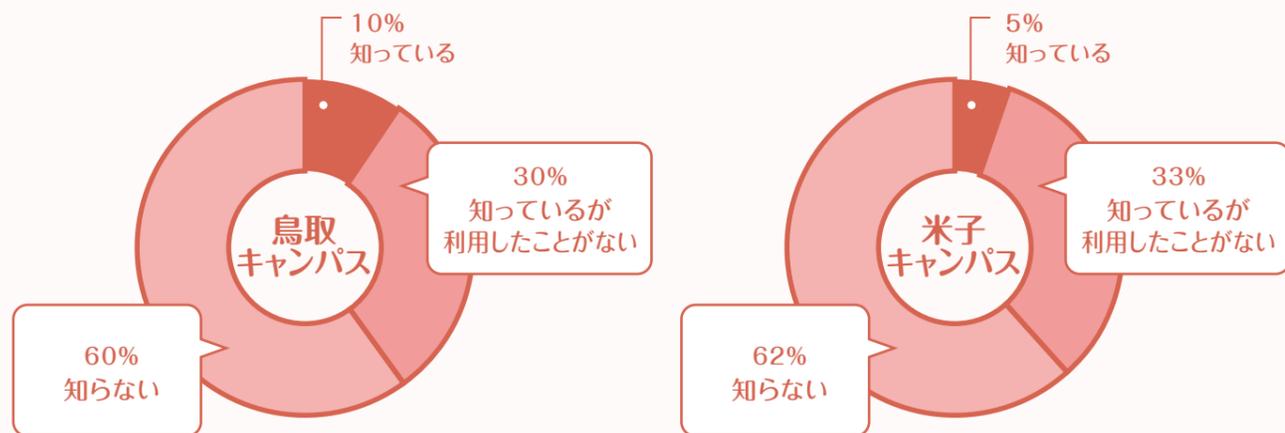
17 鳥取大学の施設等で整備充実して欲しいのはどれですか



整備充実してほしい施設等(3つまで回答可)については、大学全体でみると「講義室・実験室・研究室」が18%、「図書館」が12%、「福祉厚生施設(食堂・売店)」が19%、「体育・課外活動施設」が9%、「駐輪・駐車場」が13%と高くなっています。今回の調査では各施設等の利用頻度は調査していませんが、学生がよく利用する施設等と関連しているものと推測できます。キャンパス別にみると、ほぼ同じ傾向を示していますが、米子キャンパスでは特に「駐輪・駐車場」の充実要望が高いようです。

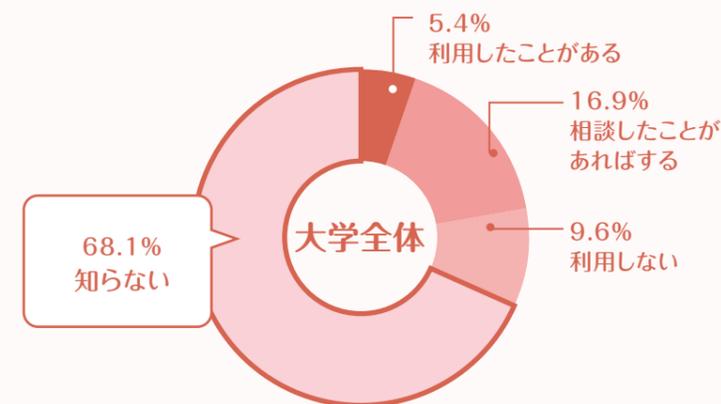
10. 生活支援体制

18 あなたは、鳥取地区に「なんでも相談」
米子地区に「学生相談窓口」のあることを知っていましたか



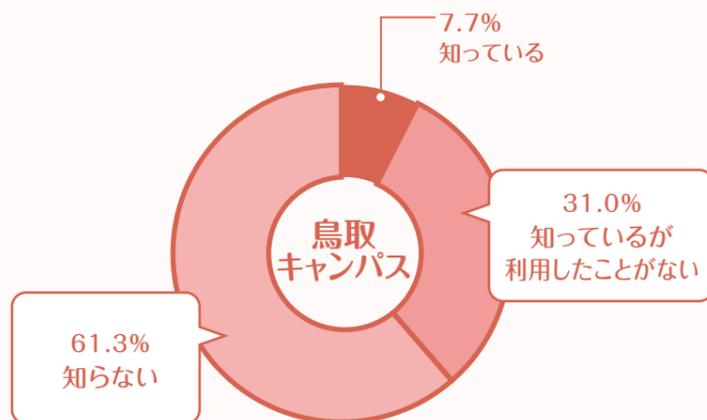
鳥取地区に「なんでも相談」、米子地区に「学生相談窓口」があることを知っていたかについてキャンパス別にみると、鳥取地区では「知っている」が10%、「知っているが利用したことがない」が30%、「知らない」が60%、米子地区では「知っている」が5%、「知っているが利用したことがない」が33%、「知らない」が62%となっています。前回調査では「知らない」と回答した学部学生は全体で65%いましたが、認知度になんらかの改善が見られますが、利用度とともにまだ低い状況にあります。

20 鳥取大学学生相談ホームページについて尋ねます
あなたは、学生相談室ホームページを利用したことがありますか



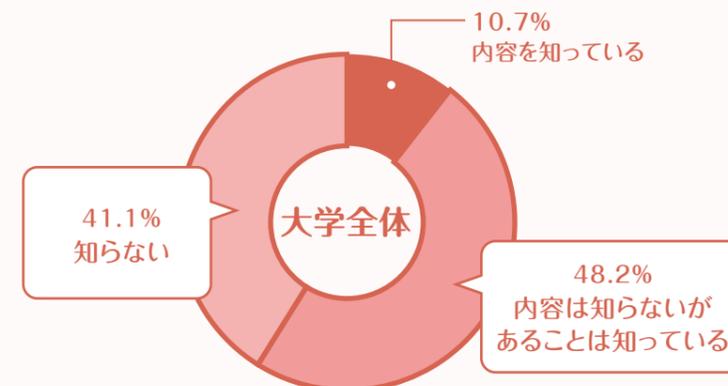
学生相談ホームページを利用したことがあるかについて、大学全体では「利用したことがある」が5.4%、「相談したいことがあれば利用する」が16.9%となっており、「利用しない」は9.6%、「知らない」は68.1%でした。「利用しない」理由は、「必要性がない」、「役立つとは思えない」、「利用価値がない」、「友人に相談するから」、「面倒くさい」等でした。

19 あなたは鳥取地区にピアサポートがあることを知っていましたか
(鳥取地区学生への質問)



鳥取地区のピアサポートについて、「知っている」が7.7%、「知っているが利用したことがない」が31.0%、「知らない」が61.3%となっています。ピアサポーターは、昨年、食堂に卓上広告を置いたり、看板広告を出したり、利用率の向上のため、多様な方法でPRを図りましたが、今後は、学生生活応援団「ガッツ」として、教職員との連携のもとに学生生活充実企画の実施や情報発信等、「相談待ち」姿勢から「全学生を元気に」しようと積極姿勢への転換を目指しています。また、先進的取り組みを行っている他大学(国立・私立)を訪問調査し、報告会を行うなど活動の幅を拡大しつつあり、新たな取り組みに、その成果が期待されています。

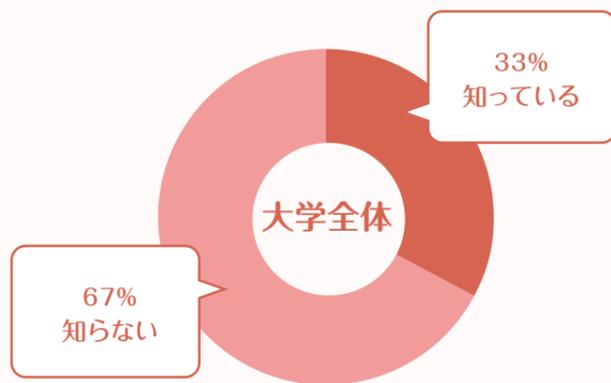
21 あなたは、ハラスメントの防止に関する規則があることを知っていますか



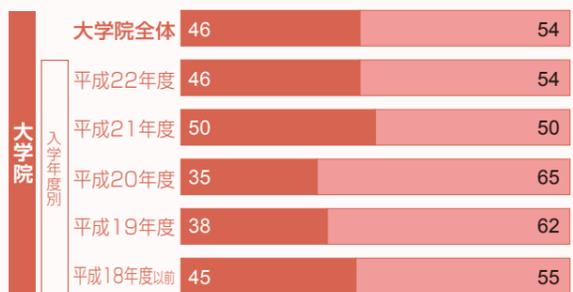
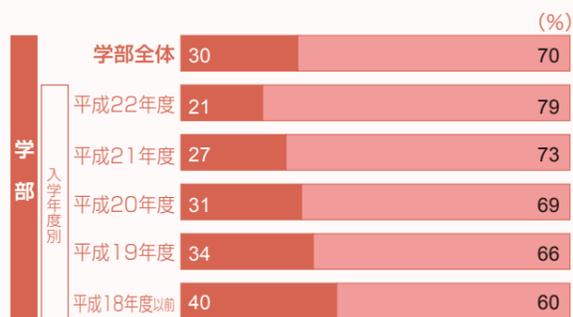
ハラスメントの防止に関する規則があることを知っているかについて、大学全体では「内容を知っている」が10.7%、「内容は知らないがあることは知っている」が48.2%、「知らない」は41.1%でした。規則の存在は知られてきているものの、内容までは知らない学生が多いことが分かります。

10. 生活支援体制

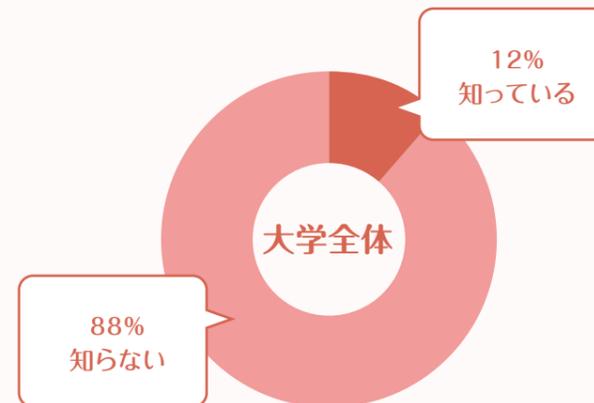
22 あなたは、ハラスメント相談員がいることを知っていますか



ハラスメント相談員がいることを知っているかについて、大学全体では「知っている」が33%、「知らない」は67%でした。男女別では「知っている」が女子学生36%と男子学生より5%程度認知度が高く、学部学生と大学院学生との比較では、大学院学生の「知っている」が46%と学部学生を16%上回っており、入学年度別にみると、高学年になる程、認知度が高まっていることがわかります。さらに認知度を高める工夫が必要ですが、特に低学年への周知が求められます。

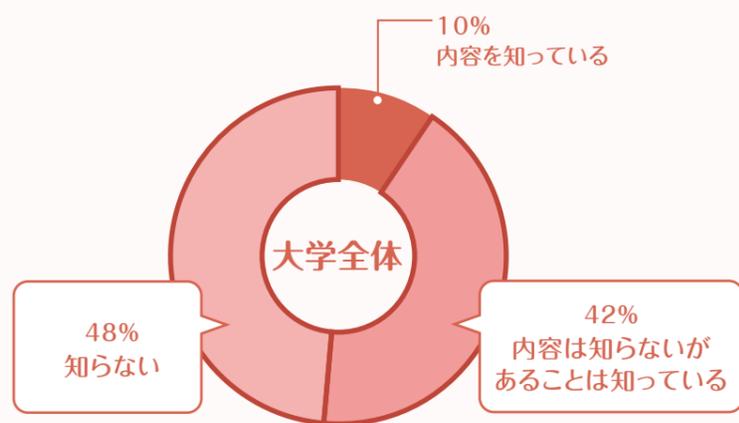


24 あなたは、緊急連絡先(学生相談窓口を含む)QRコードがあることを知っていましたか



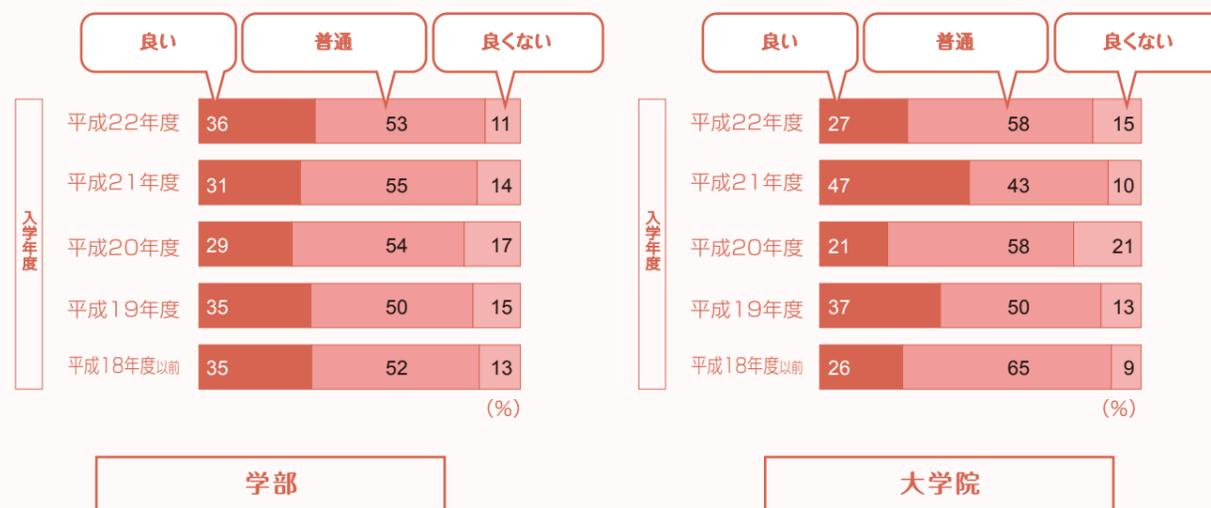
緊急連絡先QRコードについて、大学全体で「知っている」が12%、「知らない」は88%を占めています。緊急連絡先QRコードは平成20年7月から実施されている方法で、従前の学生用緊急連絡先カード配布方式を改め、携帯電話のバーコードリーダー機能を利用して短時間で登録でき、必要時に警察・消防・救急・学内関係部署等に簡単に連絡できます。掲示やホームページ掲載の他、翌年の新入生からは入学時にも資料配布しているものの全体として全く知られておらず、周知方法にさらなる工夫・改善が必要です。

23 あなたは、学生にも懲戒処分があり、その規則があることを知っていますか



学生にも懲戒処分があり、その規則があることを知っているかについて、大学全体では「内容を知っている」が10%、「内容は知らないが、あることは知っている」が42%、「知らない」は48%でした。「鳥取大学学生懲戒規則(平成21年鳥取大学規則第47号)」は平成21年4月8日から施行されており、制定の趣旨が学生にまだ十分浸透していないことを示しており、さらなる周知が必要と言えます。

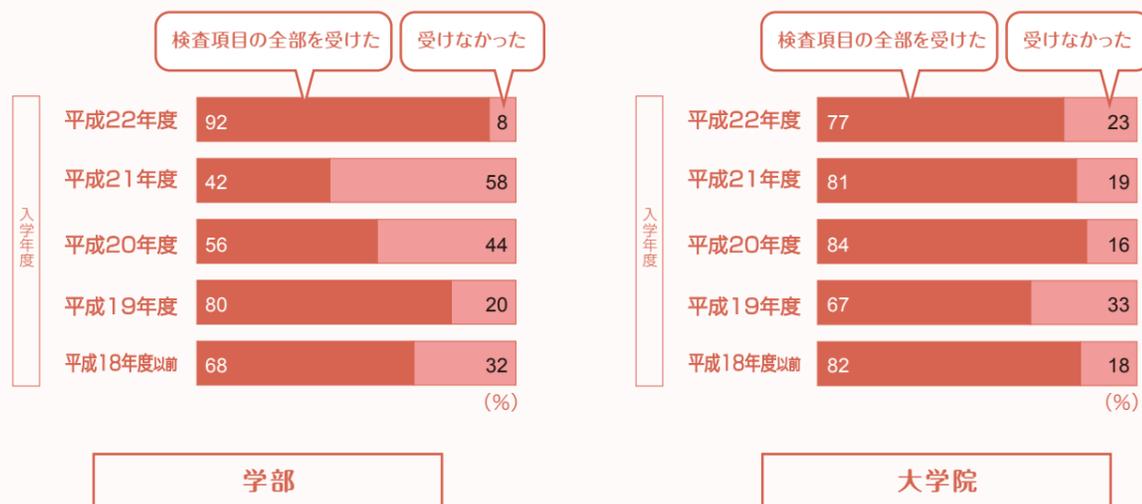
25 現在、あなたの健康状態は、自分でどう思っていますか



現在の健康状態について、学年別に集計したところ、「良好」との回答が21~47%、「普通」が43~65%、「よくない」が9~21%でした。

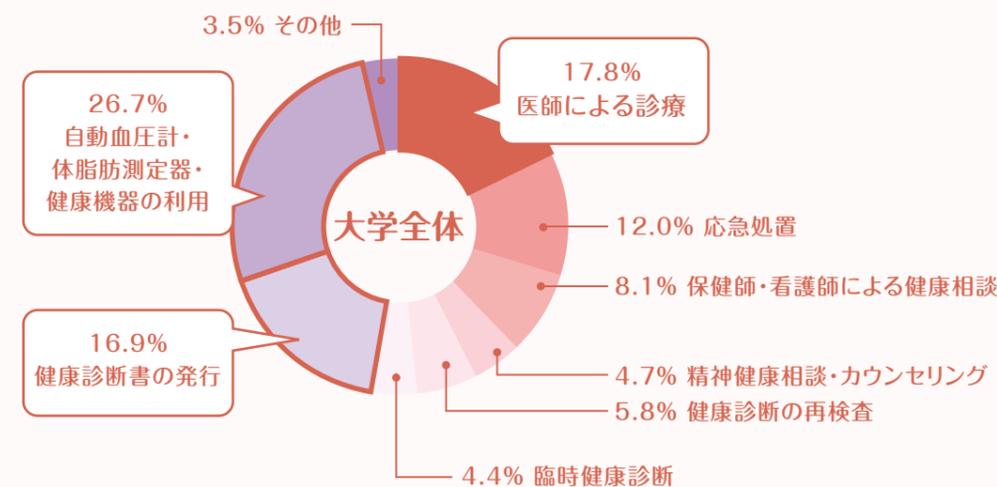
10. 生活支援体制

26-1 保健管理センターの利用について尋ねます あなたは、今年度の定期健康診断を受けましたか



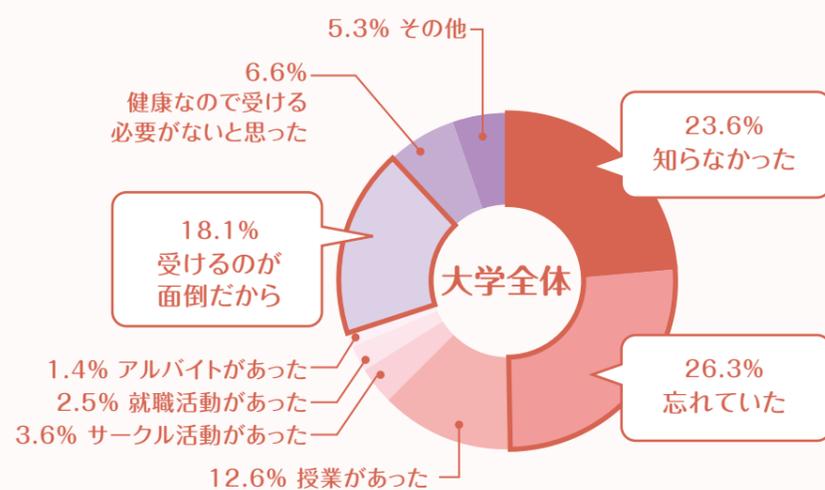
健康診断の受診について、学年別に比較したところ、平成22年度入学(1年生)や平成19年入学以前(4年生以上)の受診率に比べ、平成20年度入学・21年度入学(2・3年生)の受診率が低いことがわかります。就職活動等に使用する健康診断証明書の必要性に関わらず、自身の健康チェックとして健康診断を受診するよう指導していくことが必要と言えます。

26-3 あなた〔学部1年生等昨年度は鳥取大学にいなかった人以外〕は、平成21年度中に、定期健康診断以外で保健管理センターを利用したことがありますか



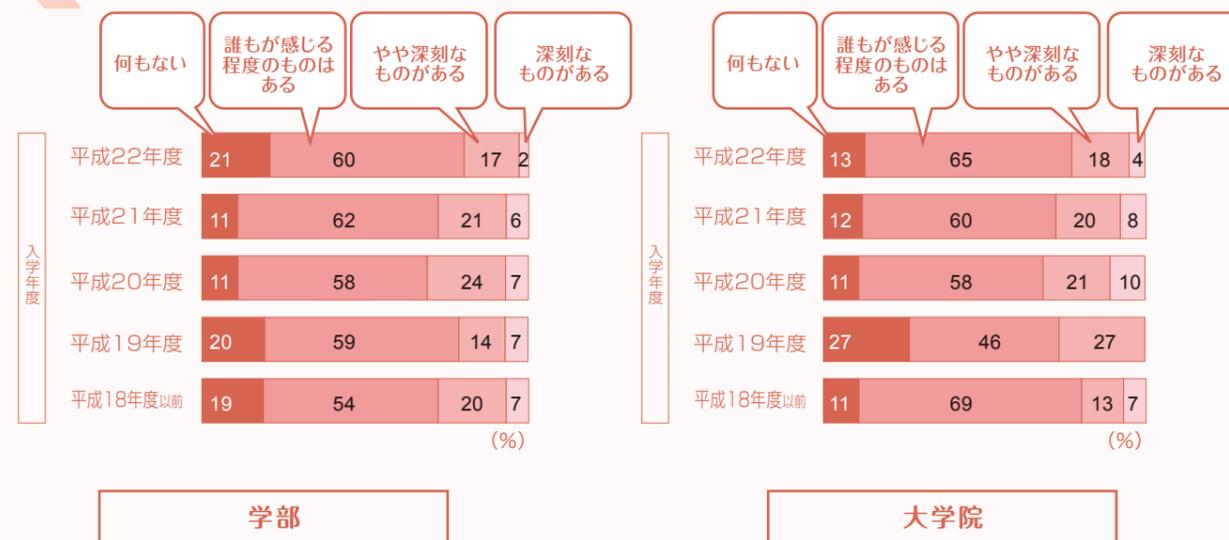
保健管理センターを利用したことがあるとの回答の中では、医師による診療、応急処置、健康相談、カウンセリング、健康診断書の発行、自動血圧計・体脂肪測定器・健康機器の利用、などで利用されていました。自動血圧計・体脂肪測定器・健康機器の利用は、センターのオープンスペースで自由に利用できますので、健康チェックに役立てて下さい。

26-2 問26-1の質問で「受けなかった」と答えた人に尋ねます その主な理由は何ですか



健康診断を受診しなかった理由では、「知らなかった」「忘れていた」の計がほぼ50%と半数を占めています。健康診断の日程を掲示したり、ホームページに掲載するなどしていますが、さらに広く周知するよう工夫するとともに、自身の健康チェックとして健康診断を受診するよう啓発していくことが必要と言えます。

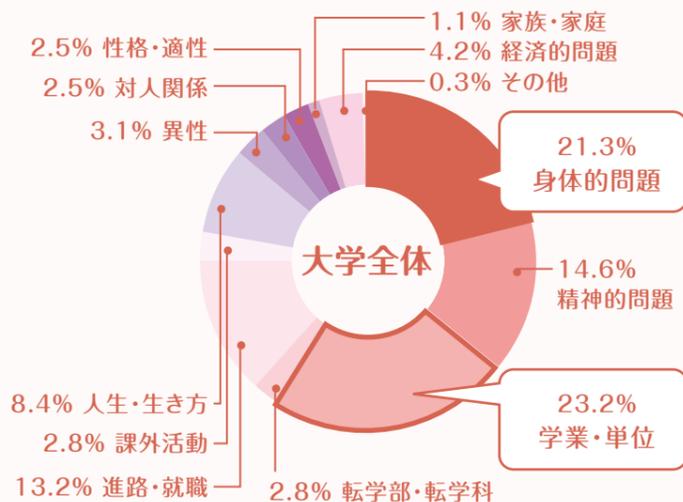
27 あなたは、現在、何か不安や悩みがありますか



不安や悩みの有無について、学年別で集計したところ、「何もない」約11~27%、「誰もが感じる程度のものがある」約46~69%、「やや深刻なものがある」約13~27%、「深刻なものがある」約2~10%でした。

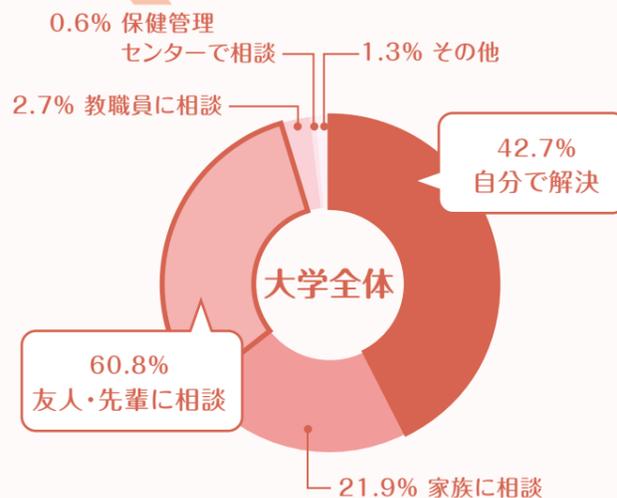
10. 生活支援体制

28 問27の質問で「やや深刻なものがある」「深刻なものがある」と答えた人に尋ねます



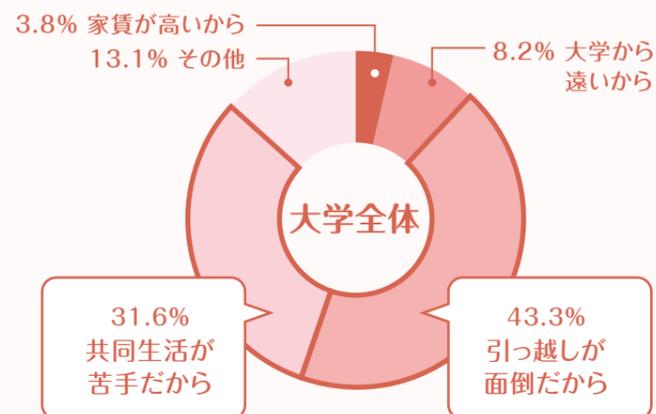
悩みがあると回答した人のうち、悩みの内容については、「学業・単位」23.2%、「身体的問題」21.3%、「精神的問題」14.6%、「進路・就職」13.2%などでした。

29 あなたは、自分の不安や悩みについてどのように対処していますか



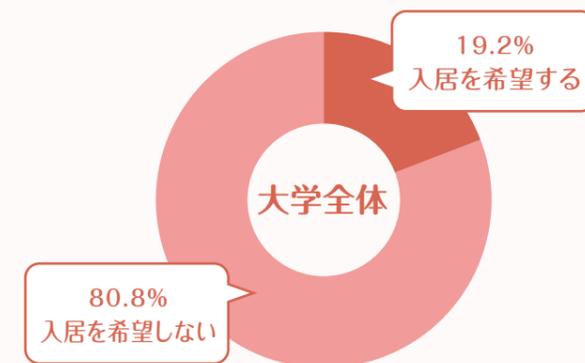
不安や悩みについてどのように対処しているかについて、「自分で解決」42.7%、「友人・先輩に相談」30.8%「家族に相談」21.9%などでした。

30-3 問30-1で「入居を希望しない」と答えた人に尋ねます
入居を希望しない理由は何ですか
(鳥取地区学生への質問)



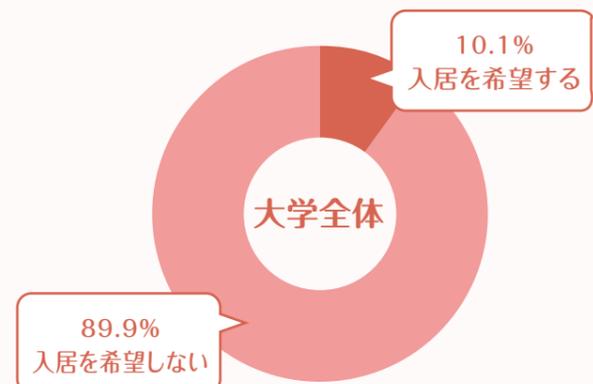
鳥取地区学寮に入居を希望しない理由については、「引越が面倒だから」が43.3%と一番多く、次に「共同生活が苦手だから」が31.6%、「大学から遠いから」が8.2%でした。

30-4 あなたの在学中に個室化改修工事が完成した場合、入居を希望しますか
(米子地区学生への質問)



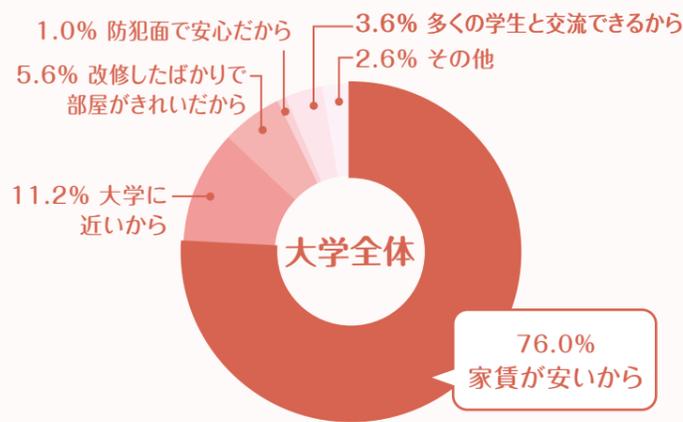
米子地区学寮の定員に空きがあった場合、入居を希望するかについて、全体で「入居を希望する」が19.2%、「入居を希望しない」は80.8%でした。

30-1 学寮について、あなたの在学中に個室化改修工事が完成した場合、入居を希望しますか
(鳥取地区学生への質問)



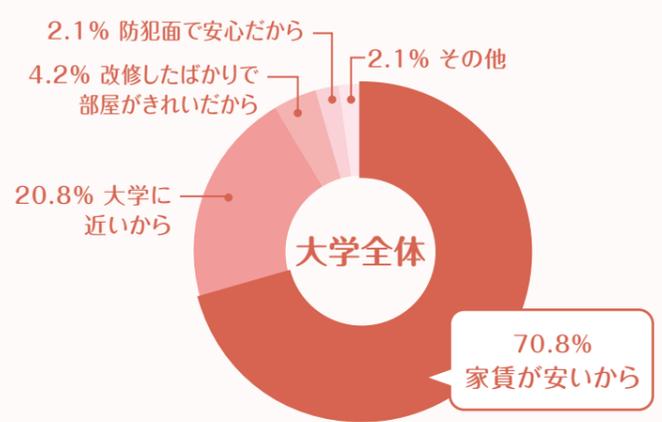
鳥取地区の学生が、在学中に鳥取地区学寮個室化改修工事が完成した場合、入居を希望するかについて、全体で「入居を希望する」が10.1%、「入居を希望しない」は89.9%でした。

30-2 問30-1で「入居を希望する」と答えた人に尋ねます
入居を希望する理由は何ですか
(鳥取地区学生への質問)



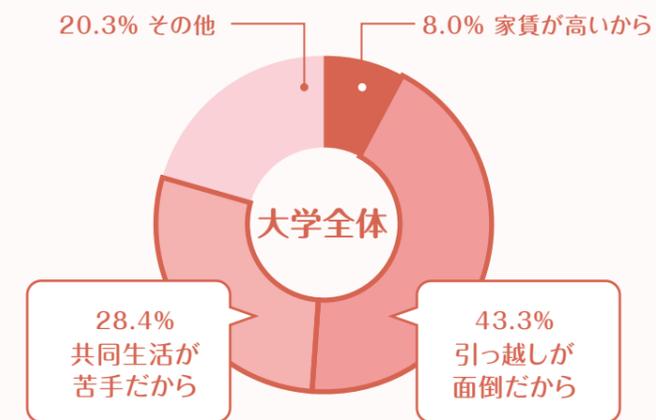
鳥取地区学寮に入居を希望する理由については、全体で「家賃が安い」が76.0%と一番多く、次に「大学に近いから」が11.2%、「改修したばかりで部屋が新しいから」が5.6%でした。

30-5 問30-4で「入居を希望する」と答えた人に尋ねます
入居を希望する理由は何ですか
(米子地区学生への質問)



米子地区学寮に入居を希望する理由については、全体で「家賃が安い」が70.8%と一番多く、次に「大学に近いから」が20.8%、「改修したばかりで部屋が新しいから」が4.2%でした。

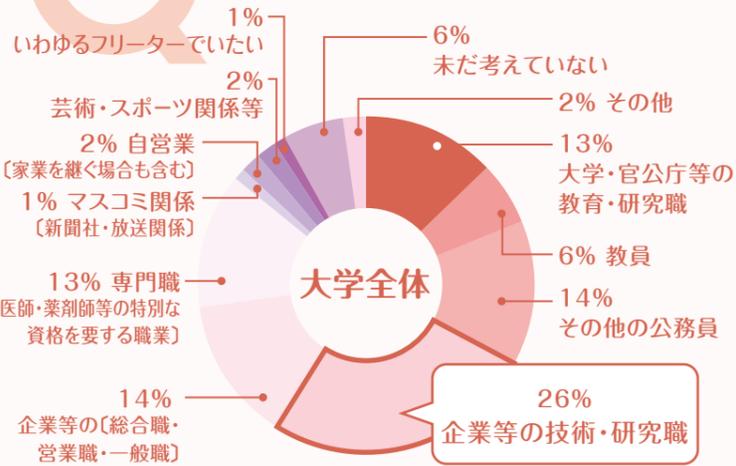
30-6 問30-4で「入居を希望しない」と答えた人に尋ねます
入居を希望しない理由は何ですか
(米子地区学生への質問)



米子地区学寮に入居を希望しない理由については、「引越が面倒だから」が43.3%と一番多く、次に「共同生活が苦手だから」が28.4%、「家賃が高いから」が8.0%でした。

11. その他の支援体制

31 あなたは、将来どのような職業に就きたいと思いますか



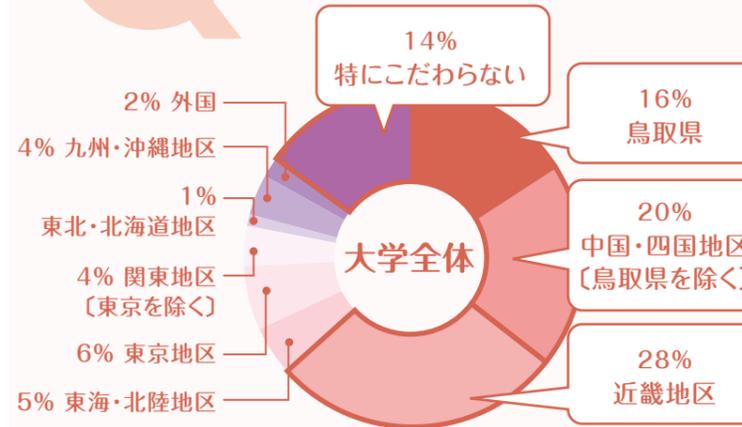
地域学部・地域学研究科では教員や公務員志望が多く、工学部・工学研究科では企業等の技術職・研究職志望が多いなど、それぞれの学部・研究科ごとに明瞭な特徴がみられます。本学の就職支援体制においては、学生個々の就業イメージを尊重しながらも、そうしたイメージに具体的な裏付けを与えるための職業研究・企業研究を促し、希望する職業に就くために必要な能力や資質を十分理解させることが必要であると言えます。

学部	学部全体									
	13	7	15	22	14	14	7	1	2	6
地域学部	10	23	24	20	5	6				
医学部	15	4	11	62						
工学部	11	4	13	35	16	6	8			
農学部	17	4	16	21	12	13	4	7		

大学院	大学院全体									
	15	4	9	39	17	8				
地域学研究科	14	32	18	5	5	9	14			
医学系研究科	25	5	6	16	7	30	4	5		
工学研究科	11	9	52	16	4					
農学研究科	13	4	12	36	25					
連合農学研究科	30	4	48	10	4	4				

性別	学部									
	13	5	14	29	14	10	6			
男性	13	5	14	29	14	10	6			
女性	13	9	15	19	14	17	6			

33 あなたが就職するとした場合、勤務地はどこを希望しますか



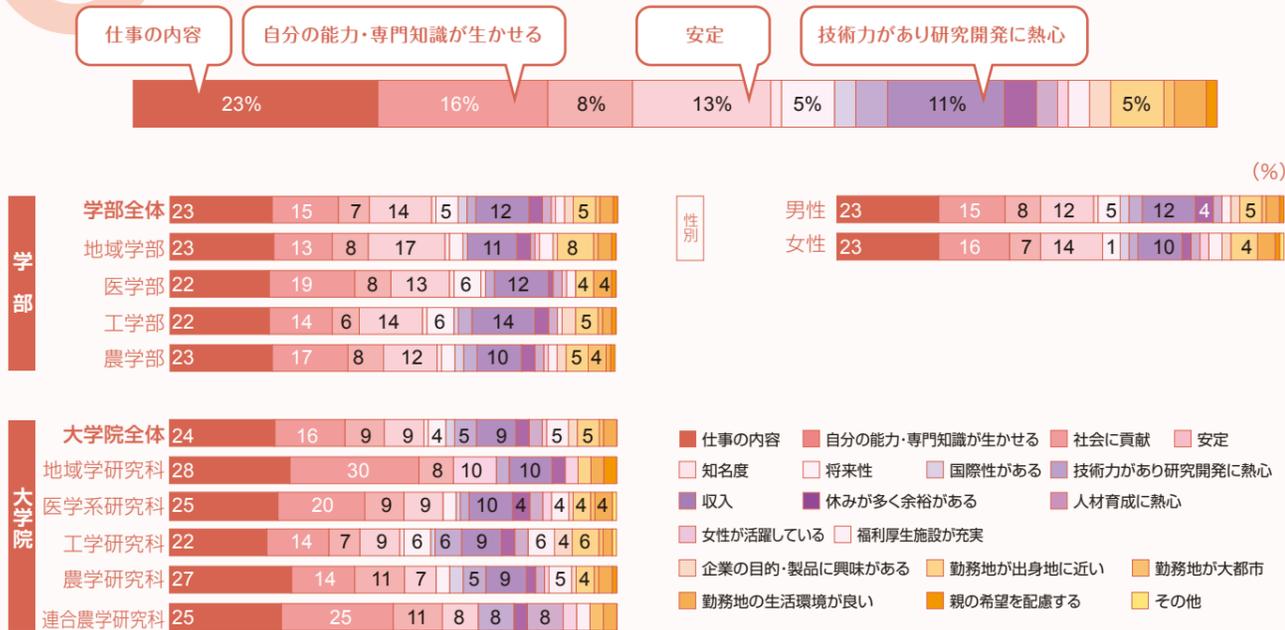
地域学部・地域研究科、医学部・医学系研究科と、工学部・工学研究科、農学部・農学研究科との間で明瞭な差がみられました。前者では鳥取県内および中国・四国地区を希望する者が多く、後者では鳥取県内希望者が少ない半面、近畿地区を希望する者が多くなっています。この傾向は入学者の出身地分布と関連しているものと推測されます。

学部	学部全体									
	16	20	28	5	6	4	4	14		
地域学部	24	25	21	4	5			8		
医学部	27	20	19	5	5			18		
工学部	13	20	32	6	7	4	4	14		
農学部	12	18	29	5	5	5	4	17		

大学院	大学院全体									
	16	17	28	4	7			21		
地域学研究科	36	18	9	9	5	9	9	9		
医学系研究科	36	13	10	6				27		
工学研究科	11	19	32	5				27		
農学研究科	9	16	34	5	11	5		14		
連合農学研究科	21	5	16	16	5	11		26		

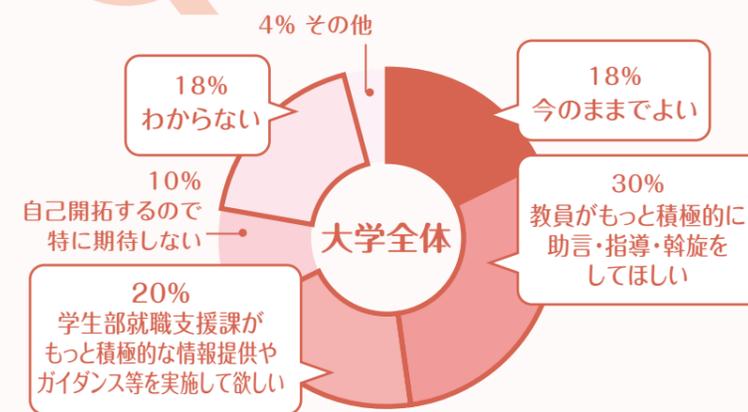
性別	学部									
	15	18	28	5	6	5	4	17		
男性	15	18	28	5	6	5	4	17		
女性	20	22	27	4	5	4	12			

32 あなたが就職する場合、どのような点を重視して選択しますか



学部学生よりも大学院学生のほうが、仕事そのものの内容を見きわめて就職先を選択しようとしている傾向がみられます。

34 あなたは、就職活動に関して、大学側にどのようなことを最も期待しますか



学部・研究科間での差があるため一概にはいえませんが、「今のままでよい」や「特に期待しない」よりも、「教員がもっと積極的に助言・指導・斡旋をしてほしい」や「就職支援課がもっと積極的な情報提供やガイダンス等を実施してほしい」の回答比率が高いことから、本学学生のニーズを的確にくみとりながら全学的にさらなる支援を展開していくことが喫緊の課題と言えます。

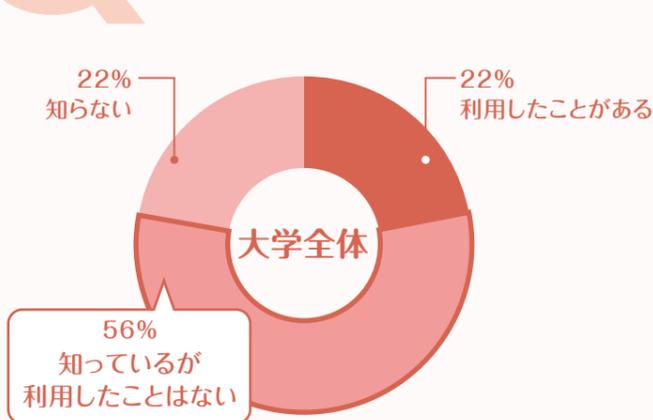
学部	学部全体									
	19	31	19	9	19					
地域学部	23	29	23	6	18					
医学部	21	28	21	8	21					
工学部	16	32	20	8	19	5				
農学部	20	32	17	11	19					

大学院	大学院全体									
	12	25	26	16	12	9				
地域学研究科	27	20	13	33	7					
医学系研究科	9	31	20	23	11	6				
工学研究科	7	21	32	11	16	13				
農学研究科	16	26	26	14	7	11				
連合農学研究科	8	31	15	31	15					

性別	学部									
	18	30	18	11	18	5				
男性	18	30	18	11	18	5				
女性	17	31	24	8	18					

11. その他の支援体制

35 学生部就職支援課について尋ねます



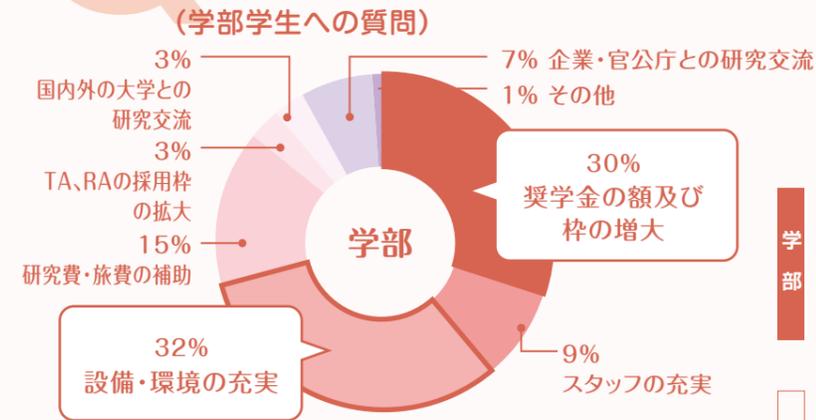
明瞭にあらわれているのは、認知率と利用率とのギャップの大きさです。半数あまりの学生における、認知はしているが利用実績がない理由とはどのようなものなのか、就職支援体制の充実化に向けたさらなる調査分析が必要といえます。そのほか、認知率においても利用率においても、学部学生よりも大学院学生の方が高いという傾向がみられました。

学部	学部全体		
	知っているが利用したことはない	利用したことがある	知らない
学部全体	20	57	23
地域学部	22	56	22
医学部	19	47	34
工学部	19	58	23
農学部	21	61	18

大学院	大学院全体		
	知っているが利用したことはない	利用したことがある	知らない
大学院全体	29	47	24
地域学研究科	29	47	24
医学系研究科	9	30	61
工学研究科	28	50	22
農学研究科	42	47	11
連合農学研究科	17	75	8

性別	学部		
	知っているが利用したことはない	利用したことがある	知らない
男性	23	56	21
女性	21	55	24

37 「問36」の質問で「本学大学院に進学」と答えた人に尋ねます 本学大学院で研究を進める上で、大学に要望することがありますか (学部学生への質問)



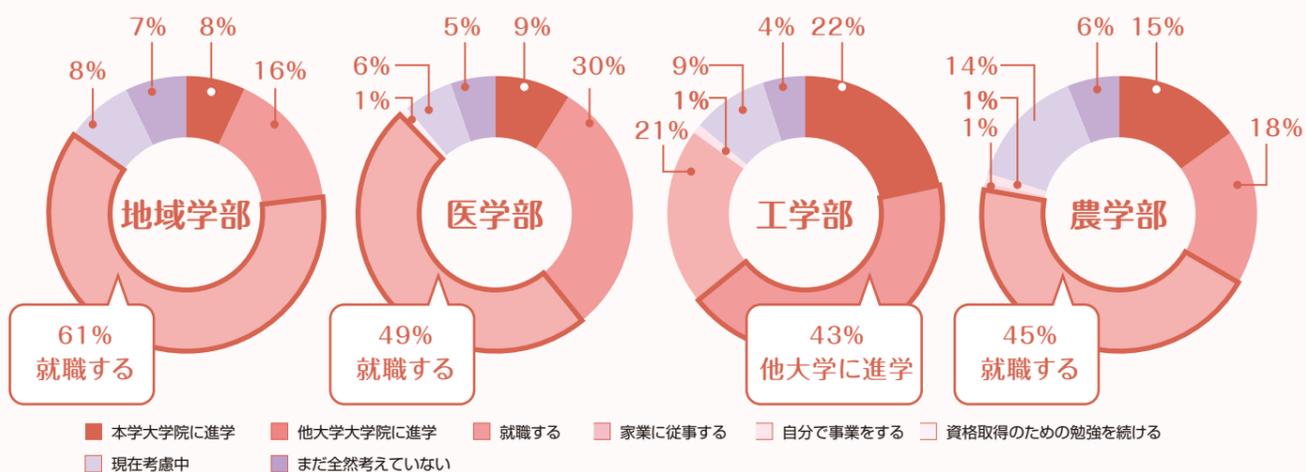
学部を問わず、研究を行う設備・環境の充実への要望が高いほか、奨学金という経済的支援へのニーズも強くみられます。

学部	学部				
	地域学部	医学部	工学部	農学部	その他
地域学部	31	21	38	4	6
医学部	22	17	39	4	9
工学部	33	8	39	10	7
農学部	26	8	20	26	4

入学年度別	学部				
	地域学部	医学部	工学部	農学部	その他
平成22年度	35	14	26	15	5
平成21年度	22	13	30	17	9
平成20年度	30	13	30	14	10
平成19年度	26	4	36	17	7
平成18年度以前	42	13	28	8	11

性別	学部				
	地域学部	医学部	工学部	農学部	その他
男性	32	9	32	14	6
女性	23	9	32	19	7

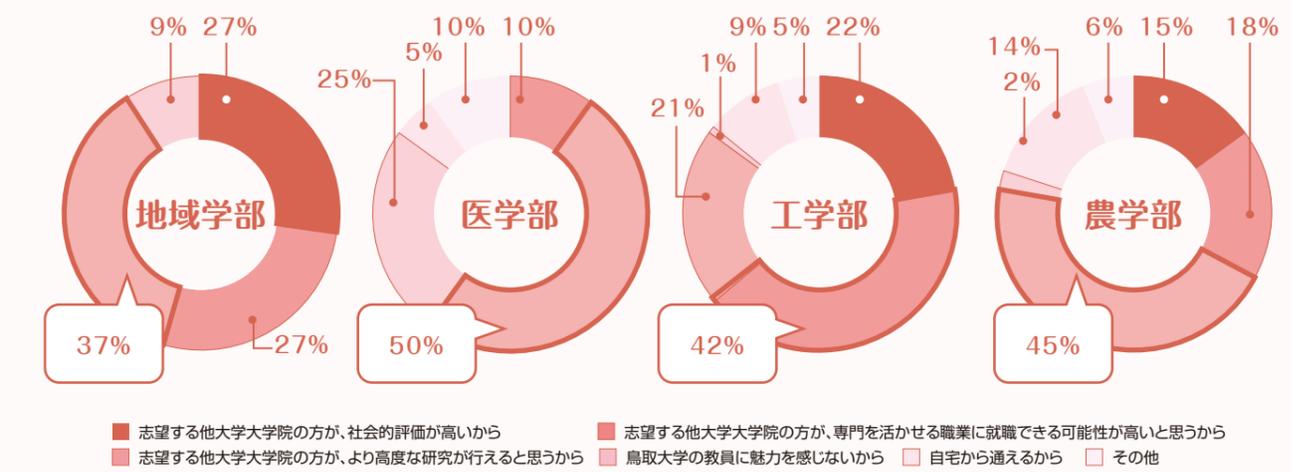
36 学部学生の人に尋ねます あなたは、卒業後、どのような進路を考えていますか



工学部では本学または他大学の大学院に進学を希望している学生が約3分の2におよびます。気になる傾向として、「現在考慮中」の回答率が漸増傾向にある点があげられます。

入学年度別	工学部				
	他大学に進学	就職する	家業に従事する	自分で事業をする	資格取得のための勉強を続ける
平成22年度	10	25	37	18	10
平成21年度	9	38	36	12	7
平成20年度	14	28	41	11	5
平成19年度	28	28	36	4	4
平成18年度以前	20	22	37	6	5

38 「問36」の質問で「他大学大学院に進学」と答えた人に尋ねます 他大学の大学院を希望する理由は何ですか (学部学生への質問・選択肢から2つまで回答)



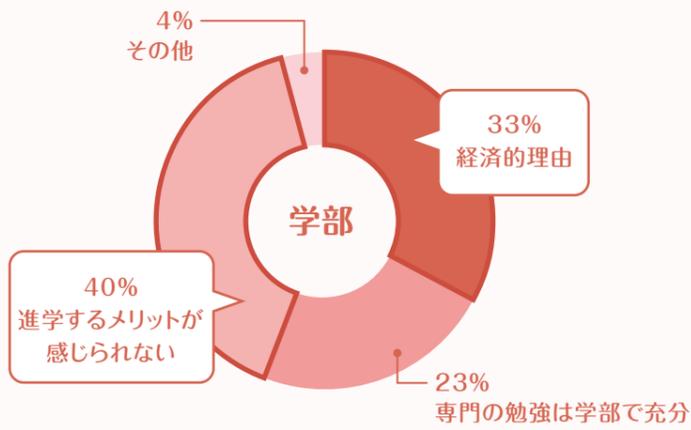
入学年度ごとの集計でみると、「志望する他大学大学院のほうが、社会的評価が高いから」の回答率が漸増傾向にあります。「社会的評価」なる曖昧な理由により進学先を決めるということの進路選択・キャリア形成上のあやうさについて、学部在学中から教員による適切な指導が必要と考えられます。

入学年度別	工学部				
	社会的評価が高いから	専門を活かせる職業に就職できる可能性が高いと思うから	鳥取大学の教員に魅力を感じないから	自宅から通えるから	その他
平成22年度	30	22	31	4	12
平成21年度	20	23	33	6	14
平成20年度	9	18	27	15	16
平成19年度	8	14	29	39	5
平成18年度以前	16	13	21	29	8

11. その他の支援体制

39

「問36」の質問で「就職する」「家業に従事する」「自分で事業をする」「資格取得のための勉強を続ける」「現在考慮中」「まだ全然考えていない」のいずれかと答えた人に尋ねます
大学院へ進学を希望しない理由は何ですか
 (学部学生への質問)



学部	理由 (%)			
	40%	33%	23%	4%
地域学部	26	31	41	4
医学部	26	38	23	13
工学部	39	13	42	6
農学部	36	19	41	4

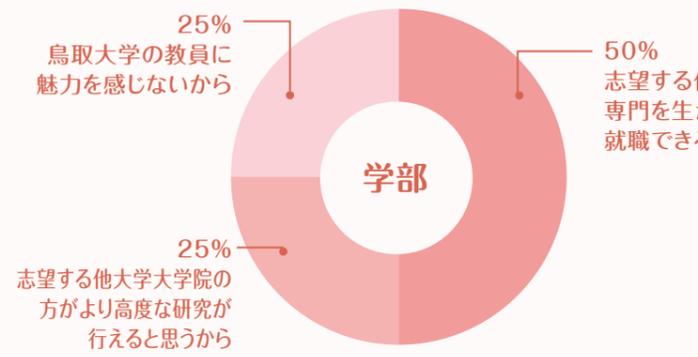
入学年度別	理由 (%)			
	40%	33%	23%	4%
平成22年度	32	30	33	5
平成21年度	51	16	32	
平成20年度	26	24	46	4
平成19年度	33	19	44	4
平成18年度以前	28	21	44	7

性別	理由 (%)			
	40%	33%	23%	4%
男性	32	22	43	
女性	35	24	36	5

地域学部・医学部では「専門の勉強は学部で十分」がもっとも回答を集めました。工学部・農学部ではこの回答率は小さく、「経済的理由」が地域学部・医学部よりも多い回答を集めました。

41

「問40」の質問で「他大学博士後期課程に進学する」と答えた人に尋ねます
他大学の大学院を希望する理由は何ですか
 (修士・博士前期課程大学院学生への質問)



大学院	理由 (%)	
	50%	50%
医学系研究科	50	50
工学研究科	100	

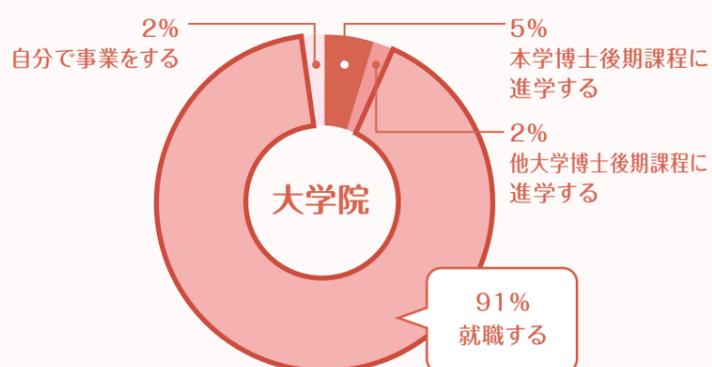
入学年度別	理由 (%)	
	50%	50%
平成20年度	50	50
平成18年度以前	100	

性別	理由 (%)	
	50%	50%
男性	100	
女性	50	50

調査回答サンプル数n=4名だったため、本設問の傾向分析ができませんでした。本グラフは参考掲載といたします。

40

修士・博士前期課程大学院学生の人に尋ねます
あなたは、大学院修了後、どのような進路を考えていますか
 (修士・博士前期課程大学院学生への質問)



大学院	理由 (%)			
	91%	5%	2%	2%
地域学研究科	11	78	11	
医学系研究科	22	11	67	
工学研究科	6	6	81	7
農学研究科			98	

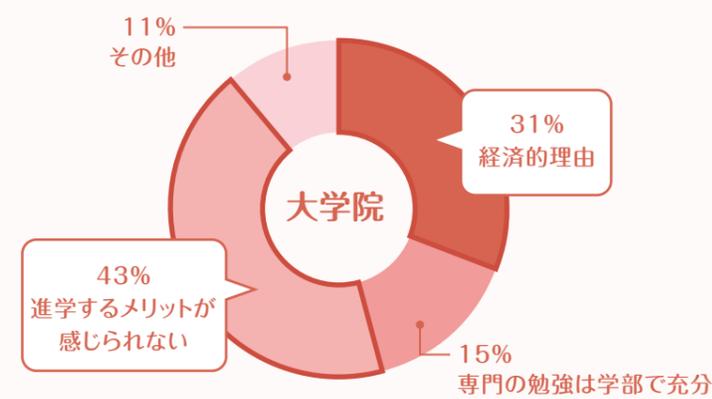
入学年度別	理由 (%)			
	91%	5%	2%	2%
平成22年度	98			
平成21年度	4	94		
平成20年度		100		
平成18年度以前	14	5	76	5

性別	理由 (%)			
	91%	5%	2%	2%
男性	5	92		
女性	5	90		

回答者の範囲では博士後期課程への進学を考えている学生は数名単位で、ほとんどの学生は修士・博士前期課程修了後に就職を考えています。

42

「問40」の質問「就職する」「家業に従事する」「自分で事業をする」「資格取得のための勉強を続ける」「現在考慮中」「まだ全然考えていない」のいずれかと答えた人に尋ねます
博士後期課程へ進学を希望しない理由は何ですか
 (修士・博士前期課程大学院学生への質問)



大学院	理由 (%)			
	43%	31%	15%	11%
地域学研究科	50	25	25	
医学系研究科	33	17	50	
工学研究科	23	15	54	8
農学研究科	32	18	42	8

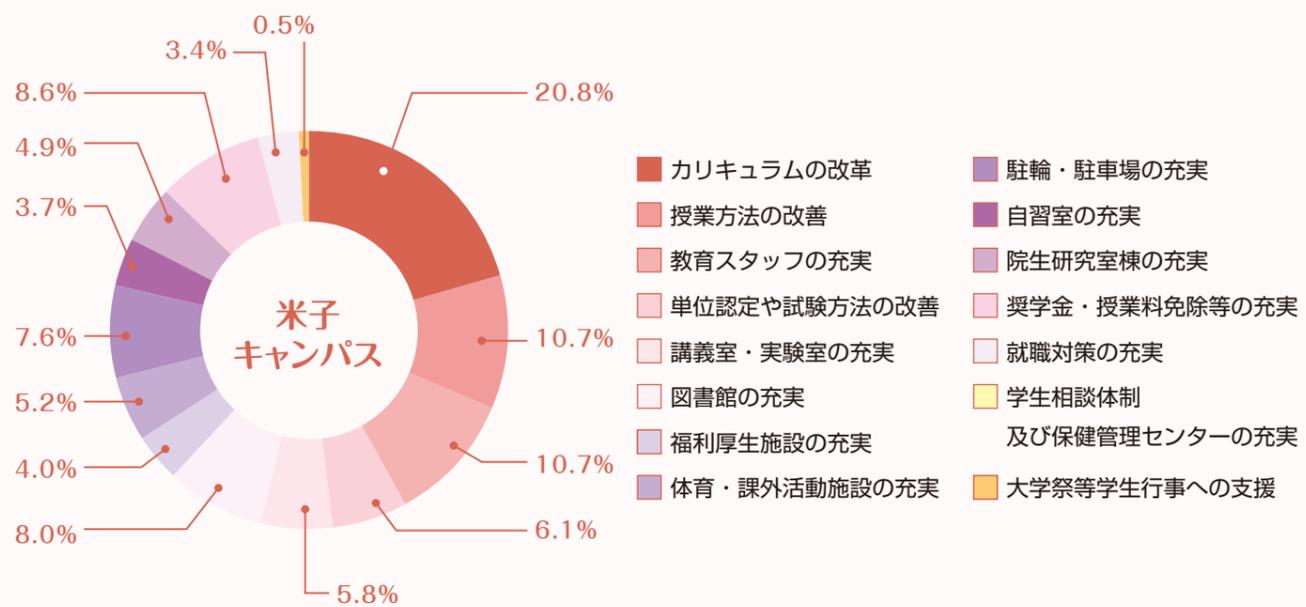
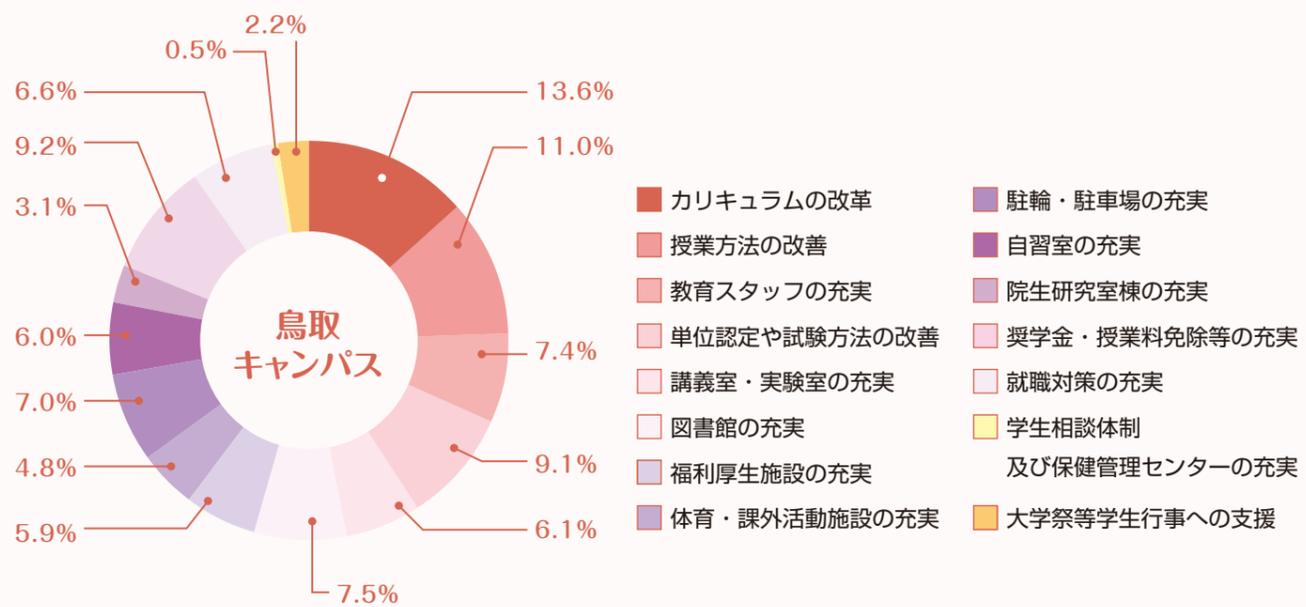
入学年度別	理由 (%)			
	43%	31%	15%	11%
平成22年度	46	18	27	9
平成21年度	18	15	58	9
平成19年度	50		50	
平成18年度以前	29	6	47	18

性別	理由 (%)			
	43%	31%	15%	11%
男性	35	12	46	7
女性	24	22	35	19

博士後期課程への進学が要求される職業キャリアはアカデミック・キャリア等に限られてくるため、そうした進路を希望・想定していない大学院学生の場合は「進学するメリットが感じられない」という回答をするものと考えられます。ただし、「経済的理由」についても一定数の回答を集めています。

12.鳥取大学への要望

43 鳥取大学に最も要望したいことを選んでください (選択肢から3つまで回答)



鳥取大学に最も要望したいことは何かについて、鳥取地区、米子地区共に同じような傾向を示していますが、どちらも「カリキュラムの改革」に対する要望が多く、特に米子地区では20.8%を占めています。次に「授業方法の改善」が鳥取地区11.0%、米子地区10.7%となっています。鳥取地区では「奨学金・授業料免除等の充実」が9.2%、「単位認定や試験方法の改善」が9.1%、米子地区では「教育スタッフの充実」が10.7%、「奨学金・授業料免除等の充実」が8.6%、「図書館の充実」が8.0%と高くなっています。、「駐輪・駐車場」、「講義室・実験室」、「自習室」、「福祉厚生施設」、「体育・課外活動施設」、「院生研究棟」の充実等、教育関係の要望の他にも施設関係の充実要望も多く、今後の改善検討に生かしていく必要があります。

主な自由記述意見



主な自由記述意見

アンケートに寄せられた意見を紹介します

授業関係

学部学生

- 色々な授業が受けられるように、教員数を増やしてほしい。(選択科目が、あまり選択できない。開講されてる授業が少ない)
- 共通教育科目の選択自由度を増やしてほしい。
- 一般教養の抽選制度をやめてほしいです。
- 専門の授業が少ないと思います。
- 修得単位の知らせの実家への発送が遅い。親にまだかまだかと言われた。3ヶ月はちょっと遅くはないかと思う。また、前期の修得単位のwebで確認できるのが遅い。後期は早いから、前期もそうしてほしい。

大学院学生

- 大学院のカリキュラムを、もっと研究重視のかたちにしてもらいたい。

学務支援システム

学部学生

- 英語の勉強や学務支援システムが学校でしか利用できないので、わざわざ学校に行かなければならなくなるので、改善して欲しい。

授業料免除・奨学金制度

学部学生

- 授業料免除や奨学金制度が充実していて助かります。
- 授業料免除の人数をもっと増やしてほしい。
- 授業料免除等の条件を下げてほしい。

就職支援

大学院学生

- 今年度では臨時職員の就職カウンセラーにお世話になりました。民間企業出身の方だからこそ、的確なアドバイスも頂くことができ、本当に感謝しています。次の世代の学生のためにも、就職活動がスムーズに運ぶように続けていって欲しいです。
- 就職に関するガイダンスや資料をもっと充実してほしい。
- 鳥取から就活するのに、特に交通の面で不便で、それだけで、出遅れる。もっと支援バスの数を増やしてほしい。

施設

学部学生

- 大学施設がきれいで嬉しい。
- 使える自習室を増やしてほしい。
- ゆうちょ銀行のATMを増やして欲しい。
- LANケーブルをつなげる場所を増やしてほしいです。
- グラウンドが欲しいです。米子キャンパスに。
- 体育館や更衣室をもう少しきれいにしてほしいです。(米子地区学生)
- 保健管理センターが使いにくい。立地場所的にも、行きにくい。(鳥取地区学生)

大学院学生

- 研究室(学生居室)が狭いので、もっとゆとりがほしい。

図書館

学部学生

- 朝早くまたは夜遅くに図書館を利用したいのに開いていない。出来れば、開館時間を延ばして欲しい。
- 図書館の貸し出し冊数を増やしてほしい。
- 図書館での話しながら勉強するスペースをもっと増やしてほしいと思う。自習室等あるが、明らかに不足している場合が多いのでもう少し増やしてほしい。

駐輪場

学部学生

- 所定の場所以外に平気で駐輪する人が多い。
- 大学内に駐輪スペースが少なすぎるので、自転車道にまで溢れている。もう少し増えると助かる。
- 駐輪スペース以外に自転車をとめるのをどうにかして欲しい。(車などもこまってきました。)

大学院学生

- 駐輪場(自転車)を充実させてほしい
- 駐輪場に屋根がほしいです。

課外活動

学部学生

- 文化系クラブの練習・活動スペースの部屋数(学生会館等)が少なく困っている。もっと環境を増やしてほしい。
- 音楽系サークルがうるさいので防音設備を作ってそこにまとめてほしい。
- 体育会系サークルに所属し、全国大会優勝などもしているが、その成果に対して部活への支援が少なすぎる。課外活動への支援体制を整えてほしい。

食堂・生協ショップ

学部学生

- 学食の値段を下げてほしい。
- 食堂の席が少ない
- 生協ショップをもっと拡大してほしいです。
- 食堂や生協ショップの混雑がどうか解消できないでしょうか。

大学院学生

- ショップを各学部棟に入れてほしい。

構内喫煙

学部学生

- 構内を全面禁煙にしても、一步外に出て吸う人が多いので、あまり意味が無い様思う。
- 正門前などで喫煙している人がいて非常に鳥大のイメージが悪い。私自身、喫煙するのですが是非とも喫煙ルーム、スペースを設置して欲しい。
- 全面禁煙になったことで学内では快適に過ごせるようになりましたが、喫煙者が各門の近くで学生だけでなく職員も喫煙しているので、登下校の際毎日その煙を吸わされています。以前よりも受動喫煙の機会が格段に上がっています。全面禁煙にするよりも、むしろ喫煙スペースを学科ごとに設けて欲しいです!ほんとに迷惑しています!!
- 学内全面禁煙について、学内を禁煙にするのは良いが、喫煙者が大学の出入り口にたまって喫煙しては、景観を損なうし、大学に出入りするのに煙の中を通るので全く意味が無い。また、学内の人だけでなく地域住民にも迷惑がかかっている。
- 大学構内の禁煙化のことですが、禁煙化したところで、路上で喫煙される人が増えています。周囲のマンションの人には不快ですし、周りの地元の方もきっと快く思われていないはずなので、改善すべきです。鳥大の評判が悪くなるのは嫌です。そもそも喫煙自体は違法ではないのですから、しっかり場所を決めて分煙すればいいのでは?と思います。とりあえず路上の喫煙は止めてほしい。

大学院学生

- 私自身は、禁煙については賛成だが、禁煙によって喫煙者のマナーが悪くなっている。
- 大学構内全面禁煙にしているにもかかわらず、構内や建物の屋上等で当たり前のように喫煙をしている人がいる。また、第2駐車場の入り口付近等、大学構内から一步だけ出たような所で喫煙をしている学生・職員を毎日数多く見かける(しかもマナー悪)これに対する大学側の態度が甘い。
- 全面禁煙になって道路で吸っているのを見るとみっともないと思います。また、分煙は、必要だと思いますが規則で縛るのではなく、自主的に考えさせることも教育機関としての大切な役割だと思ふ。
- 自分は、喫煙者ではないが、学内にいくつかの喫煙ルーム等を設けるべきである。理由は、学外の灰皿もないような歩道や、正門前等で職員さんや、学生さんが集まってたばこを吸っている光景は、あまり良くないと思う。外部の人が見たら、いい気分はしない。

教員

学部学生

- いつもお世話になってます。担当教員には感謝しています。優しい。
- 親切に教えてくださっているし、アンケートなどで常に意見を聞いていただいている。
- 教え方が上手い先生、下手な先生がいらっしゃるの、理解度も違ってきます。
- 講義がわかりにくいので、工夫してほしいです。
- あいさつをしたら、無視せずかえしてほしい。
- 色々な相談にのってほしいです。
- もっと教育者としての心構えをもって欲しい。(一部の先生)
- 無関心が多い
- 教員の研究内容を示したり、行きやすい環境を作ってほしい。
- もっと積極的に生徒に関与して下さった方が嬉しいです。
- もっと1、2年のころから教員と関われるようにしてほしい。
- 出欠をもっと厳しく取って欲しいです。

大学院学生

- すばらしい先生方がお揃いだと思います。
- みんないい教員だと思います。
- もう少し、気軽に相談することができたら嬉しい。ゆっくり対話したい。
- あいさつをしても返してくれない教員がいる。
- 講義の質を下げず、成績も厳しくつけて欲しい。

事務職員

学部学生

- いろいろな窓口があるが、どこかの対応も何か感じが悪い。学生を見下すような印象である。改善してほしい。
- もっと親身に対応してほしい。若干態度が冷たい人がいる。
- 学生に対する理解、事務についての知識の両方をもちあわせ、より学生生活を円滑に進める為の窓口となってほしい。
- もう少し学生を優しく扱ってほしい。非常に横柄な態度をとられることが多く、鳥取大学に対して、不満を抱くとしたらここであると思います。正直、その点に関してはガッカリさせられています。
- 事務職員全体にやる気がない。もちろん好印象の人もいるが、大体は利用しようとする「めんどくさい」と思っているのが伝わってくる対応をされる。学生を助けようという姿勢が全く見えない。「人間力～」などと言う前に普通の大学では当たり前のことをしっかりやってほしい。
- 学生に人間力を求めているのであれば事務職員の人間力を向上させるべきです。
- 笑顔で接していただけるとありがたいです。
- 対応を迅速に
- いつも学生のわがままに付き合ってくれてありがとうございます。
- いつでも、丁寧な対応をしてくださり、ありがとうございます。
- 良くないという評判を耳にすることはありましたが、学生側の態度等にも問題があるのではないかと思いますので…。
- あまり、事務職員さんが何をやっているのかわからないのでコメントできません。

大学院学生

- 教務の人の対応が悪いときがあるので、改善した方が良いと思う。基本的にはよい人ばかりだが、たまに、めんどくさそうにする人がいる。学生相手に気持ちはわかるが、印象がよくない。
- 一部の事務職員の方の態度がすごく悪いと感じます。事務処理の仕事も大切だとは思いますが、学生への対応というのも重要な仕事ではないでしょうか。偉そうなことを言ってますみませんが、改善のほうよろしくお願いします。
- 何かを聞きにいったとき、面倒なのか、冷たくあしらわれたことがあった。忙しいのはわかるが、もう少し優しく対応してほしい。
- 学生といえど、成人者も多いのですから、もう少し対等な目線での対応を希望します。上から、とは感じませんが、少々子供扱いのように感じます。それでは学生に信頼感を持ってもらえないのではないのでしょうか?
- 笑顔で対応する心がけを持って下さい。
- 証明書等の発行をもう少し早くしてほしい。
- 親身になってくださる。
- 日々の事務仕事、ありがとうございます。見えにくい仕事ですが、支えられていることを忘れません。
- 見えにくい仕事ですが、いつもありがとうございます。

学生生活実態調査

学部学生

- このアンケートは書きづらいです。せめて質問冊子にしてほしかったです。
- このアンケートですが番号に○をつけて提出するような形にしないと…いちいち別紙に数字を書くような形だから回収率が悪いのだと思います。
- このようなアンケートに意義はあるのか。

参考資料

4

平成22年度学生生活実態調査 ①基本編

設問

1. 基本的事項について

問1. 所属はどちらですか。

1. 学部 2. 大学院

問2. 問1で1と答えた人に尋ねます。あなたは、どの学部(学院)に所属していますか。

1. 地域学部(教育地域科学部を含む) 2. 医学部 3. 工学部 4. 農学部

問3. 問1で2と答えた人に尋ねます。あなたはどの研究科に所属していますか。

1. 地域学研究所——(修士課程—地域創造専攻、地域教育専攻)
2. 医学系研究所——(修士課程—臨床心理学専攻)
3. 医学系研究所——(博士前・後期課程—生命科学専攻、機能再生医科学専攻、保健学専攻)
4. 医学系研究所——(博士課程—医学専攻)
5. 工学研究所——(博士前・後期課程—機械宇宙工学専攻、情報エレクトロニクス専攻、化学・生物応用工学専攻、社会基盤工学専攻)
6. 農学研究所——(修士課程—フィールド生産科学専攻、生命資源科学専攻、国際乾燥地科学専攻、
(生物生産科学専攻、農林環境科学専攻、農業経営情報科学専攻))
7. 連合農学研究所—(博士課程—生物生産科学専攻、生物環境科学専攻、生物資源科学専攻、
国際乾燥地科学専攻)
8. 連合獣医学研究所

問4. 性別はどちらですか。

1. 男性 2. 女性

問5. 入学年度はいつですか。

1. 平成15年度以前 2. 平成16年度 3. 平成17年度 4. 平成18年度
5. 平成19年度 6. 平成20年度 7. 平成21年度 8. 平成22年度

2. 経済状況について

問6. あなたの生活や勉学の費用を主として負担している人(家計支持者)は誰ですか。

1. 父 2. 母 3. 本人 4. 配偶者 5. その他()

問7. 「問6」の家計支持者の年収はいくらですか。

1. 250万円未満 2. 250万円～500万円未満 3. 500万円～750万円未満 4. 750万円～1000万円未満
5. 1000万円～1250万円未満 6. 1250万円～1500万円未満 7. 1500万円～1750万円未満
8. 1750万円～2000万円未満 9. 2000万円以上 10. わからない

問8. あなたの平均的な1か月の収入は、この1年間でいくらぐらいですか。

選択肢に基づいて各項目ごとに回答してください。

収入合計()

内訳

- 1) 家族等からの仕送り()
2) 奨学金()
3) アルバイト収入()
4) 給与()
5) その他()

(選択肢)

1. 1万円未満 2. 1万円～3万円未満
3. 3万円～5万円未満 4. 5万円～7万円未満
5. 7万円～9万円未満 6. 9万円～11万円未満
7. 11万円～13万円未満 8. 13万円～15万円未満
9. 15万円以上

問9. 「問8」の収入はどのように支出しましたか。

この1年間の平均的な1か月の支出の状況を選択肢に基づいて各項目ごとに回答してください。

支出合計()

内訳

- 1) 修学費(教科書、参考書、公務員講座費等)()
2) 課外活動費(サークル活動、ボランティア活動等)()
3) 通学費(ガソリン代等を含む)()
4) 食費()
5) 雑貨(衣料等)()
6) 住居費(家賃、光熱水料費含む)()
7) 娯楽嗜好費(旅行を含む)()
8) 車やバイクの維持費()
9) 通信費(携帯電話、インターネット等)()
10) その他(上記に含まれない経費)()

(選択肢)

1. 1万円未満 2. 1万円～3万円未満
3. 3万円～5万円未満 4. 5万円～7万円未満
5. 7万円～9万円未満 6. 9万円～11万円未満
7. 11万円～13万円未満 8. 13万円～15万円未満
9. 15万円以上

問10. あなたは、現在の自分の経済状態をどのように感じていますか。

1. 充分余裕がある 2. やや余裕がある 3. 普通である 4. やや苦しい 5. 非常に苦しい

3. 住居・通学方法について

問11. あなたの住居の種別はどれですか。

1. 自宅 2. 食事付下宿 3. 間借り・アパート(風呂・トイレの共同利用のもの) 4. アパート・マンション(専用のバス・トイレ・流し付)
5. 借家 6. 学寮 7. 親戚・知人宅 8. その他()

問12. あなたは、現在の住居に満足していますか。(自宅通学者は回答不要)

1. 非常に満足 2. 満足 3. 普通 4. やや不満足 5. 非常に不満足

問13. 「問12」の質問で4又は5と答えた人に尋ねます。(自宅通学者は回答不要)

その理由について、次のうちから該当するものを2つまで選んで回答してください。

1. 部屋が狭い 2. 家賃が高い 3. 建物が傷んで不潔である 4. 通学に不便 5. 環境が悪い 6. 家主・住人とのトラブル
7. 設備が悪い 8. 駐車場がない 9. その他()

問14. あなたの通学時間(片道)はどのくらいですか。

1. 10分未満 2. 10～30分未満 3. 30～60分未満 4. 60～90分未満 5. 90分以上

問15. あなたの通学方法は何ですか。(乗継の場合最も長い区間の手段を選んでください。)

1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. バス 5. 鉄道 6. 自家用車 7. その他()

4. アルバイトについて

問16. あなたは、この1年間にどの程度アルバイトをしましたか。

1. ほとんど毎日定期的にした 2. 週何日か定期的にした 3. 日曜日などの休日に限って
4. 長期休業期間中のみ重点的にした 5. たまに、必要に応じてした 6. 全くしなかった

問17. 「問16」の質問でアルバイトをしたと答えた人に尋ねます。

1) 主にどんなアルバイトをしましたか。

1. 家庭教師 2. 学習塾講師 3. スーパー・コンビニ店員 4. ファミレス、ファーストフード店員 5. 4. 以外の飲食店店員
6. 引越し手伝い 7. 6. 以外の肉体労働 8. イベントスタッフ 9. 商品販売 10. 一般事務
11. ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント 12. その他()

- 2)1 週間平均何時間くらいアルバイトをしましたか。
1. 3時間未満
 2. 3～10時間未満
 3. 10～15時間未満
 4. 15～20時間未満
 5. 20～25時間未満
 6. 25時間以上

3)アルバイトの収入は何に使いましたか。または使う予定ですか。

次のうちから主な用途を2つまで選んで回答してください。

1. 修学費(教科書、参考書、公務員講座費等)
2. 課外活動費(サークル活動、ボランティア活動等)
3. 通学費(ガソリン代等を含む)
4. 食費
5. 雑貨(衣料等)
6. 住居費(家賃、光熱水料費含む)
7. 娯楽嗜好費(旅行を含む)
8. 車やバイクの維持費
9. 通信費(携帯電話、インターネット等)
10. その他の経費()

5. 自宅または下宿等での生活について

問18. あなたは授業以外で1日何時間程度勉強していますか。

1. 1時間未満
2. 1～2時間
3. 2～3時間
4. 3～4時間
5. 4時間以上

問19. 授業以外で勉強する場所は、主にどこですか。

1. 大学の自習室
2. 図書館
3. 自宅・下宿
4. 友人宅
5. その他()

問20. 授業に関すること以外で1日平均何時間程度読書していますか。

1. 1時間未満
2. 1～2時間
3. 2～3時間
4. 3～4時間
5. 4時間以上

問21. 自宅または下宿で1日平均何時間程度テレビを見ていますか。

1. 1時間未満
2. 1～2時間
3. 2～3時間
4. 3～4時間
5. 4時間以上

問22. 自宅または下宿で1日平均何時間程度インターネット、メールをしていますか。

1. 1時間未満
2. 1～2時間
3. 2～3時間
4. 3～4時間
5. 4時間以上
6. 接続していない

6. 課外活動について

問23. あなたは、平成22年7月1日現在、サークル等(同好会を含む)に入っていますか。

該当する主なものについて回答してください。

1. 学内の体育系サークル等に参加
2. 学内の文化系サークル等に参加
3. 学外のサークル等に参加
4. 学内及び学外のサークル等に参加
5. 以前加入していたが現在加入していない
6. 加入したことがない

問24. あなたがサークル等に入っている主な理由を、次のうちから2つまで選んで回答してください。

1. 活動内容に興味があるから
2. 集団活動に魅力があるから
3. 友人を得るため
4. 知識・資格を得るため
5. 先輩・友人に勧められて
6. 健康増進のため
7. 自分の特技を伸ばすため
8. 就職に有利なため
9. その他()

問25. あなたは、サークル等で1週間平均に何時間くらい活動していますか。

1. 2時間未満
2. 2～5時間未満
3. 5～10時間未満
4. 10～15時間未満
5. 15～20時間未満
6. 20時間以上

問26. サークル活動と学業の関係はどうか

1. 学業をかなり犠牲にしている
2. 学業を少し犠牲にしている
3. 学業と両立している

問27. ボランティア活動について尋ねます。

1)あなたは、最近1年間にボランティア活動をしたことがありますか。またはしていますか。

1. したことがある
2. している
3. したことがない

2)上記1)の質問で、1または2と答えた人に尋ねます。

①それは、どのような活動分野のものでしたか。(主なものを1つだけ)

1. 社会福祉関係
2. 教育、文化、学術関係
3. 国際交流・協力関係
4. 自然環境保護関係
5. 保健・衛生関係
6. 地域振興関係
7. その他()

②この1年間の活動日数はどの程度でしたか。

1. 3日以内
2. 4～7日
3. 8～14日
4. 15～30日
5. 31日以上

3)上記1)の質問で、3と答えた人に尋ねます。

今後、機会があれば活動してみたいと思いますか。

1. 機会があればしたい
2. したいが暇がない
3. 今は特段興味がでない
4. したいとは思わない

4)上記3)の質問で、1または2と答えた人に尋ねます。

活動するとすれば、どのような活動分野ですか。(主なものを1つだけ)

1. 社会福祉関係
2. 教育、文化、学術関係
3. 国際交流・協力関係
4. 自然環境保護関係
5. 保健・衛生関係
6. 地域振興関係
7. その他()

7. 人間関係について

問28. あなたは、どの程度付き合える友人がいますか。

1. 互いに希望や悩みを打ち明けられる友人がいる
2. 比較的親密に付き合える友人がいる
3. 一緒に話したり、遊んだりする程度の友人がいる
4. 日常の会話や、挨拶を交わす程度の友人がいる
5. 友人はいない

問29. 「問28」の質問で、1または2と答えた人に尋ねます。それはどのような友人ですか。

次のうちから主なもの2つまで選んで回答してください。

1. 自分の学部・学科・研究科等の仲間
2. 中学校・高等学校時代の仲間
3. 下宿・学寮や近所の仲間
4. サークル等の仲間
5. アルバイトの仲間
6. 遊びの仲
7. その他()

問30. あなたは、教員と親しく話しあったり、または相談したりすることがありますか？

1. ある
2. ない

問31. 「問30」の質問で1と答えた人に尋ねます。

その内容は、どのようなものですか。次のうちから2つまで選んで回答してください。

1. 勉強で困った時
2. 就職などで
3. 人間関係・恋愛等について
4. その他()

問32. 「問30」の質問で2と答えた人に尋ねます。

それはどのような理由によるのですか。

1. 話や相談をしたいが、その機会がない
2. 何となく話しにくい
3. 必要がない
4. その他()

問33. あなたは、本学の教員にどんなことを最も期待しますか。

1. 学問の重要性、楽しさを教えてほしい
2. 講義内容をもっと充実してほしい
3. 研究の成果を授業に還元してほしい
4. 休講をなくしてほしい
5. 学生と日常的、個人的な関わりや対話の場を持ってほしい
6. 学問だけでなく、人生の指導者にもなってほしい
7. その他()

問34. あなたは、保護者と親しく話しあったり、又は相談したりすることがありますか？

1. ある
2. ない

問35. 「問34」の質問で1と答えた人に尋ねます。

その内容は、どのようなものですか。次のうちから2つまで選んで回答してください。

1. 成績について
2. 就職などで
3. 人間関係・恋愛等について
4. 経済的なことで
5. その他()

問36. 「問34」の質問で2と答えた人に尋ねます。

それはどのような理由によるのですか。

1. 話や相談をしたいが、その機会がない
2. なんとなく話しにくい
3. 必要がない
4. その他()

8. 学生生活について

問37. あなたは、現在の学生生活に満足していますか。

1. 非常に満足
2. 満足
3. 普通
4. やや不満足
5. 非常に不満足
6. わからない

問38. 「問37」の質問で4または5と答えた人に尋ねます。

その理由は何ですか、次のうちからその主な理由を2つまで選んで回答してください。

1. 授業が面白くない
2. 気に入ったサークル等がない
3. 教員との接触の機会が少ない
4. 友人が出来ない
5. 大学の施設・設備が良くない
6. 学内に活気がない
7. 鳥取大学に魅力がない
8. その他()

問39. あなたは、現在学生生活の中でどのような点に最も重点をおいて行動していますか。

1. 勉強・研究をする
2. 課外活動をする
3. 教員の指導を受ける
4. 就職の準備をする
5. 友人を得て豊かな人間関係を結ぶ
6. レジャー等生活を楽しむ
7. アルバイトをする
8. 勉強も楽しみもほどほどにする
9. 特にない
10. その他()

問40. あなたは、平成21年10月1日から構内全面禁煙化が実施されていることを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問41. あなたは、煙草を習慣的に吸いますか。

1. 吸う
2. 吸わない

問42. あなたは、構内全面禁煙をどう思いますか。

1. 支持する
2. 支持しない

問43. 鳥取の印象について尋ねます。該当すると思うものを3つまで選んで回答してください。

1. 住んでいて好きだ(住みやすい)
2. 自然環境が素晴らしい
3. 食べ物がおいしい
4. ずっと住みたい
5. 住んでいて嫌だ(住みにくい)
6. 不便である
7. 冬が大変だ
8. 早く別の所へ行きたい
9. その他()

平成22年度学生生活実態調査 ②学生支援体制編

設問

1. 経済支援体制について

問1. あなたは、なんらかの奨学金を受けていますか。

1. 日本学生支援機構奨学金を受けている
2. 日本学生支援機構以外の奨学金を受けている
3. 申請したが不採用になった
4. 申請しなかった

問2. あなたは給付型奨学金制度(貸与型とは異なり、卒業後に返還しなくてよい制度)が必要だと思いますか。

1. 必要である
2. 必要でない
3. その他()

問3. あなたは、平成22年度前期の授業料免除を申請しましたか。

1. 申請した
2. 申請しなかった

問4. 「問3」で2と答えた方に尋ねます。申請しなかった主な理由は何ですか。

1. 制度を知らなかった
2. 制度は知っているが免除基準【学力・経済基準】に該当しないと思った
3. 経済的に免除の必要がない
4. その他()

問5. 授業料免除について要望することがあります。2つまで選択し回答してください。

1. 免除の条件を緩和して欲しい
2. 免除の枠を広げて欲しい
3. 事務手続きを簡略化して欲しい
4. 特に希望はない
5. その他()

2. 学習支援体制について

問6. 入学志望動機はどれですか。次のうちから2つまで選んで回答してください。

1. 志望する学部・学科・研究科がある
2. 将来の進路を考えて
3. 社会的評価が高い
4. 環境・施設設備が優れている
5. 国立大学だから
6. 地元だから
7. 実力相応だから
8. その他()

問7. あなたの入学時の大学への期待感及びあなた自身の学習意欲について、現在の心境を尋ねます。

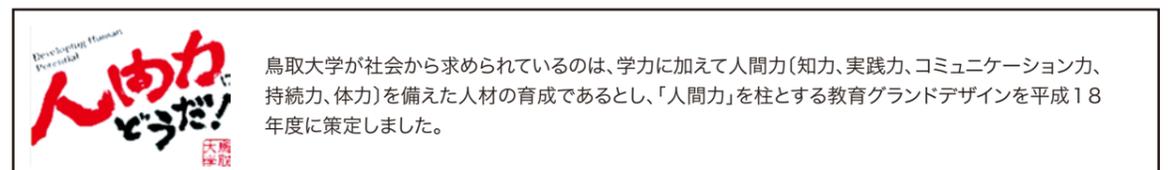
- 1) 大学への期待感は、
 1. 期待通りである
 2. どちらともいえない
 3. 期待はずれである(理由)
- 2) 学習意欲は、
 1. 高まっている
 2. どちらともいえない
 3. 減退している(理由)

問8. 鳥取大学が定めた「教育グランドデザイン」及びその柱である「人間力」について尋ねます。

- 1) あなたは、「教育グランドデザイン(大綱)」あるいは「人間力」について知っていましたか。
 1. 「教育グランドデザイン(大綱)」を知っている
 2. 「人間力」を柱とするいくつかのキーワードを知っている
 3. 知らない

2) 上記1)の質問で1または2と答えた人に尋ねます。どのようにして知りましたか。(複数回答可)

1. 大学のポスターを見た
2. 大学のホームページで見た
3. 全学共通科目履修案内で見た
4. その他()



問9. あなたは、鳥取大学のカリキュラムについて、どう思いますか

1. 期待通りである
2. どちらともいえない
3. 期待はずれである

問10. 「問9」で2または3と答えた人で、カリキュラムに不満があるとすれば、どのような点にありますか。

- 1) 学部学生の人に尋ねます。全学共通科目について、主な不満理由を次の内2つまで選んで回答してください。
1. 必修科目が多すぎる
 2. 科目選択の幅が少ない
 3. 受けた科目がない
 4. 受けた科目と、必修科目が重複している
 5. 将来役立つ科目が多い
 6. その他()
- 2) 学部学生の人に尋ねます。専門科目について、主な不満理由を次の内2つまで選んで回答してください。
1. 必修科目が多すぎる
 2. 科目選択の幅が少ない
 3. 受けた科目がない
 4. 受けた科目と、必修科目が重複している
 5. 将来役立つ科目が多い
 6. その他()
- 3) 大学院学生の人に尋ねます。大学院の授業科目について、主な不満理由を次の内2つまで選んで回答してください。
1. 必修科目が多すぎる
 2. 科目選択の幅が少ない
 3. 受けた科目がない
 4. 受けた科目と、必修科目が重複している
 5. 将来役立つ科目が多い
 6. その他()

問11. 学部学生の人に尋ねます。「コミュニケーション英語」及び「情報リテラシ」以外で必携パソコンを利用していますか。

1. 全く利用していない 2. 利用している(主に利用している講義名: 演習名: 実験名:)

問12. 大学内でインターネットや電子メールを利用する際のネットワーク環境について満足していますか。

1. 満足している 2. 不満である(理由)

問13. 図書館の利用について
図書館に求めるものは何ですか？

1. 開館時間を長くしてほしい 2. 蔵書を増やしてほしい 3. 電子メディアの充実 4. その他()

問14. 事務職員の対応はどうか

1. よい 2. 普通である 3. 悪い 4. わからない

問15. 事務の窓口サービスについて、最も改善すべき点は、どんなところですか。

1. 窓口の応接態度 2. 事務職員の知識 3. 事務処理の迅速化 4. その他()

問16. 大学のキャンパス環境について尋ねます。(米子地区の人は、米子キャンパスの環境について回答してください。)

1. 非常に満足 2. 満足 3. 普通 4. やや不満足 5. 非常に不満足

問17. 鳥取大学の施設等で整備充実してほしいのはどれですか。
次のうちから3つまで選んで回答してください。

1. 講義室・実験室・研究室
2. 図書館
3. 控室・談話室
4. 福利厚生施設(食堂・売店等)
5. 保健管理センター
6. 自習室
7. 体育・課外活動施設
8. ホール・会議室
9. 駐輪・駐車場
10. 就職情報資料室
11. その他()

3. 生活支援体制について

A. 学生相談について

問18. あなたは、鳥取地区に「なんでも相談」米子地区に「学生相談窓口」のあることを知っていましたか。

1. 知っている 2. 知っているが利用したことがない 3. 知らない

「なんでも相談」は、共通教育棟B棟1階の学生部生活支援課に、「学生相談窓口」は、医学部旧保健学科棟1階の学務・研究課にあります。

問19. 鳥取地区の人に尋ねます。あなたは鳥取地区にピアサポート相談(学生による学生のための相談窓口)があることを知っていましたか。

1. 知っている 2. 知っているが利用したことがない 3. 知らない

「ピアサポート相談」の詳細については、下記の学生部生活支援課連絡先にお問い合わせください。

ピアサポーターを募集しています

なにか人の役に立つことがしたい 他の学生といろいろな話をしたい 友達の輪を広げたい 教員を目指している人

興味のある人は学生部生活支援課にご連絡ください

TEL: 0857-31-5058 E-MAIL: st-gakuseishi@adm.tottori-u.ac.jp

問20. 鳥取大学学生相談ホームページについて尋ねます。あなたは、学生相談室ホームページを利用したことがありますか。

1. 利用したことがある 2. 相談したいことがあれば利用する 3. 利用しない(理由) 4. 知らない

URL: <http://www.counselor.zim.tottori-u.ac.jp/> E-MAIL: soudan@adm.tottori-u.ac.jp

修学及び進路に関する事項については掲示板形式になっています。対人関係、生活及び心理的な悩みに関する相談は、メール等で回答します。

問21. あなたは、ハラスメントの防止に関する規則があることを知っていますか。

1. 内容を知っている 2. 内容は知らないがあることは知っている 3. 知らない

問22. あなたは、ハラスメント相談員がいることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問23. あなたは、学生にも懲戒処分があり、その規則があることを知っていますか。

1. 内容を知っている 2. 内容は知らないがあることは知っている 3. 知らない

問24. あなたは、緊急連絡先(学生相談窓口を含む)QRコードがあることを知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない



B. 健康について

問25. 現在、あなたの健康状態は、自分でどう思っていますか。

1. 良好 2. 普通 3. 良くない

問26. 保健管理センターの利用について尋ねます。

1) あなたは、今年度の定期健康診断を受けましたか。

1. 検査項目の全部を受けた 2. 受けなかった

2) 上記1)の質問で2と答えた人に尋ねます。その主な理由は何ですか。

1. 知らなかった 2. 忘れていた 3. 授業があった 4. サークル活動があった 5. 就職活動があった 6. アルバイトがあった 7. 受けるのが面倒だから 8. 健康なので受ける必要がないと思った 9. その他()

3) あなた(学部1年生等昨年度は鳥取大学にいなかった人以外)は、平成21年度中に、定期健康診断以外で保健管理センターを利用したことがありますか。該当するものを全て選んでください。

1. 医師による診療 2. 応急処置 3. 保健師・看護師による健康相談 4. 精神健康相談・カウンセリング 5. 健康診断の再検査 6. 臨時健康診断 7. 健康診断書の発行 8. 自動血圧計・体脂肪測定器・健康機器の利用 9. なし 10. その他()

問27. あなたは、現在、何か不安や悩みがありますか。

1. 何もない 2. 誰もが感じる程度のものがある 3. やや深刻なものがある 4. 深刻なものがある

問28. 「問27」の質問で3または4と答えた人に尋ねます。
その主な原因と思うものを、次のうちから3つまで選んで回答してください。

1. 身体的問題 2. 精神的問題 3. 学業・単位 4. 転学部・転学科 5. 進路・就職 6. 課外活動 7. 人生・生き方 8. 異性 9. 対人関係(8以外) 10. 性格・適性 11. 家族・家庭 12. 経済的問題 13. その他()

問29. あなたは、自分の不安や悩みについてどのように対処していますか。

次のうちから3つまで選んで回答してください。

1. 自分で解決
2. 家族に相談
3. 友人・先輩に相談
4. 教職員に相談
5. 保健管理センターで相談
6. その他()

C. 学寮について

問30. 本学には鳥取地区に男子寮(定員196人)と女子寮(定員72人)が、米子地区に医学部学寮があります。鳥取地区学寮は現在2人部屋ですが、医学部学寮は平成21年度に個室化改修工事を行い、改修後の定員は男子53人、女子12人(セキュリティ付き女子学生専用階)となりました。鳥取地区学寮についても、まず女子寮を今年度個室化改修工事を行い、財源が確保できれば、男子寮も将来同じように個室化改修工事を行う予定です。完成時は男子寮(定員122人)、女子寮(定員47人)となることが見込まれています。

また、女子寮の工事内容はすでに完成している医学部学寮の仕様と同じにする方針であり、男子寮も将来は同様の方針であり、鳥取地区学寮は概ね次のようになることが予定されています。

・家賃月額17,000円(鳥取地区学寮は現在700円) ・居室面積約14㎡(現在は2人部屋ですが、個室になります。) ・エアコン有り(現在は設置されていません。) ・バス・トイレ・洗面台ユニット有り (現在は共同浴室、共同トイレ・共同洗面室)	・ミニキッチン(IHヒーター)有り (現在は簡単な共同の自炊設備があります。) ・洗濯機は現行どおり共同ランドリー(男女別)での利用となります なお、部屋の中に洗濯機を置くための排水溝(洗濯パン)はありません。
建物の玄関等に電子錠、防犯カメラ設置、在寮期間は2年間のみ	

1)鳥取地区の人に尋ねます。

① あなたの在学中に個室化改修工事が完成した場合、入居を希望しますか。

1. 入居を希望する
2. 入居を希望しない

② 上記①で1と答えた人に尋ねます。入居を希望する理由は何ですか。

1. 家賃が安いから
2. 大学に近いから
3. 改修したばかりで部屋が新しいから
4. 防犯面で安心だから
5. 多くの学生と交流できるから
6. その他()

③ 上記①で2と答えた人に尋ねます。入居を希望しない理由は何ですか。

1. 家賃が高いから
2. 大学から遠いから
3. 引越が面倒だから
4. 共同生活が苦手だから
5. その他()

2)米子地区の人に尋ねます。

① 定員に空きがあった場合、入居を希望しますか。

1. 入居を希望する
2. 入居を希望しない

② 上記①で1と答えた人に尋ねます。入居を希望する理由は何ですか。

1. 家賃が安いから
2. 大学に近いから
3. 改修したばかりで部屋が新しいから
4. 防犯面で安心だから
5. 多くの学生と交流できるから
6. その他()

③ 上記①で2と答えた人に尋ねます。入居を希望しない理由は何ですか。

1. 家賃が高いから
2. 引越が面倒だから
3. 共同生活が苦手だから
4. その他()

4. 就職支援体制について

問31. あなたは、将来どのような職業に就きたいと思いますか。次のうちから2つまで選んで回答してください。

1. 大学・官公庁等の教育・研究職
2. 教員
3. 1及び2以外の公務員
4. 企業等の技術・研究職
5. 企業等の(総合職・営業職・一般職)
6. 専門職(医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業)
7. マスコミ関係(新聞社・放送関係)
8. 自営業(家業を継ぐ場合も含む)
9. 芸術・スポーツ関係等
10. いわゆるフリーターでいたい
11. 未だ考えていない
12. その他の職業()

問32. あなたが就職する場合、どのような点を重視して選択しますか。次のうちから重要と思う順に3つまで選んで回答してください。

1. 仕事の内容
2. 自分の能力・専門知識が生かせる
3. 社会に貢献
4. 安定
5. 知名度
6. 将来性
7. 国際性がある
8. 技術力があり研究開発に熱心
9. 収入
10. 休みが多く余裕がある
11. 人材育成に熱心
12. 女性が活躍している
13. 福利厚生施設が充実
14. 企業の目的・製品に興味がある
15. 勤務地が出身地に近い
16. 勤務地が大都市
17. 勤務地の生活環境が良い
18. 親の希望を配慮する
19. その他()

問33. あなたが就職するとした場合、勤務地はどこを希望しますか。次のうちから希望する順に2つまで選んで回答してください。

1. 鳥取県
2. 中国・四国地区(鳥取県を除く)
3. 近畿地区
4. 東海・北陸地区
5. 東京地区
6. 関東地区(東京を除く)
7. 東北・北海道地区
8. 九州・沖縄地区
9. 外国
10. 特にこだわらない

問34. あなたは、就職活動に関して、大学側にどのようなことを最も期待しますか。

1. 今のままでよい
2. 教員がもっと積極的に助言・指導・斡旋してほしい
3. 学生部就職支援課がもっと積極的な情報提供やガイダンス等を実施して欲しい
4. 自己開拓するので、特に期待しない
5. わからない
6. その他()

問35. 学生部就職支援課について尋ねます。

1. 利用したことがある
2. 知っているが利用したことはない
3. 知らない

5. 進学について

問36. 学部学生の人に尋ねます。あなたは、卒業後、どのような進路を考えていますか。

1. 本学大学院に進学
2. 他大学大学院に進学
3. 就職する
4. 家業に従事する
5. 自分で事業をする
6. 資格取得のための勉強を続ける
7. 現在考慮中
8. まだ全然考えていない

問37. 「問36」の質問で1と答えた人に尋ねます。(学部学生のみ回答)

本学大学院で研究を進める上で、大学に要望することがあります。次のうちから2つまで選んで回答してください。

1. 奨学金の額及び枠の増大
2. スタッフの充実
3. 設備・環境の充実
4. 研究費・旅費の補助
5. TA, RAの採用枠の拡大
6. 国内外の大学との研究交流
7. 企業・官公庁との研究交流
8. その他()

問38. 「問36」の質問で2と答えた人に尋ねます。(学部学生のみ回答)

他大学の大学院を希望する理由は何ですか。2つまで選んで回答してください。

1. 志望する他大学大学院の方が、社会的評価が高いから
2. 志望する他大学大学院の方が、専門を活かせる職業に就職できる可能性が高いと思うから
3. 志望する他大学大学院の方が、より高度な研究が行えると思うから
4. 鳥取大学の教員に魅力を感じないから
5. 自宅から通えるから
6. その他()

問39. 「問36」の質問で3から6のいずれかと答えた人に尋ねます。大学院へ進学を希望しない理由は何ですか。(学部学生のみ回答)

1. 経済的理由
2. 専門の勉強は学部で充分
3. 進学するメリットが感じられない
4. その他()

問40. 修士・博士前期課程大学院学生の人に尋ねます。あなたは、大学院修了後、どのような進路を考えていますか。

1. 本学博士後期課程に進学する
2. 他大学博士後期課程に進学する
3. 就職する
4. 家業に従事する
5. 自分で事業をする
6. 資格取得のための勉強を続ける
7. 現在考慮中
8. まだ全然考えていない

問41. 「問40」の質問で2と答えた人に尋ねます。(修士・博士前期課程大学院学生のみ回答)

他大学の大学院を希望する理由は何ですか。2つまで選んで回答してください。

1. 志望する他大学大学院の方が、社会的評価が高いから
2. 志望する他大学大学院の方が専門を生かせる職業に就職できる可能性が高いと思うから
3. 志望する他大学大学院の方が、より高度な研究が行えると思うから
4. 鳥取大学の教員に魅力を感じないから
5. その他()

問42. 「問40」の質問で3から6と答えた人に尋ねます。(修士・博士前期課程大学院学生のみ回答)

博士後期課程へ進学を希望しない理由は何ですか

1. 経済的理由
2. 専門の勉強は充分である
3. 進学するメリットが感じられない
4. その他()

6. その他

問43. 他の設問と重複しますが、大学及び学生生活全般についてももう一度尋ねます。鳥取大学に最も要望したいことを次の選択肢の中から3つまで選ぶとしたらどれですか。その他意見・要望があれば自由に記入してください。

1. カリキュラムの改革 2. 授業方法の改善 3. 教育スタッフの充実 4. 単位認定や試験方法の改善
 5. 講義室・実験室の充実 6. 図書館の充実 7. 福利厚生施設の充実 8. 体育・課外活動施設の充実
 9. 駐輪・駐車場の充実 10. 自習室の充実 11. 院生研究室等の充実 12. 奨学金・授業料免除等の充実
 13. 就職対策の充実 14. 学生相談体制及び保健管理センターの充実 15. 大学祭等学生行事への支援

問44. 「基本編」の「問33」で本学の教員にどんなことを最も期待するかを尋ねましたが、他に本学の教員に対して意見・要望があれば自由に記入してください。

問45. 「問14」及び「問15」で本学の事務職員の対応等を尋ねましたが、他に本学の事務職員に対しての意見・要望があれば自由に記入してください。

.....

以上で質問を終わります。
 長時間ご協力ありがとうございました。
 いま一度記入漏れがないよう点検して下さい。

平成22年度学生生活実態調査解答用紙(表)

①基本編

1.基本事項について

問1
 問2
 問3
 問4
 問5

2.経済状況について

問6 その他()
 問7
 問8 収入合計
 内訳1)
 内訳2)
 内訳3)
 内訳4)
 内訳5)
 問9 支出合計
 内訳1)
 内訳2)
 内訳3)
 内訳4)
 内訳5)
 内訳6)
 内訳7)
 内訳8)
 内訳9)
 内訳10)
 問10

3.住居・通学方法について

問11 その他()
 問12
 問13 その他()
 問14
 問15 その他()

4.アルバイトについて

問16
 問17 1)
 その他()
 2)
 3)
 その他()

5.自宅または下宿等での生活

問18
 問19 その他()

問20
 問21
 問22

6.課外活動について

問23
 問24 その他()
 問25
 問26
 問27 1)
 2)①
 その他()
 2)②
 3)
 4)
 その他()

7.人間関係について

問28
 問29 その他()
 問30
 問31 その他()
 問32 その他()
 問33 その他()
 問34
 問35 その他()
 問36 その他()

②学生支援体制編

1.経済支援体制について

問1
 問2 その他()
 問3
 問4 その他()
 問5 その他()

2.学生支援体制について

問6 その他()
 問7 1) 理由()

問7 2) 理由()
 問8 1)
 2)
 その他()
 問9
 問10 1)
 その他()
 2)
 その他()
 3)
 その他()
 問11 講義名()
 講義名()
 講義名()
 問12 理由()
 問13 その他()
 問14
 問15 その他()
 問16
 問17 その他()

3.生活支援体制について

A.学生相談について
 問18
 問19
 問20 理由()
 問21
 問22
 問23
 問24

B.健康について

問25
 問26 1)
 2)
 その他()
 3)
 その他()
 問27
 問28 その他()
 問29 その他()

C.学寮について

問30 1)①
 1)②
 その他()

(裏面に続く)

平成22年度学生生活実態調査解答用紙(裏)

(表面からの続き)

問30 1)③

その他()

2)①

2)②

その他()

2)③

その他()

4.就職支援体制について

問31

その他()

問32

その他()

問33

問34

その他()

問35

5.進学について

問36

問37

その他()

問38

その他()

問39

その他()

問40

問41

その他()

問42

その他()

6.その他

問43

大学及び学生生活全般についての
意見・要望

問44 教員に対する意見・要望

<備考>

所定の回答欄のうち、「その他」、「理由」、
「講義名等」が()内では記入スペース
が不足する場合は以下の余白に記入し
てください。

問45 事務職員に対する意見・要望

学生生活実態調査専門委員会委員名簿

委員長 学生部生活支援課長 高崎一成 平成20.4.1～

地域学部教授 矢野孝雄 平成20.4.1～

医学部教授 中込和幸 平成20.4.1～平成22.3.31

医学部教授 林 一彦 平成22.4.1～

工学研究科教授 大澤克幸 平成20.4.1～平成22.3.31

工学研究科教授 齋本博之 平成22.4.1～

農学部教授 會見忠則 平成20.4.1～

大学教育支援機構(入学センター)准教授 森川 修 平成22.4.1～

大学教育支援機構(教育センター)准教授 永松利文 平成21.9.1～平成22.3.31

大学教育支援機構(教育センター)准教授 武田元有 平成21.9.1～

大学教育支援機構(キャリアセンター)准教授 長尾博暢 平成22.4.1～

保健管理センター保健師 浜本扇代 平成21.9.1～

学生部生活支援課学生支援係長 柴田栄治 平成21.9.1～

委員会事務担当 学生部生活支援課学生支援係 米山弥帆